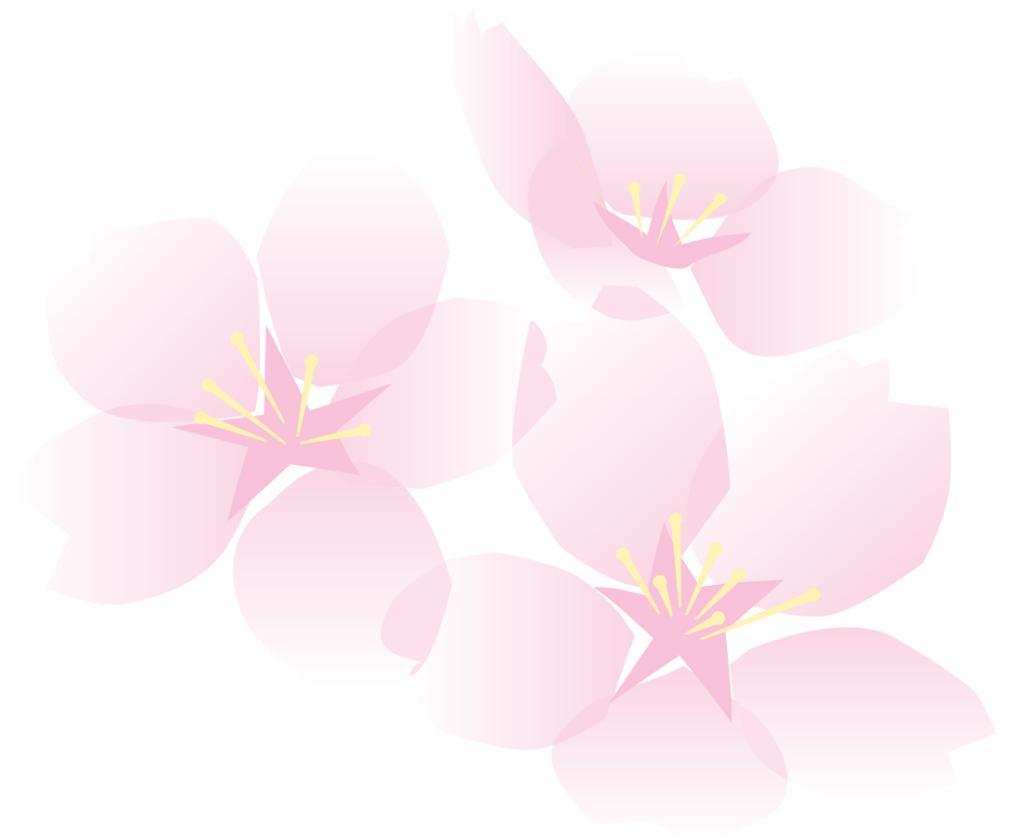


年報-2022

ANNUAL REPORT of
SEIREI SAKURA CITIZEN HOSPITAL



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
聖隷佐倉市民病院

〒285-8765 佐倉市江原台2-36-2 TEL043-486-1151 FAX043-486-8696
<http://www.seirei.or.jp/sakura/>

2022

聖隷佐倉市民病院

年報

SEIREI SAKURA



病院の理念

キリスト教精神に基づく「隣人愛」に立ち

患者本位のより良質な医療を求めて最善を尽くします

目 次

1.	2022 発刊によせて	1
2.	事業報告	3
3.	沿革・概要	6
	・ 沿革	7
	・ 病院概況	11
	・ 施設基準	15
	・ 2023 年度組織図	19
	・ 設備の概要	21
	・ 主な器械備品	23
	・ 2023 年度会議・委員会名簿	25
	・ 職種別人員	27
4.	病院統計	28
5.	部門報告	42
	● 診療部	43
	● 看護部	63
	● 医療技術部	78
	● 事務部	85
	● 医療安全管理室	94
	● 感染管理室	95
	● 健診センター	96
	● せいらい訪問看護ステーション佐倉	97
	● せいらいケアプランセンター佐倉	98
6.	研究・業績	100

2022 発行によせて

新型コロナ感染症が猛威を振るい始めてから、早いもので丸3年が経ちました。しかし、この不自由な時代、特に医療機関にとってはシワ寄せが大きかった不遇な時代にもいよいよトンネルの出口が見え始めてきました。「いやあ、コロナで大変だったけど頑張りました」的なこの年報序文を書くのも今回が最後であることを切に願います。

さて、私たちの病院の2022年度を項目ごとに振り返ってみます。

1. コロナ診療

入院患者数 164 名（通算 314 名）、発熱外来受診者数 3,801 名（通算 6,493 名）、ワクチン接種回数 12,551 回（通算 44,865 回）。

千葉県からの要請に基づき、2021年10月末でコロナ病棟を閉鎖していましたが、第7波による感染患者数続出に対応するため2022年7月26日に急遽再開し、さらに年明け早々の巨大な第8波襲来に際しては病床数を大幅に増やすため、2023年1月6日にコロナ病棟を丸ごと移転しました。もちろんどちらも、決行に際しては検討事項や合意や準備が山ほどありましたが、ほんの数日で成し遂げることができました。その後も、日々変化する感染状況やマンパワー状況に応じて、秒速で態勢の再編成を続けています。

また、通院透析患者さんの感染拡大阻止にも細心の注意を払いました。来院時のスクリーニング、感染者の個室透析、導線の確認、拡大時には透析センター全体でのゾーニング、等々考え得る全ての予防策を徹底的に講じ、患者さんの安全を100%確保しています。

2. 通常診療

入院患者1日平均296.2人、外来患者1日平均832.1人、紹介患者数6,334名、手術件数3,225件、総透析回数41,171回、救急車受け入れ数2,068台。

コロナ診療の拡大と縮小の波に合わせて、通常診療の受け入れ態勢を日々調整することに腐心しました。結果、地域医療機関からご紹介いただく患者さんにはご迷惑をかけずに済んだものの、救急車の受け入れを制限せざるを得ない時期が発生してしまいました。おそらく全国の病院が同じ悩みを抱えていたことでしょうが、コロナ病棟が満床の際に発熱救急患者さんを受け入れることは物理的に困難でした。

ひとつ活気に満ちた報告も。2022年度当院通常診療の部で驚異的な活躍をしてくれた眼科について紹介させていただきます。担当医ならびに関連スタッフ全員の献身的な努力で、外来患者数が急増し手術件数は計866件（2021年度696件）に達

しました。地域の皆さまからの厚い信頼に感謝いたします。

3. 病院機能評価受審

4 回目の更新を目指して 2022 年 10 月に受審しました。結果はもちろん合格でしたが、晴れやかに喜ばずモヤモヤしたしこりが残っています。あくまでも私見ですが、審査当日には正確に見聞したうえで評価を下すこと、勘違いは速やかに是正すること、という根本的な改善を機構に対して願います。まあ、いかなる組織も、たとえ良質な医療を求め続けることが使命の組織であったとしても、時間とともに硬直化は免れないものなのか、と反面教師的な学習にはなりましたが…。いずれにしても「合格」までの道程における職員の頑張りには感謝しかありません。

4. ひと回り成長できたこと

上記 1～3 までを病院全体で同時進行的に取り組んだ 1 年間でした。チーム力というスペックが何百馬力も向上した手応えを感じています。めまぐるしく変わるコロナの状況に合わせて、診療態勢を柔軟にそして素早く作り替える芸当を日々実行しつつ、同時に機能評価受審の準備も抜かりなく進めてくれた職員全員が当院の財産です。自慢ついでにもうひとつ。この超多忙な 2022 年度にかつてないほどたくさんの「お褒め・お礼の投書」をいただきました。7 月の第 7 波、10 月の機能評価受審、1 月の第 8 波と、どんどん心の余裕が奪われていくなかで、お礼投書が増え続ける、という不思議な反比例現象が現在進行中です。困難な時期を乗り越えることでこそ身につけた、医療者として覚悟や姿勢を評価していただいているのかもしれませんが。地域貢献を旗印として掲げている当院の成長の証だと信じています。

以上、当院の 2022 年度を俯瞰してみました。コロナ明けの新時代が到来するであろう 2023 年度も、チーム全体で習得した柔軟性と機動力を活かし、地域の皆さまへ良質な医療をお届けすることをお約束いたします。

病院長 鈴木理志

聖隷佐倉市民病院 事業報告

2022年度は、コロナ診療と一般診療の両立に加え、病院機能評価、診療報酬改定、適時調査などにも対応し、質の向上と経営改善の両面に取り組んだ1年であった。

コロナ診療においては、2022年7月に職員と入院患者の感染が拡大したため、B4病棟を休棟しコロナ病棟（C3病棟）を再開した。11月には一般病床が満床となり、C3病棟を継続しつつB4病棟にて入院患者の受け入れを再開した。そして、2023年1月には、再びコロナ入院患者が急増したため、急遽コロナ病棟をC3病棟からB4病棟へ変更し、さらにA5病棟を縮小しマンパワーをB4病棟へ集約した。これらの柔軟な病棟編成により、最大26名のコロナ入院患者を受け入れることができた。一般診療においては、2021年度に引き続き、救急車の積極的な受け入れ、地域連携の強化に取り組んだ。C3病棟再開により一般病棟は実質315床となったが、柔軟性と機動力を活かし稼働率9割を維持することができた。これらの努力の結果、3ヵ年経営改善計画2年目となる2022年度も予算を達成することができた。

1. 地域医療に貢献し、信頼され、選ばれる病院づくり

コロナワクチン接種、発熱外来を継続した。また、救急医療においては、コロナ陽性患者を含む年間2,068台の救急車を受け入れ、地域の救急要請に迅速に対応した。待ち時間対策として、外来診療開始時間の徹底や予約枠の見直しなどを実施した。また、利用者の声（投書）の運用を見直し、意見を広く集め、早期に対応し、改善ができる仕組みを整備した。

2. 安心・安全で質の高いサービスの提供

医療安全体制の整備に努め、専従の医療安全管理者を配置し、医療安全対策加算1を取得した。マニュアルの更新を行い、コロナ禍で滞っていた実地研修を感染管理室と協力し対策を講じて再開した。2022年10月には病院機能評価を受審し、4回目の更新を行った。訪問審査時のさまざまな視点からの意見を、当院の質向上に活用している。

3. 地域連携、院内連携により、地域に寄り添ったNo.1の病院を目指す

地域連携では、1週間以内返書の取り組みを継続した。また、歯科医との連携による周術期口腔管理の取り組みを2022年4月から開始し、69件の実績を上げた。院内連携では、健診センターと協働し、患者の要望の多いインフルエンザワクチンの接種枠を拡張した。また、2022年4月より大腿骨近位部骨折のデータベース登録を開始し、医師、看護師、理学療法士、事務が多職種協働で実施した。

4. この病院で働きたい、働き続けたいと思える環境づくり

医師の働き方改革では、勤務時間管理を通じて、労働実態の把握や超勤ルールの明確化を行った。また各職場で、超勤申請状況の定期配信や長時間労働職場、私用時間状況の共有を毎月行い、時間外労働が削減した。また、職員の理解促進や職場運営面の工夫により、男性職員の育児休職

が7名と大幅に増加した。

5. 変化する外部環境に対応した持続可能な経営基盤の構築

診療報酬改定では新たに20件の新規施設基準を取得した。コロナ感染の拡大に伴い、一般診療への影響が発生したが、日々の感染状況や一般診療への影響、病院方針を共有し、一般診療とコロナ診療の両立に取り組んだ。健診部門においては週次で予約の空き状況を共有する工夫を行った結果、人間ドックは前年比105%、8,219名を受け入れることができた。また、大規模災害を想定し、外部からの透析や外来などの流れを整備したBCPを策定し、運用を開始した。

6. 地域における公益的な取組み

コロナの影響により市民公開講座は開催できなかったが、地域情報誌を活用した病気予防、健康寿命延伸に繋がるための情報発信を行った。

【数値指標】

〈病院〉

項目	予算	実績	対予算	対前年	項目	予算	実績	対予算	対前年
外来患者数	830名	832名	100.2%	100.4%	入院患者数	310名	293名	94.5%	94.5%
外来単価	14,500円	14,940円	103.0%	99.6%	入院単価	53,900円	55,956円	103.8%	102.6%
職員数	805名	780名	96.8%	100.1%	病床稼働率	82.2%	77.7%	94.5%	94.5%

〈健診センター〉

項目	予算	実績	対予算	対前年	項目	予算	実績	対予算	対前年
受診者数	200名	194名	97.0%	100.0%	単価	16,800円	16,560円	98.6%	101.9%

〈せいのけい訪問看護ステーション佐倉〉

介護保険	予算	実績	対予算	対前年	医療保険	予算	実績	対予算	対前年
利用回数	360件	327件	90.8%	104.5%	利用回数	130件	128件	98.5%	123.1%
単価	8,200円	8,020円	97.8%	97.3%	単価	10,500円	10,519円	100.2%	93.9%

〈せいのけいケアプランセンター佐倉〉

項目	予算	実績	対予算	対前年	項目	予算	実績	対予算	対前年
利用回数	58件	59件	101.7%	168.6%	単価	10,400円	10,398円	100.0%	96.1%

せいのけい訪問看護ステーション佐倉/せいのけいケアプランセンター佐倉

2022年度は新型コロナウイルス感染症患者が安心して療養生活が過ごせるよう感染症対策及び整備を強化し感染者への訪問を行った。また、訪問看護では理学療法士を1名採用し、リハビリの充実を図った。ケアプランセンターでは、職員が1名増員となり支援体制の強化を図ることができた。

〈無料又は低額診療事業〉

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、減免実施率は20.5%であった。

沿革・概要

沿 革

2004年

(平成16年)

- 3月 国立佐倉病院の経営移譲により開設
一般病床200床
- 6月 印旛市郡医師会入会
増築棟・透析センター一定礎式
- 8月 救急告示取得
- 9月 千葉県より200床増床(計400床)について認可
- 10月 増築棟・透析センター竣工
神経内科・心療内科外来開始
- 11月 患者図書室ネーミング決定「さくらプラザ」

2005年

(平成17年)

- 2月 オーダリングシステム稼動(投薬・検査)
健診センター準備室開設
- 4月 印旛市郡二次救急輪番制参加
外来リハビリテーション開始
- 6月 B号館改修工事完了
- 7月 B3病棟(緩和医療科、リハビリテーション科)38床開設
(計238床)
健診センター開所
- 8月 緩和医療科外来開始
- 9月 血管外科外来開始
- 10月 亜急性期入院医療管理料病床取得(B3病棟の18床)
- 11月 オーダリングシステム二次稼動
(看護支援・画像生理・手術申込・リハビリ管理)
和漢診療科外来開始
- 12月 乳腺外科外来開始

2006年

(平成18年)

- 4月 柏原英彦 名誉院長就任、南昌平 院長就任
- 4月 一般病棟入院基本料7:1取得
- 6月 亜急性期入院医療管理料病床数変更(18床→15床)
- 7月 健診センター 政府管掌健康保険「生活習慣病予防健診」
実施医療機関に選定
- 10月 健診センター内にX線撮影装置を設置

2007年

(平成19年)

- 4月 婦人科、皮膚科外来開始、小児科外来を拡張移転
日本病院会「人間ドック・健診施設機能評価認定」取得
- 6月 C3病棟（緩和医療科）18床開設（計256床）
亜急性期入院医療管理料病床数変更（15床→12床）
- 9月 臨床研修病院（管理型）に指定
- 11月 日本医療機能評価機構の認定（Ver.5.0）を取得

2008年

(平成20年)

- 1月 亜急性期入院医療管理料病床数変更（12床→9床）
- 4月 医師臨床研修開始
- 6月 B2病棟（循環器科・外科）38床開設（計294床）
緩和ケア病棟入院料病床取得（C3病棟の18床）
- 7月 健診後外来開始
外来駐車場拡張
- 8月 形成外科外来開始
- 9月 病理科開設
- 10月 第2期工事着手
- 12月 北側駐車場拡張

2009年

(平成21年)

- 3月 外来医局棟竣工・泌尿器科外来を拡張移転
- 4月 B号館ライフライン供給設備機器更新
（エネルギー転換 重油からガスへ）
- 5月 健診センターに胃部検診車を導入
- 6月 第2期工事内 手術棟着手
- 7月 DPC対象病院に指定
院内保育室（さくらんぼ保育園）開設
- 9月 オーダリングシステム・ハードウェア更新

2010年

(平成22年)

- 1月 せいれい訪問看護ステーション佐倉開設
- 4月 手術棟竣工
リウマチ膠原病外来開始
リハビリテーション室移転
- 5月 新手術室（6室）稼働開始
- 8月 放射線治療科開設・放射線治療開始

2011年

(平成23年)

- 4月 代謝内分泌・生活習慣病センター開始
聖隷佐倉市民病院 糖尿病地域連携パス運用開始
- 10月 ホームページリニューアル

2012年

(平成24年)

- 3月 レントゲンフィルムレスシステム (PACS) 導入
- 4月 南 昌平 名誉院長就任、佐藤 慎一 院長就任
人間ドック・健診施設機能評価の認定を更新
- 11月 日本医療機能評価機構の認定を更新 (Ver. 6.0)

2013年

(平成25年)

- 2月 北側駐車場拡張
- 4月 第3期工事着手
3.0 テスラ MRI (GE 社製 Discovery750w) 稼働
- 6月 千葉県がん診療連携協力病院 (胃がん・大腸がん) に指定

2014年

(平成26年)

- 2月 外来棟竣工
- 3月 健診センター棟 (透析拡張含む) 竣工
新外来棟稼働
透析センター拡張フロア稼働、オンライン HDF 導入
10周年記念式典開催
- 4月 新健診センター棟稼働
- 5月 中央注射室・外来通院治療室移転
- 7月 院内保育所の敷地内移転 (定員40名)
- 8月 外来駐車場有料化開始
- 9月 透析センター改修フロア稼働

2015年

(平成27年)

- 2月 A2病棟5床増床、A3病棟5床増床 (計294床→304床)
- 3月 千葉県がん診療連携協力病院 (乳がん) に指定
- 4月 地域包括ケア病棟入院料病床取得 (B3病棟の38床)
- 8月 北側駐車場拡張
- 9月 一般撮影装置を FPD システムへ更新

2016年

(平成28年)

- 4月 VEPTR を用いた拡張性胸郭形成術を実施
- 10月 一般病棟入院基本料を病棟群単位で届出
(3棟148床:7対1入院基本料、2棟100床:10対1入院基本料)

2017年

(平成29年)

- 4月 人間ドック・健診施設機能評価の認定を取得
- 5月 病院基幹システム・ハードウェアの更新
- 11月 日本医療機能評価機構の認定 (3rdG : Ver. 1.1) を取得

2018年

(平成30年)

- 4月 急性期一般入院料2の届出
第4期工事着手
- 7月 電子カルテ稼働

2019年

- 3月 患者支援センターを開始

(平成 31 年)	E 駐車場（南西側駐車場）の新設
(令和元年)	6 月 せいいけケアプランセンター佐倉開設
	8 月 栄養科厨房リニューアル
	9 月 B 号館竣工
	10 月 病棟引越・再編成・増床（304 床→334 床）
	11 月 地域包括ケア病棟移転（334 床→338 床） 患者支援センターの拡張
	12 月 健診センターの拡張
2020 年	1 月 手術室の増室（6 室→8 室） リハビリテーション室の拡張
(令和 2 年)	2 月 禁煙外来開始
	4 月 A5 病棟 8 床増床（338 床→346 床） コロナ専用病棟設置
	5 月 放射線科移転
	7 月 新型コロナウイルス感染症重点医療機関指定 麻酔記録システム稼働
	8 月 A2 病棟 11 床増床、B5 病棟 8 床増床（346 床→365 床）
	10 月 許可病床 399 床へ変更
2021 年	1 月 新型コロナウイルスワクチン基本型接種施設指定
(令和 3 年)	4 月 佐藤 慎一 名誉院長就任、鈴木 理志 院長就任 病棟編成変更に伴い増床（365 床→377 床）
	9 月 内視鏡システム・内視鏡医療機器更新 がんセンターボード開始
	10 月 コロナ専用病棟閉鎖 オンライン資格確認システム稼働
2022 年	7 月 コロナ専用病棟再開 新型コロナウイルス感染症重点医療機関指定
(令和 4 年)	8 月 事業継続計画（BCP）運用開始
	9 月 医療における子ども憲章の掲示
	10 月 聖隷コミュニティケアセンター佐倉店閉店
2023 年	3 月 日本医療機能評価機構の認定（3rdG : Ver. 2.0）を更新
(令和 5 年)	

病院概況

(2023年4月1日現在)

開設者	社会福祉法人 聖隷福祉事業団
病院名	聖隷佐倉市民病院
所在地	〒285-8765 千葉県佐倉市江原台2-36-2 Tel 043-486-1151 (代表) Fax 043-486-8696
開設日	2004年3月1日
理事長	青木 善治
病院長	鈴木 理志
副院長	有田 誠司 川村 研 小谷 俊明
院長補佐	眞崎 義隆 藤井 隆之 岸田 俊二
総看護部長	内田 明子
事務長	石川 英男
敷地面積	47,810.21㎡
延床面積	42,769.17㎡
病床数	許可病床399床 (一般) 稼働病床377床 (一般)
職員数	709人 (常勤)
駐車場	1,187台
認定施設	国民健康保険療養取扱機関 健康保険医療機関 結核予防法指定医療機関 労災保険指定医療機関 特定疾患治療取扱病院 無料低額診療施設 日本医療機能評価機構認定病院 公害医療指定医療機関 マンモグラフィ検診施設画像認定施設 被爆者一般疾病医療取扱機関 生活保護法指定医療機関 小児慢性医療指定医療機関 指定自立支援医療機関 (育成医療・更生医療・精神通院) 臨床研修指定病院 救急告示病院 二次救急指定病院 難病法に基づく指定医療機関 千葉県がん診療連携協力病院 (胃がん・大腸がん)

標榜科目
(34標榜科)

内科、内分泌・代謝科、消化器内科、腎臓内科、
呼吸器内科、漢方内科、緩和ケア内科、
循環器内科、神経内科、心療内科、精神科、
小児科、外科、乳腺外科、形成外科、消化器外科、
内視鏡外科、移植外科、呼吸器外科、整形外科、
脳神経外科、泌尿器科、リハビリテーション科、
耳鼻いんこう科、眼科、皮膚科、婦人科、麻酔科、
放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、
臨床検査科、美容外科、血管外科

診療科
(28診療科)

総合内科、腎臓内科、消化器内科、
内分泌代謝科、神経内科、呼吸器内科、
循環器科、メンタルヘルス科、和漢診療科、
緩和医療科、外科、脳神経外科、呼吸器外科、
乳腺外科、整形外科、形成外科、小児科、
眼科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、
リハビリテーション科、放射線診断科、
放射線治療科、麻酔科、病理科、美容外科、
血管外科

学会認定

日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本内科学会認定医制度教育関連病院
日本腎臓学会認定研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本リハビリテーション医学会研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本放射線腫瘍学会認定施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本麻酔科学会認定施設
日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設
日本緩和医療学会認定研修施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本病理学会研修登録施設
日本大腸肛門病学会関連施設
日本医学放射線学会放射線専門医修練機関
日本気管食道科学会気管食道科専門医研修施設
(咽喉系)
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
日本人間ドック学会日本病院会指定優良人間ドック・健診施設

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定
インプラント実施施設
(一次一期再建・一次二期再建・二次再建)

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定
エキスパンダー実施施設 (一次再建・二次再建)

日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設

日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設

日本臨床栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設

日本胆道学会認定指導医制度指導施設

日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構
遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設

下肢静脈瘤血管内治療実施管理委員会

下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設

呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設

施設基準

(2023年4月1日現在)

基本診療科の施設基準

急性期一般入院基本料 1
臨床研修病院入院診療加算 (基幹型)
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
診療録管理体制加算 2
医師事務作業補助体制加算 1 15 : 1
急性期看護補助体制加算 25 : 1 (看護補助者 5 割以上)
看護職員夜間配置加算 12 : 1
療養環境加算
重症者等療養環境加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算 1
感染対策向上加算 2
連携強化加算
サーベイランス強化加算
報告書管理体制加算
認知症ケア加算 2
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
後発医薬品使用体制加算 2
病棟薬剤業務実施加算 1
データ提出加算 2
入退院支援加算 1
地域連携診療計画加算
入院時支援加算
せん妄ハイリスク患者ケア加算
排尿自立支援加算
地域医療体制確保加算
小児入院医療管理料 4
地域包括ケア病棟入院料 2
看護補助者配置加算
看護補助者体制充実加算
緩和ケア病棟入院料 2
看護職員処遇改善評価料
入院時食事療養 I

特掲診療料の施設基準

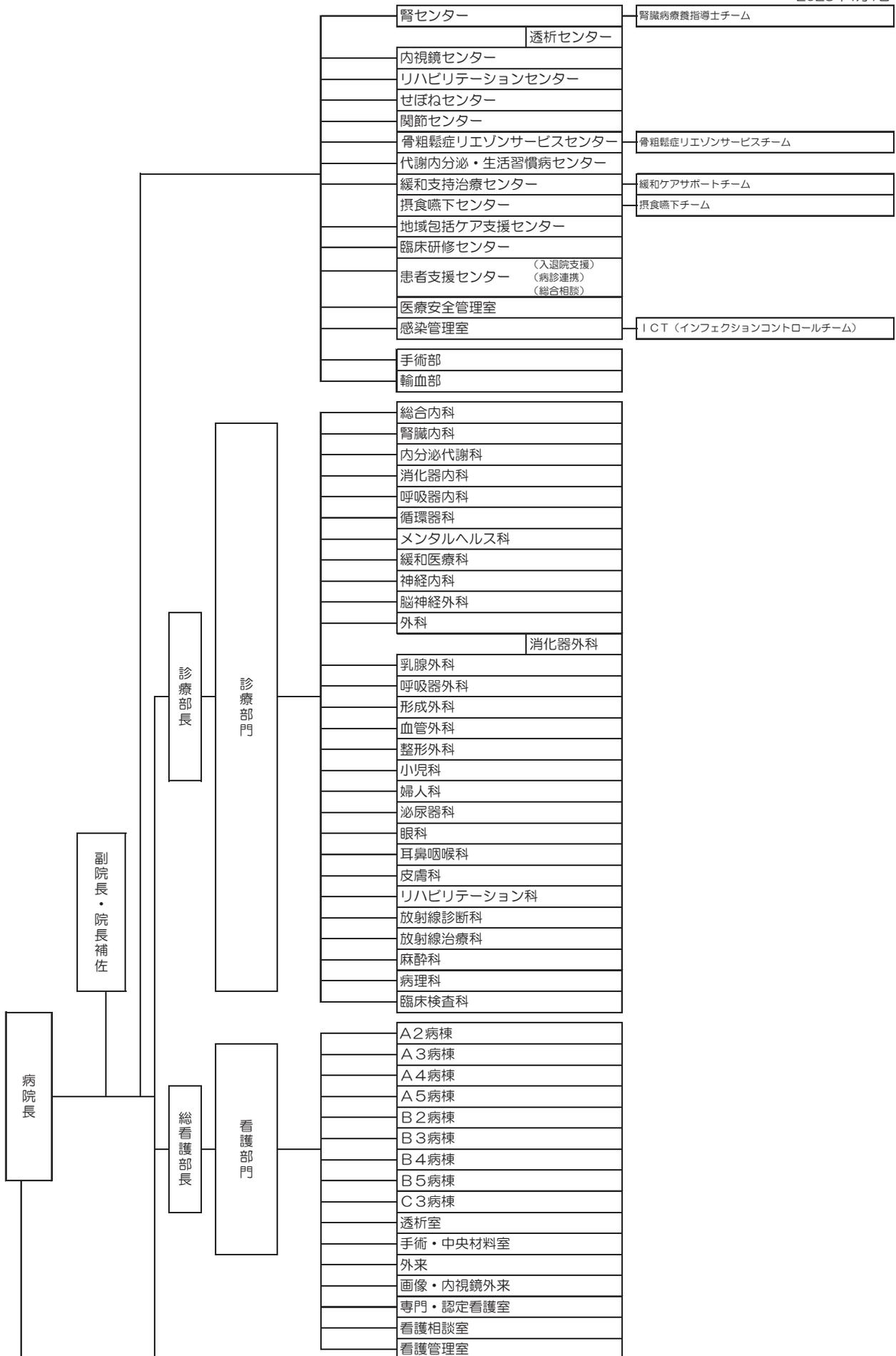
外来栄養食事指導料の注2 外来化学療法患者対象
外来栄養食事指導料の注3 専門的な管理栄養士の指導
慢性維持透析患者外来医学管理料の注3 腎代替療法実績加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ
糖尿病透析予防指導管理料
小児運動器疾患指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料
二次性骨折予防継続管理料1
二次性骨折予防継続管理料2
二次性骨折予防継続管理料3
下肢創傷処置管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料の注3 救急搬送看護体制加算1
外来リハビリテーション診療料1
外来リハビリテーション診療料2
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料1の注6 連携充実加算
ニコチン依存症管理料
がん治療連携指導料
肝炎インターフェロン治療計画料
外来排尿自立指導料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2
造血器腫瘍遺伝子検査
遺伝学的検査
BRCA1/2 遺伝子検査
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)
検体検査管理加算 (I)
検体検査管理加算 (II)
植込型心電図検査
ロービジョン検査判断料
コンタクトレンズ検査料 (I)
小児食物アレルギー負荷検査

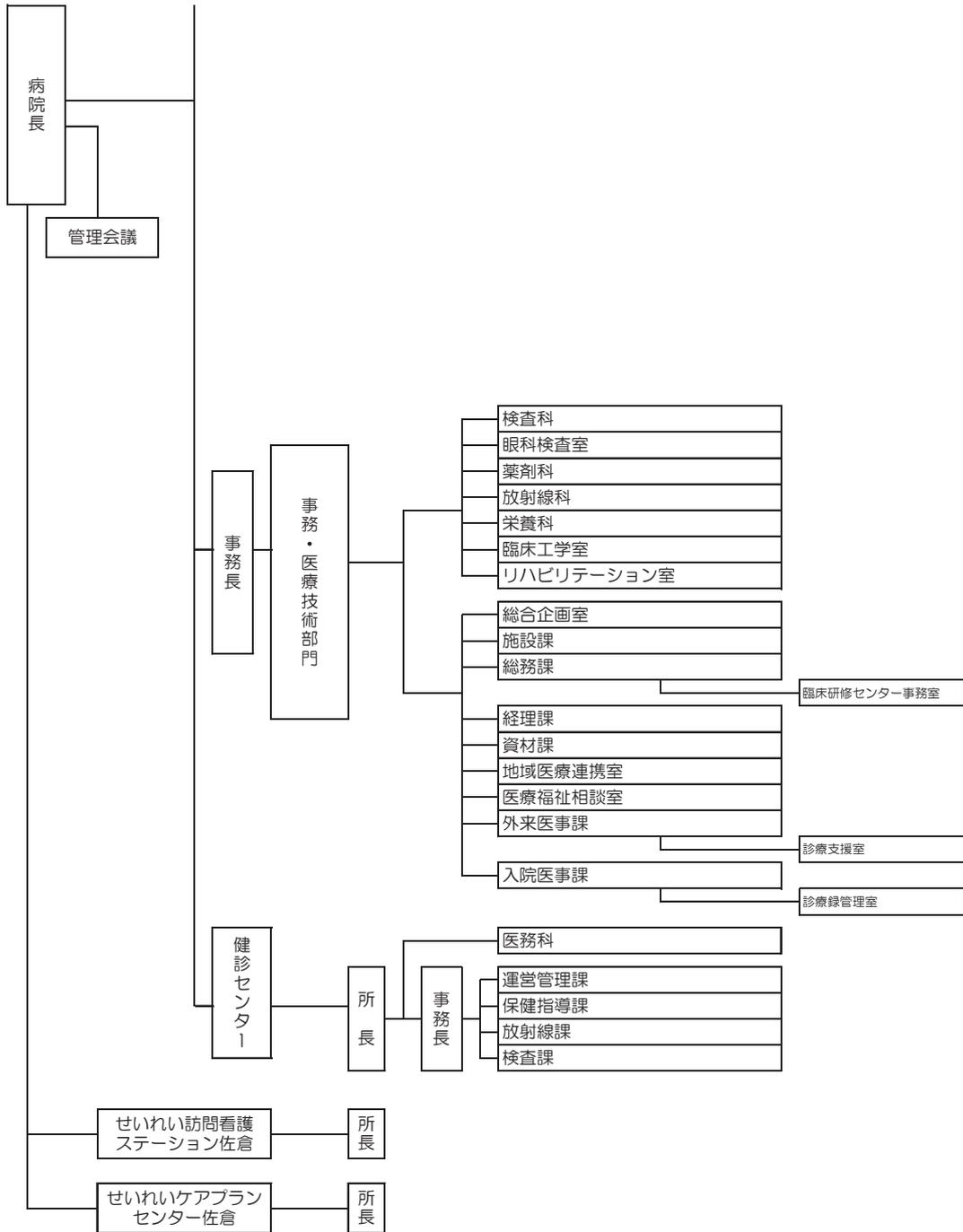
CT 撮影（16 列以上 64 列未満マルチスライス）
MRI 撮影（1.5 テスラ以上 3 テスラ未満）
大腸 CT 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
リハビリテーション初期加算
摂食嚥下支援加算の注 3 摂食嚥下機能回復体制加算 2
静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
人工腎臓 1
人工腎臓 1 の注 2 導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算
人工腎臓 1 の注 9 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
下肢抹消動脈疾患指導管理加算
組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る）
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
骨移植術（軟骨移植術を含む）【同種骨移植（非生体）〔同種骨移植（特殊なものに限る）〕】
椎間板内酵素注入療法
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術））
緑内障手術（濾過胞再建術（needle 法））
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈ステント留置術

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
腹腔鏡下肝切除術（部分切除及び外側区域切除）
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 16 に掲げる手術（胃瘻造設
術）
輸血管理料Ⅱ
輸血適正使用加算
貯血式自己血輸血管理体制加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
高エネルギー放射線治療の注 2 1 回線量増加加算
強度変調放射線治療（IMRT）
画像誘導放射線治療（IGRT）
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅
速病理組織標本作製
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細
胞診
病理診断管理加算 1
悪性腫瘍病理組織標本加算

2023年度組織図

2023年4月1日





設備の概要

(2023年4月1日現在)

建物用途	病院
病床数	377床
規模	地上6階 SRC造(一部 S造)
敷地面積	42,956.55㎡
建築面積	病院 17,277.37㎡
延べ床面積	病院 42,769.17㎡

設備概要

電気設備

契約種別	業務用季節別時間帯別電力		
契約電力	1,950kW (常用・予備用2回線受電)		
供給電気方式	交流3相3線式		
供給電圧	6,600V		
供給変電所	(常用線) 佐倉変電所 (予備電源) うすい変電所		
供給配電線路	(常用線) 江原線 (予備電源) 間野台線		
非常用発電設備 (A号館)	水冷式 (ワット冷却方式) ディーゼル発電機 容量=400kVA 出力=376kw 電圧=200V 燃料 灯油 燃料消費量 110ℓ/h サービスタンク 5000		1基
(B号館)	水冷式 (ワット冷却方式) ディーゼル発電機 容量=450kVA 出力=387kw 電圧=200V 燃料 灯油 燃料消費量 102ℓ/h サービスタンク 5000		1基
(C号館)	水冷式 (ワット冷却方式) ディーゼル発電機 容量=625kVA 出力=544kw 電圧=6,600V 燃料 灯油 燃料消費量 152ℓ/h サービスタンク 3900		1基
(透析・健診)	水冷式 (ワット冷却方式) ディーゼル発電機 容量=315kVA 出力=272kw 電圧=200V 燃料 灯油 燃料消費量 77ℓ/h サービスタンク 9500		1基
地下タンク設備 (A・B・C共用)	地下埋設タンク式・灯油 20,000ℓ		1基
(透析・健診)	地下埋設タンク式・灯油 6,000ℓ		1基

空調設備

熱源系統			
空冷式熱源機 (A号館)	85kwモジュールチラー×3台	255 kW	1基
(B号館)	150kwモジュールチラー×3台	450 kW	1基
温水機 (A号館)	ガス焚吸収式 (二重効用) 燃料 13A	352 kW	4基
(B号館)	ガス焚吸収式 (二重効用) 燃料 13A	352 kW	2基
温水ヒーター (A号館)	鋳鉄製無圧温水ヒーター (2回路) 燃料 13A	465 kW	2基 (水熱源兼用)
(B号館)	鋳鉄製無圧温水ヒーター (2回路) 燃料 13A	466 kW	2基 (水熱源兼用)
冷却塔 (A号館)	開放式超低騒音角型 (冷水水機用)	1,275 kW	2基
(B号館)	開放式超低騒音角型 (熱交換器用)	795 kW	1基
(C号館)	開放式超低騒音角型 (冷水水機用)	1,183 kW	1基
(手術棟)	開放式超低騒音角型 (熱交換器用)	823 kW	1基
熱交換器 (A号館)	プレート型 (熱源水冷水系統)	851 kW	1基
(B号館)	プレート型 (熱源水温水系統)	388 kW	1基
(手術棟)	プレート型 (熱源水冷水系統)	740 kW	1基
冷水水機 (手術棟)	プレート型 (熱源水温水系統)	322 kW	1基
冷却塔一体型ガス焚吸収式 (二重効用)		352 kW	2基
無圧缶式ヒーター 燃料 13A 缶体349kW		220 kW	2基 (給湯兼用)
空調機系統			
(A号館)	エアハンドリングユニット外調機		19台
	ファンコイルユニット (4管式)		67台
	水熱源エアコン (病棟P.M.A.C)	室外機 24台 室内機 221台	
	空冷マルチエアコン (透析センター)	室外機 8台 室内機 35台	
	フロアヒーティング設備 (透析センター床暖房・業務用蓄熱調整契約)		
	総電力量 57.44kW 総加熱面積 230.4㎡ 設計発熱量 250W/㎡		
(B号館)	空冷ヒートポンプチラー (E.S.C.O)		モジュール3台
	エアハンドリングユニット外調機		16台
	水熱源エアコン (病棟ダイキン)	室外機 24台 室内機 195台	
	空冷マルチエアコン (放射線・健診・栄養)	室外機 11台 室内機 85台	
	空冷パッケージエアコン (放射線・栄養)		15台
(C号館)	空冷ヒートポンプチラー		モジュール3台
(手術棟)	空冷式ルームエアコン	室外機 268台 室内機 387台	
	エアハンドリングユニット外調機		19台
	ファンコイルユニット (4管式)		61台
	空冷ヒートポンプエアコン		4台
	空冷マルチエアコン	室外機 1台 室内機 4台	
(洗濯室)	ガスヒートポンプエアコン	室外機 1台 室内機 6台	
(透析・健診)	空冷ヒートポンプエアコン	室外機 5台 室内機 125台	
	パッケージ型空調機	室外機 8台 室内機 8台	
脱臭装置 (A号館)	オゾン発生装置 2台 吹出口 480個		
(B号館)	オゾン発生装置 2台 吹出口 419個		
(手術棟)	2台 吹出口 72個 (内 放射線治療室内 単独オゾン発生器 1台)		

給排水衛生設備

給水設備			
給水管	150mm 引込み管 75mm		
井戸	井戸口径 150mm 掘削深度 90m 水中ポンプ 2.2kW 揚水管 25A		
浄水装置	光酸化装置 除鉄・除マンガン装置 活性炭ろ過装置 UFモジュール		
原水槽	処理水槽 薬注装置		
受水槽	槽容量 168㎡ 有効容量 134.4㎡		
(A号館)	加圧給水ポンプ装置 水量 1100ℓ/min 設定揚程 42m		
(B号館)	加圧給水ポンプ装置 水量 1100ℓ/min 設定揚程 50m		
(C号館)	加圧給水ポンプ装置 水量 700ℓ/min 設定揚程 25m		
給湯設備			
(A号館)	ガス焚無圧式温水機 燃料 13A 給湯量 2,000ℓ/h	116kW	2基
	貯湯槽 3,500ℓ 縦型		1基
(B号館)	ガス焚無圧式温水機 燃料 13A 給湯量 3,333ℓ/h	233kW	2基
	貯湯槽 3,000ℓ 縦型		2基
(C号館)	ガス焚無圧式温水機 燃料 13A 給湯量 2,000ℓ/h	116kW	3基
(手術棟)	無圧缶式ヒーター 燃料 13A 給湯量 1,823ℓ/h	106kW	2基 (空調兼用)

排水設備	(医局棟)	ガス瞬間湯沸器 50号	燃料 13A	108kW	2 基
	(外来棟)	ガス瞬間湯沸器 50号	燃料 13A	91.9kW	1 基
	(透析・健診)	ガス焚無圧式温水機	燃料 13A 給湯量 2,000ℓ/h	116kW	2 基
		汚水雑排水と雨水の分流方式			
		グリストラップ 1槽	R I 処理槽 湧水槽 中和槽 透析中和槽		

給蒸設備

(滅菌用)	簡易貫流ボイラー	燃料13A	相当蒸発量250kg/h	熱出力157kW	2 基
(洗濯室)	簡易貫流ボイラー	燃料13A	相当蒸発量 60kg/h	熱出力37.6W	2 基

医療ガス設備

液化酸素供給装置	CE 5型	貯蔵量 5,114kg	処理量 27.8m ³ /日		1 基	
圧縮空気供給装置	コンプレッサー			3.7kW	4 台	
吸引供給装置	吸引ポンプ			A号館・C号館・手術棟用 1.5kW	4 台	
				B号館用 5.5kW	2 台	
笑気ガス供給装置	30kg型			1列	4 本立	
窒素ガス供給装置	7000ℓ型			2列	16 本立	
予備酸素供給装置	7000ℓ型			2列	24 本立	
医療ガスアウトレット	酸素 855個	笑気 24個	空気 192個	吸引 850個	窒素 17個	非治療用空気 2個
アイソレーショントランス	放射線科 2台	病棟 40台	手術室 10台			

防災設備

GR型受信機	監視点数 400,000点	表示機能 最大 500画面			
	A号館感知器 580個	B号館感知器 575個	C号館感知器 469個	医局棟 24個	
	手術棟 88個	透析・健診 155個	院内保育所 20個	看護宿舍 104個	
スプリンクラー (A号館)	ポンプ 水量 750ℓ/min				1 基
	補助散水栓				33 基
(B号館)	ポンプ 水量 750ℓ/min				1 基
	補助散水栓				31 基
(C号館)	ポンプ 水量 900ℓ/min				1 基
	散水栓				13 基
(透析・健診)	補助散水栓				10 基
	総スプリンクラーヘッド数				4,378 個
屋内消火栓ポンプ	水量 3000ℓ/min				1 基
屋内消火栓					23 基
消防水槽	容量 12.8m ³ 1槽(A号館)	35m ³ 1槽(C号館)			
防火水槽	容量 40m ³ 3槽(正面玄関横、保育園横、看護宿舍横)				
消火器	粉末小型 122本	粉末大型 6本	強化液小型 150本		
	二酸化炭素小型 4本				
窒素消火設備					4 系統
ハロゲン化物消火設備					2 系統
二酸化炭素消火設備					2 系統
フード等用簡易自動消火装置 (B号館)					7 系統
排煙設備 (A号館)	排煙機能力 30,100m ³ /h	×15.0kW			1 台
(B号館)	排煙機能力 28,000m ³ /h	×15.0kW			1 台
(C号館)	排煙機能力 26,000m ³ /h	×18.5kW			1 台

昇降搬送設備

昇降機 (A号館)	一般/寝台用				2 基
	業務用				2 基
(B号館)	一般/寝台用				2 基
	配膳用				1 基
(C号館)	一般/寝台用				2 基
	乗用				1 基
(健診センター)	一般/寝台用				1 基
エアシューター (A号館系統)	φ150型 17ステーション+サービスステーション				1 系統
(B号館系統)	φ150型 7ステーション+サービスステーション				1 系統

弱電設備

電話設備	電子交換機				
	多機能型電話機	実装	96 回線	現用	91 台
	一般電話機	実装	608 回線	現用	581 台
	I S D N局線	実装	8 回線	現用	8 回線
	アナログ局線	実装	16 回線	現用	16 回線
	リモートメンテナンス				
PHS設備	電子交換機				
	PHSアンテナ	実装	200 回線	現用	157 回線
	PHS電話機			現用	596 台
	ナースコール			現用	9 センター
ナースコール設備	デジタル式	ボード型親機	80 局		8 台
			40 局		1 台
自動制御	中央監視装置19型カラーディスプレイ 2SET (バックアップ)				
	最大管理点数3,000点				

主な器械備品

病院

(2023年3月31日現在)

名称	数	メーカー	機種
MRIシステム	2	GEヘルスケア・ジャパン	DiscoveryMR750w 他1台
マルチスライスCT	3	GEヘルスケア・ジャパン	Revolution Ascend 他2台
2検出器シンチレーションカメラ	1	GEヘルスケア・ジャパン	Infinia 3
X線TV装置	2	キヤノンメディカルシステムズ 他	DREX-U180/06 他1台
フルデジタル血管X線撮影装置システム	2	島津製作所	Trinias C16 uunity smart 他1台
マンモ撮影装置	1	富士フイルムメディカル	AMULET Innovality
外科用X線装置	3	GEヘルスケア・ジャパン	OEC BRIVO 785 他2台
X線骨密度測定装置	1	ホロニック	Horizon A型
一般・ボータブル撮影 FPD(フラットパネル)システム	1	富士フイルムメディカル	CALNEO Smart C 及び CALNEO GL1
ボータブル装置	4	富士フイルムメディカル 他	CALNEO GO 他3台
放射線治療システム	1	パリアン	Clinac-Triogy
マルチスライスCT(治療専用CT)	1	GEヘルスケア・ジャパン	LIGHTSPEED XTRA
一般撮影装置	4	島津製作所	RAD speed Pro
PACS	1	富士フイルムメディカル	SYNAPSE
眼科診療支援システム	1	トプコン	IMAGeNet
散瞳型眼底カメラシステム	1	トプコン	TRC-50IX
マルチカラーレーザ-光凝固装置	1	ルミナス	ウァリア
光干渉眼軸長測定装置IOLマスター	1	カールツァイス	モテール500
視野計(ゴールドマン型ペリメーター)	1	ハークストレイト	940-K7
硝子体手術用機器	1	日本アルコン	コンステレーションLXTモジュール
内視鏡システム	5	富士フイルムメディカル, オリンパス	VT-318S, BL-7000, VP-7000, LL-7000 他
電子スコープ	30	富士フイルムメディカル, オリンパス	EG-760Z, EC760ZP, EC-L600ZP/L, EG-L580RD7 他
超音波内視鏡	1	富士フイルムメディカル	EG-580OUT
内視鏡洗浄機	7	富士フイルムメディカル, オリンパス	ESR-200, OER-4
高周波手術装置	15	コウテイエソ, アムコ 他	FT-10, ForceTriad, VIO300D, VIO200S 他
手術用内視鏡システム	4	オリンパス, スミアントン, ネフュー, ストルツ	LENS, VISERA ERITE II, IMAGE1 他
神経機能検査機器	2	日本光電, ニューベージブ	MEE-1216, M5
赤外線カメラシステム	1	浜松ホトニクス	PDE-NEO
手術用レーザー	2	モリタ製作所, エダップ	レザウイン, Quanta Litho
手術台	8	マック, ミズホ	アルファマックス1133, MOT-VS600
その他手術台	6	アレン, スミアントン, ネフュー	アレンスパイナルシステム, T-MAX, SPIDER
麻酔器	8	ドレーゲル, GEヘルスケア・ジャパン	フアビウスGSブレイム, フアビウスMRI, フアビウスTiro, エステイバPro
0-armイメージングシステム	1	メドトロニック	
ナビゲーションシステム	3	メドトロニック	ステルスステーションS7
手術用顕微鏡	3	ライカ, カールツァイス, ナカシマ	Lumera700, S88, SN-PN1
手術用トリスル	22	シッセ, シンマー, メドトロニック 他	TRS, コリアリII, サージエアームII, マイグスレックス
ガラスマ滅菌装置	1	ジョソソル&ジョソソル	ステラッド100NX
高圧蒸気滅菌装置	2	サクラ精機	VSシリーズ
ウオッシュャー/イスインフェクター	2	ステリスジャパン	HAMO T-21
生体情報モニター	72	日本光電他	CSM1000, CSM1702, BSM6301, PVM4763 他
セントラルモニター	22	日本光電	CNS6101, CNS9601, WEP5208, WEP4208 他
人工呼吸器	8	ハミルトン, トレーゲル 他	ハミルトンC1, Carina NKV-330
輸液ポンプ	133	(株)ジェイエムエス, テルモ	OT-808, TE-131 他
シリンジポンプ	69	テルモ	TE-351, TE-371, TE-331 他
除細動器	12	日本光電	TEC5631, TEC5531 他
ラジオ波焼灼装置	1	メドトロニック	CooltipRFAシステムシリーズ
人工透析装置、個人用透析装置	101	日機装	DCS-100NX, DBB-100NX
透析液供給装置	3	日機装	DAB-50NX
A剤・B剤溶解装置	6	日機装	AHI-502, BHI-502
RO装置、個人用RO装置	2	JWS	DR0-EX485H, MZ-1
透析通信システム	1	日機装	FutureNetWeb
循環器用超音波診断装置	2	GEヘルスケア・ジャパン	VividE9 ワークステーション 他1台
光干渉断層計	1	ハイテック	スペクトリスOCT コンパクト プルーベック
バンドフットクロスモニター	1	日立アロカ	MBR-551
自動染色装置(ティッシュブック)ラズマ	1	サクラファインテック	
超音波診断装置	7	GEヘルスケア・ジャパン	Logiq S8 with Xdclear×2 他5台
超音波診断装置	2	コニカミノルタジャパン	SONIMAGE MX1
超音波診断装置	5	富士フイルムメディカル	ARIETTA850LE 他4台
血液浄化装置	1	旭化成メディカル	ACH-Σ
電子式診断用スパイロメータ	1	フクダ電子	SP-790COPD
生理検査システム一式	1	フクダ電子	HIMEDSV1
多機能心電計	4	フクダ電子	FCP-8800
ハフリーフイーフトアナライザー	1	カールツァイス	HFA740
ホルター解析装置	1	日本光電	
血圧脈波検査装置	1	フクダ電子	パセヴァS-2500システム
ストレステストシステム一式	1	フクダ電子	

名 称	数	メーカ	機 種
聴力検査計	1	モリタ製作所	インビターンスメータ SI-50I 他1台
自動採血管準備装置	1	テクノメテック	BCROB08000RFID/T 62
凍結組織切片作製装置	1	キクラファインテック	テイシュー・テックホーラーD
全自動化学発光酵素免疫測定機 ルミバース	1	富士レビオ	ルミバース G-1200
全自動輸血検査機 輸血管理システム	1	オーソ	Ortho VISION
JMS舌圧測定器	2	(株)シエイエムエス	TPM-02
自動免疫染色装置	1	ダゴ・シヤハン	AutostainerLin48
全自動錠剤分包機	1	トショー	Ci2000
安全キャビネット	1	日本エアテック	BHC-T701II A2
手術用顕微鏡	1	カールツァイス	OPMI ViSU210
ワタチスライサー	1	中西製作所	OSI-06S
身体組成分析装置	1	SKメディカル電子	MLT-550N
汎用超音波画像診断装置	1	GEヘルスケア・シヤハン	Vscan Extend
浸透圧分析装置	1	日機装	OSA-33
凝固測定用経過時間タイマ	1	トライテック	アクトライク(MINI II)
血液凝固計	2	平和物産、他	ヘモクロン401, アクトライクミニ
ルミテスター	1	キッコーマンパイクミファ	ルミテスター PD-30
酵素クスター除菌脱臭装置	1	カルモア	シルフィード2
自動浸透圧測定装置	1	アーレイ	オスマステーション OM-6060
血液検査用アンモニアキット	1	富士フイルムメテック	富士ドライケムスライト NH3-WII
自動遺伝子解析装置	1	BECKMAN COULTER	Gene Xpertシステム

健診センター

名 称	数	メーカ	機 種
胸部撮影装置	1	日立メテック	DHF-155HII
一般撮影 FPD(フラットパネル)システム	1	コニカミノルタシヤハン	CS-7
6CH解析付心電計	2	フクダ電子	FCP-7541
MRIシステム	1	GEヘルスケア・シヤハン	OptimaMR360 Advance 8ch
X線TV装置	2	キヤノンメテックシステムズ	ZEXIRA
デジタルマンモグラフィシステム	1	富士フイルムメテック	AMULET s
骨塩量測定装置	1	日立メテック	DCS-600EXV
健診バス	1	日立メテック	CLAVIS MOBILE ESPACIO
超音波診断装置	3	GEヘルスケア・シヤハン	LOGIQ S8, S7
超音波診断装置	2	日立アロカ	ARIETTA60
超音波診断装置	1	TOSHIBA	aplio a450
超音波診断装置(婦人科)	1	コニカミノルタシヤハン	SONOVISTA FX
自動採血管準備装置	2	テクノメテック	BC・ROBO-888
解析付心電計	3	フクダ電子	FCP-8800
電子ス피ロメーター	1	チェスト	マイクロスピロHI-801
内視鏡システム	3	富士フイルムメテック, オリンパス	VT-318S, BL-7000, VP-7000, LL-7000 他
電子スコープ	20	富士フイルムメテック, オリンパス	EG-740N, EC-760ZP-V/M 他
内視鏡洗浄機	3	富士フイルムメテック, オリンパス	ESR-200, OER-3
血圧脈派検査装置	1	フクダコーリン	form5
聴力検査計	1	リオン	AAK1B

2023年度会議・委員会名簿

2023年度 会議名簿（上半期）

◎代表者 ○副 △事務局

会議名称	開催日	医局	看護	医療技術	事務	備考
管理会議	原則第1・3火曜日 17:30～	院長、副院長、院長補佐、 健診センター所長	総看護部長、看護次長	医療技術部次長	事務長、事務次長、 △総務課長	日下部常務
診療科責任者会	毎月最終月曜日 17:30～ (医局会終了後)	鈴木(理)、有田、川村、小谷、岸田、 設楽、眞崎、川上、川島、宇井、徳山、 村上、小池、藤井、手塚、楠目、津田、 稲原、鈴木(繁)、金岡、笹井、齊藤、 山岸、佐久間、田中、坂本(理)	総看護部長	医療技術部次長	事務長、事務次長、 △総合企画室長、 総務課長	
医局会	毎月最終月曜日 17:00～	全医局員	総看護部長	医療技術部次長	事務長、事務次長、 △総務課長	
全体課長会	毎月最終火曜日 16:00～	院長	総看護部長、看護次長、 各課長	各課長	事務長、事務次長、 各課長(△総務課長)	

【必須】1.施設基準 2.法的要件 3.事業団要件

必須	時期	運営会議名称	開催日	医局	看護	医療技術	事務	備考
		手術室運営会議	毎月第1木曜日 16:30～	◎岸田、○川島、佐久間、 設楽、眞崎、藤井、小池、 津田、稲原、金岡、宇井、 坂本	浦辺	八木、向井、高岡	△塚本	*必要時に 医事
		腎センター運営会議	必要時開催	◎藤井、有田、川村	小笠原、石村、高橋(由)	八木、阿部(拓)、福元、 飯塚、堀井、石口	△三上	
		腎戦略ミーティング	偶数月水曜日	鈴木(理)、藤井、田中(宏)、 越坂、山内	高橋(由)、山本(真)、 小笠原、折山、石村、 椎名、松信、田村	八木、阿部(拓)、福元、 飯塚、堀井、小倉	三上、伊藤(公)、 大石	
		リハビリセンター 運営会議	奇数月	◎津田、南	加藤、鎌田	白井、加藤木、△宍倉、 清宮、奥村	高部	
		内視鏡センター 運営会議	偶数月金曜日 16:30～	◎齊藤(将)、○矢挽、 楠目、小池、住吉、武内、 大城、吉川、坂本(大)	△前岡、神尾、 須藤(健診)	新井(大)	横内	
		外来フロア運営会議	毎月1回	◎川村、川島、田中(宏)	小山、前岡、石村、 宮崎	石橋、大木、大竹、 齋藤(史)、加藤木	石井、内山、杉本、 池田(ソラスト)、平山、 山口、△大畑	
		生活習慣病センター 運営会議	必要時開催	◎久保田	高橋(弥)、藤原、 長谷川	戸巻、加藤、三嶽、安	△笹岡	
		放射線科運営会議	必要時開催		前岡	△園田、八木	石川	
		健診センター運営会議	毎週金曜日 16:15～	◎有田、○楠目、久保田、 石橋、太田、高野	高木(健診)、須藤(健診)	佐藤(美)、舎川、芹山、 木下、西村(美)	△田代、近藤(肇)、 野場、杉山	
		透析センター運営会議	毎月1回	◎藤井、田中(宏)、寺崎	石村	○阿部(拓)、福元	△平山、諏訪	*必要時: 飯塚
		地域包括ケア病棟 運営会議	5月・10月・3月の 第4金曜日 17:30～	山内、上野、津田	◎鎌田、高橋(由)、古津、 吉田(仁)、竹澤(訪看)	白井、島袋	△渡邊、鈴木(恭)、 河合、小原、三上、 加藤(雄)	
		緩和ケアチーム 運営会議	年4回	◎村上、有田、川上、 木谷	○石井、山岸、関	石野、小田川、桑原	△若海、加藤(雄)、 三上、杉本	*必要時: 竹澤(訪看)
		患者支援センター 運営会議	必要時開催	◎川村、津田、岸田、 矢挽	○吉田(仁)、山岸、加藤、 山本(真)、前岡	小倉、叶川	△加藤(雄)、三上、 鈴木(恭)、川元	
		骨粗鬆症リエンサーサービス センター運営会議	毎月第1金曜日 17:00～	小谷、藤井、岸田、飯島、 山内、越坂	○宮崎、小笠原、藤田、 木村(弘)、東、 金子(健診)	◎加藤木、鈴木(諒)、 西原、石田、穂元	三上、近藤(奈)	
		循環器チーム 運営会議	偶数月第1火曜日 17:15～	◎徳山	△宍倉、田中(美)、 小野寺(亜)	金崎、渡邊(強)、槍、藤田、 三嶽、中條、高山、戸巻	榎本	

2023年度 委員会名簿（上半期）

◎代表者 ○副 △事務局

【必須】1.施設基準 2.法的要件 3.事業団要件 ※開催時期が「定期的」の委員会・会議は最低でも3月に1回程度開催

必須	時期	委員会名称	開催日	医局	看護	医療技術	事務	備考
1	月1回	医療安全管理委員会	毎月最終月曜日 15:45～	◎小谷、有田、藤井、 矢挽	加藤(和)、小笠原、 ○篠塚(医療安全)、 竹澤(訪看)、 金子(ケアプランセンター)	舎川、富田、園田、八木、 大竹(梨)	田中、△石井、加藤 (雄)、田代	
1	月1回	医療安全報告書確認チーム	必要時開催 (1回/月以上)	◎笹井、小谷、瀬戸	篠塚(医療安全)	△園田、舎川		
1	月1回	医療機器安全管理委員会	毎月最終月曜日 15:30～	小谷	加藤(和)、 篠塚(医療安全)	◎八木、富田、園田、 舎川		
1	月1回	感染対策委員会	毎月第3月曜日 17:00～	◎眞崎、鈴木(理)、川村、 小池、津田、久保田	内田、別宮、浦辺(憲)、 安間、須藤(健診)、 竹澤(訪看)、 金子(ケアプランセンター)	△舎川、高橋、仙台、 芹山、宮野、塚本(悟)、 平野、秦野、富田	石川、竹澤、 鈴木(麻寿)、原、 中嶋、菅原、塚本、 野場	
2	月1回	衛生委員会	毎月第3月曜日	○川村、鈴木(理)、 小池、眞崎、久保田	内田、別宮、浦辺(憲)、 安間	舎川、高橋(佑)、 塚本(悟)、秦野、富田	◎石川、竹澤、△鈴木 (麻寿)、中嶋、 菅原、野場	
1	定期的	褥瘡対策委員会	毎月第3月曜日 16:00～	◎宇井、飯島	○青木、高野 リンクナース A2:小川 A3:本藤 A4:相澤 A5:藤原 B2:内山 B3:阿部 B4:堀川 B5:瀧美 HD:内田 OR:和田	福山、大木、宮森	△本田	

必須	時期	委員会名称	開催日	医局	看護	医療技術	事務	備考
2	年1回	医療ガス設備安全委員会	年1回	◎設楽、有田	浦辺	△八木、市村	高橋(利)	
1	定期的	診療録管理委員会	奇数月第3木曜日 16:30～	◎藤井、岸田、 鈴木(繁)、武内	高橋(弥)、 篠塚(医療安全)	柳沢、小出、石井	△荒井、石井、竹澤、 川元、本田	
1	年6回	輸血療法委員会	偶数月第4木曜日	◎有田、飯島	伊藤(陽)、北田、 浦辺(憲)	木下、△石口、 佐藤、三和	彦坂	
1	定期的	臨床検査適正化委員会	隔月開催	◎笹井、徳山	別宮	舎川、石口、△大竹	横内	
1	定期的	臨床研修管理委員会	4ヶ月に1回 (年3回)開催	◎鈴木(繁)、有田、 鈴木(理)、岸田、設楽、 川村、徳山、笹井、藤井、 齋藤(将)	内田	八木、舎川、富田、 園田、中村(貴)、白井	△神谷、井口、石川	初期研修医
1	年4回	DPC対策委員会	必要時開催	◎岸田、齋藤(将)、 小池	別宮、篠塚(医療安全)	仙台、富田、園田	加藤(雄)、荒井、 △彦坂、則松、石井、 菅谷	5.8.11.2月の 第2火曜日 16:30開催
1	年1回	化学療法委員会	毎月第1月曜日 17:15～	◎小池、眞崎、稲原、 齋藤(将)、津田、木谷	山岸、石井、板倉、 卯野(杉本)	△天野、中嶋、安、 鈴木(諒)	彦坂	外部委員: 篠崎
		聖隷佐倉キャンサーボードWG		◎木谷、矢挽、稲原	神尾	△金子、天野、鈴木(諒)	三上	
1	年2回	職員処遇改善委員会	必要時開催	◎岸田、久保田、 寺崎(紀)	○内田、加藤、 篠塚(医療安全)	舎川、園田、八木、富田、 中村(貴)	△石井、近藤(奈)、 大畑、竹下	
2	定期的	栄養委員会	偶数月第2木曜日 15:30～	◎津田、藤井	高橋(由)、青木	△中村(貴)、金崎、松田、 河合、宮森	高部	
		NST運営会議	毎月第2木曜日 16:00～	◎津田、○藤井	高橋(由)、青木 各病棟から選出 A2:小野寺 A3:山口 A4:西原 A5:齋藤 B2:八川 B3:福田 B4:芹澤 B5:出穂	△宮森、吉永、木下、 松田、五十嵐、清宮、 増田	高部	
		事例検討委員会	事例発生時	◎鈴木(理)、小谷	内田、加藤(和)、 篠塚(医療安全)	八木	△田中、石川、本宮	
		薬事委員会	奇数月 17:00～	◎藤井、小谷、鈴木(繁)、 眞崎、小池、村上、川島、 齋藤(将)、稲原、山岸	加藤(和)、 篠塚(医療安全)	△富田、石井、高岡	小原	
		購入委員会	毎月1回		内田、浦辺(憲)	中條	◎石川、△岡野、 田中、内山	
		防災委員会	毎月1回	有田、鈴木(繁)	河野(寿)、宮崎、辰野	林(健)、小川、吉野、 竹之内、有田、葛巻	◎石川、△矢澤、樋口、 鈴木(麻友)、岡野、 青柳、市川、伊藤(由)	
		減免委員会	3ヶ月に1回	鈴木(理)	内田		◎石川、△市原、 田中、内山	
		医療の質検討委員会	毎月第2水曜日 17:00～	◎川村、小池、田中(宏)	吉田(仁)、小笠原、 宮崎、篠塚(医療安全)	佐藤(美)、中村(貴)、 舎川	石井、△矢澤、田中、 池ノ谷	
		倫理委員会	奇数月第3水曜日 16:30～	◎川村、鈴木(理)	内田、高野	八木	△田中、池ノ谷、石川	外部委員 2名
		研修委員会	毎月第3水曜日 15:00～		浦辺	◎白井、大竹、飯塚、 ○園田、中條、安	菅谷、伊藤(公)、 △神谷、内山、鶴澤	
		クリニカルパス委員会	毎月第4金曜日 17:30～	◎小池、坂本(大)	古津、○宮崎、 伊豆(杉本)	北田	△則松、関口、本田	
		院内学会実行委員会	必要時開催	田中(宏)、廣橋	浦辺	◎白井、大竹、飯塚、 ○園田、中條、安	菅谷、伊藤(公)、 △神谷、内山、鶴澤	
		接遇委員会	毎月第3金曜日 17:00～	久保田、田中(宏)	吉田(仁)、相原	○栗原、穂元、飯塚、 田畑、須川、福元、福田	◎田代、△岩瀬、 加藤(理)、和田	
		個人情報保護委員会	必要時開催	◎鈴木(理)	○内田	塚本(悟)	石川、△加藤(雄)、 神谷、坂本、竹澤	
		図書委員会	必要時開催	◎川上、佐久間	高野		△柄澤、内山	
3	年2回	安全運転委員会	必要時開催		河野(寿)	白井	◎矢澤、中村、岡本、 △高橋	
		エコ推進委員会	四半期に1回開催 (年4回開催)			戸塚	◎石川、△鶴澤、塚本、 矢作、竹内	4、7、10、 1月開催予定
		ボランティア委員会	偶数月第2月曜日	◎鈴木(繁)	吉田(仁)、小川	宍倉	△大石、本澤、清水嶋、 桂	
		救急委員会	毎月第4水曜日 17:00～	◎有田、吉川、上野、 藤井、松永	前岡、森田、宮崎	高石、天野、芹山	△内山、竹下、菅谷	
		情報システム委員会	毎月第2木曜日 16:30～	◎岸田、鈴木(理)、 川島	別宮、小松崎、古津	高山、片岡	△竹澤、加藤(雄)、 荒井、伊藤(公)、則松、 大畑	
2		放射線防護委員会	必要時開催	◎瀬戸、○川上	前岡	△金子、園田、高石、 佐藤(美)、塚本、小林		
1	年2回	放射線治療品質管理委員会	必要時開催	◎川上、川島	前岡、神尾	○園田、△金子、戸塚	石川、田中	*外部委員 1名
1	必要時	がん診療連携協力病院 運営委員会	必要時開催	◎眞崎、○小池、津田、 川上、村上、矢挽、木谷	山岸、石井、関(杉本)、 神尾	金子、天野	△三上、荒井、鈴木(恭)	

職 種 別 人 員

2023. 4. 1

単位：人

職種	正職員		エルダー・パート	計
	ブロック・地域総合	地区限定		
医師	72	0	0	72
看護師	274	11	45	330
准看護師	0	0	1	1
保健師	4	0	0	4
看護助手	0	42	14	56
クラーク	1	35	3	39
栄養士	1	1	0	2
管理栄養士	11	1	1	13
調理師	4	0	2	6
調理助手・洗浄員	0	0	21	21
薬剤師	24	0	0	24
薬剤助手	0	0	2	2
臨床検査技師	21	3	3	27
診療放射線技師	27	0	0	27
臨床工学技士	37	0	0	37
事務員	29	42	37	108
診療録管理士	0	2	1	3
施設員	3	1	0	4
理学療法士	21	0	1	22
作業療法士	4	0	0	4
言語聴覚士	3	0	0	3
歯科衛生士	1	0	1	2
視能訓練士	5	1	2	8
視能訓練助手	0	0	2	2
相談員	3	2	0	5
洗濯員	0	0	1	1
保育士	0	6	3	9
保育補助	0	0	1	1
救急救命士	0	0	0	0
介護支援専門員	3	1	0	4
計	548	148	141	837

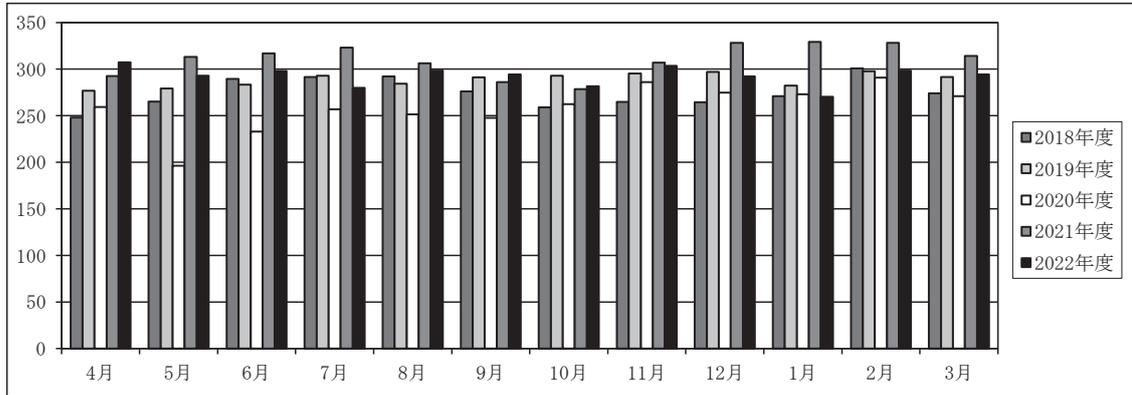
※せいの訪問看護ステーション佐倉・せいのケアプランセンター佐倉を含む

※欠勤・休職者含む

病院統計

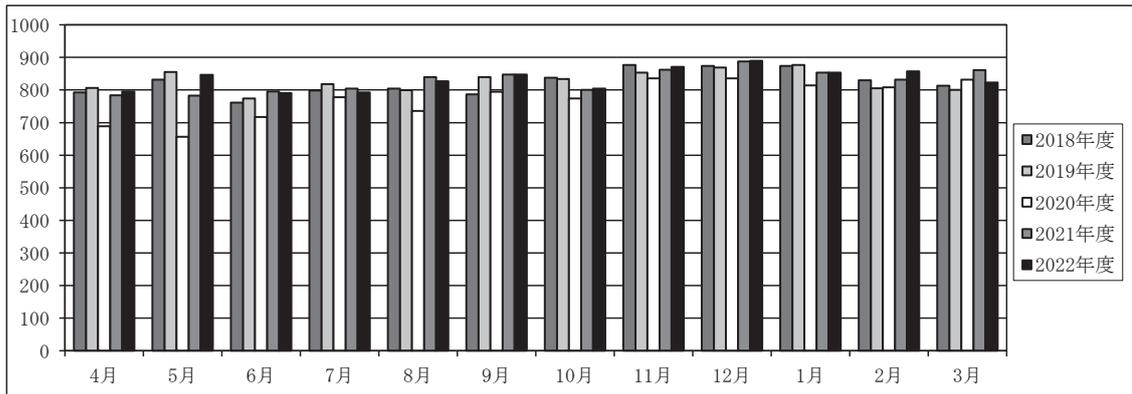
●1日平均入院患者数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	248.0	265.4	289.6	291.5	292.2	276.2	258.9	264.7	264.6	271.0	300.7	273.9	274.6
2019年度	276.8	279.2	283.4	293.0	284.2	291.1	293.1	295.5	297.1	282.4	297.6	291.5	288.7
2020年度	259.3	196.4	233.0	257.1	251.4	247.8	262.4	286.3	274.7	273.1	290.9	270.9	258.4
2021年度	292.7	313.3	317.1	323.1	306.3	286.1	278.5	306.9	328.2	329.4	328.1	314.2	310.3
2022年度	307.4	293.0	298.2	279.9	298.5	294.3	281.7	303.5	292.4	270.4	298.6	294.5	292.6



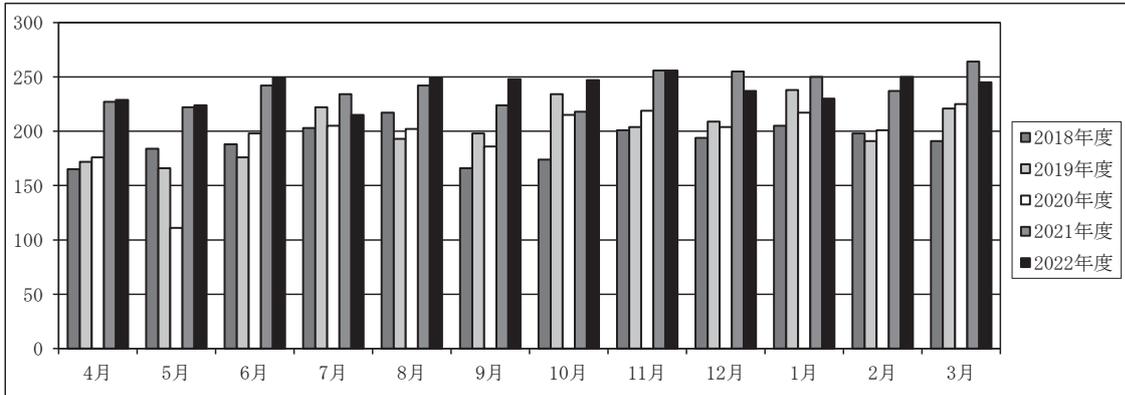
●1日平均外来患者数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	792.5	831.9	761.5	798.8	804.6	786.8	837.6	876.6	873.4	874.3	830.1	813.0	822.6
2019年度	806.7	855.4	774.3	818.3	799.8	839.7	833.6	853.8	868.8	876.9	805.7	800.6	827.0
2020年度	688.8	656.3	716.8	777.6	735.9	794.6	773.6	835.4	836.0	814.1	808.4	831.5	771.9
2021年度	784.1	783.0	795.6	803.8	839.4	847.2	800.5	861.7	887.1	853.2	831.5	861.2	828.7
2022年度	795.7	846.5	790.8	792.6	826.7	847.5	804.0	870.6	889.9	853.7	856.7	822.7	832.1



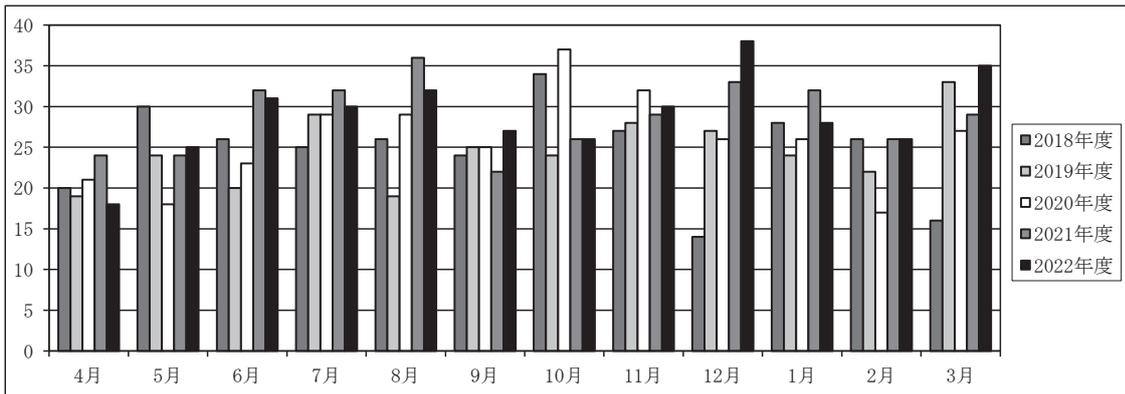
●入院手術件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	165	184	188	203	217	166	174	201	194	205	198	191	190.5
2019年度	172	166	176	222	193	198	234	204	209	238	191	221	202.0
2020年度	176	111	198	205	202	186	215	219	204	217	201	225	196.6
2021年度	227	222	242	234	242	224	218	256	255	250	237	264	239.3
2022年度	229	224	249	215	249	248	247	256	237	230	250	245	239.9



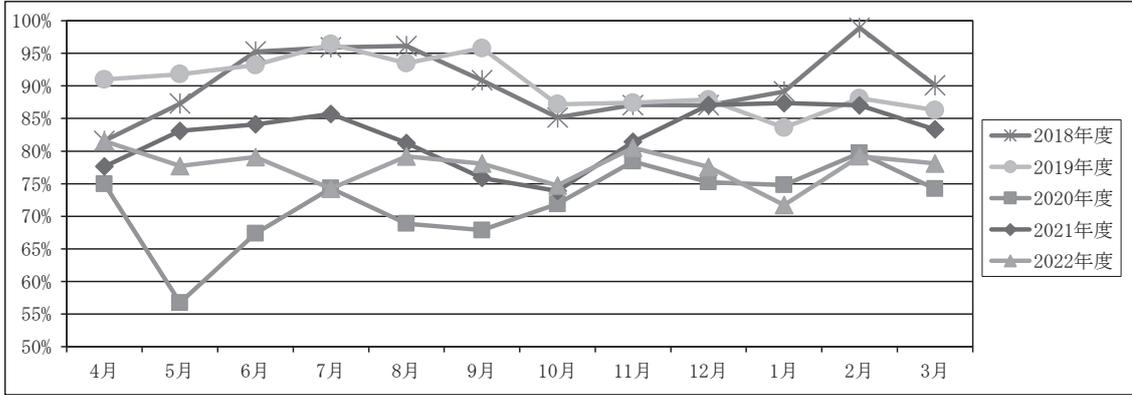
●外来手術件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	20	30	26	25	26	24	34	27	14	28	26	16	24.7
2019年度	19	24	20	29	19	25	24	28	27	24	22	33	24.5
2020年度	21	18	23	29	29	25	37	32	26	26	17	27	25.8
2021年度	24	24	32	32	36	22	26	29	33	32	26	29	28.8
2022年度	18	25	31	30	32	27	26	30	38	28	26	35	28.8



●病床稼働率推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	81.6%	87.3%	95.3%	95.9%	96.1%	90.9%	85.2%	87.1%	87.0%	89.2%	98.9%	90.1%	90.3%
2019年度	91.0%	91.8%	93.2%	96.4%	93.5%	95.8%	87.2%	87.4%	87.9%	83.6%	88.1%	86.3%	90.0%
2020年度	75.0%	56.7%	67.4%	74.3%	68.9%	67.9%	71.9%	78.4%	75.3%	74.8%	79.7%	74.2%	72.0%
2021年度	77.6%	83.1%	84.1%	85.7%	81.2%	75.9%	73.9%	81.4%	87.1%	87.4%	87.0%	83.3%	82.3%
2022年度	81.5%	77.7%	79.1%	74.3%	79.2%	78.1%	74.7%	80.5%	77.6%	71.7%	79.2%	78.1%	77.6%

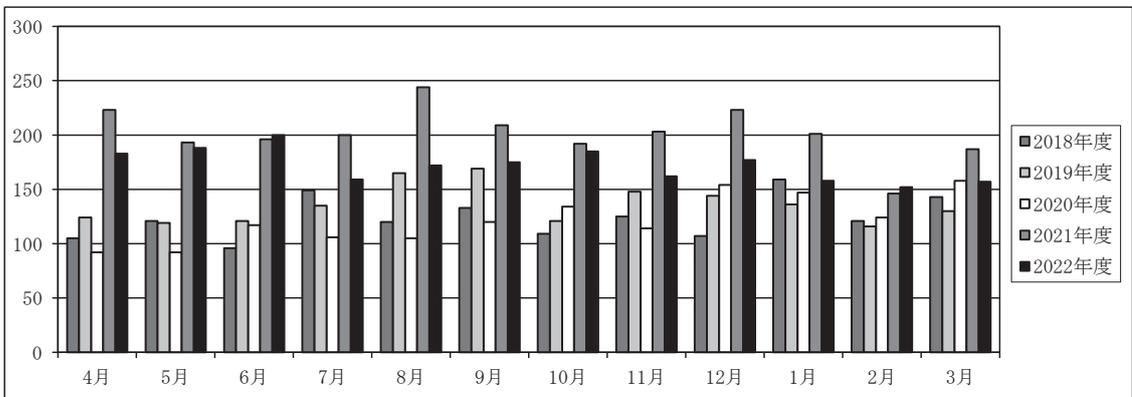


●コロナ病棟病床稼働率推移 (参考値)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2020年度	23.3%	11.5%	6.7%	7.7%	11.1%	6.1%	8.2%	13.9%	40.3%	44.6%	41.7%	31.4%	20.5%
2021年度	11.3%	19.7%	1.9%	26.0%	29.6%	21.7%	0.5%	-	-	-	-	-	9.3%
2022年度	-	-	-	7.5%	32.1%	23.1%	15.4%	42.8%	47.1%	96.1%	11.3%	35.7%	18.9%

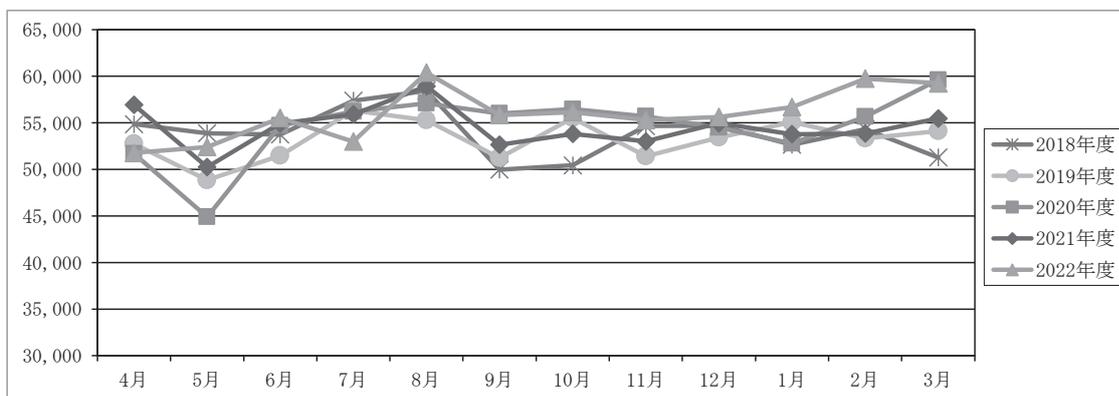
●救急車搬入件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	105	121	96	149	120	133	109	125	107	159	121	143	124.0
2019年度	124	119	121	135	165	169	121	148	144	136	116	130	135.7
2020年度	92	92	117	106	105	120	134	114	154	147	124	158	121.9
2021年度	223	193	196	200	244	209	192	203	223	201	146	187	201.4
2022年度	183	188	200	159	172	175	185	162	177	158	152	157	172.3



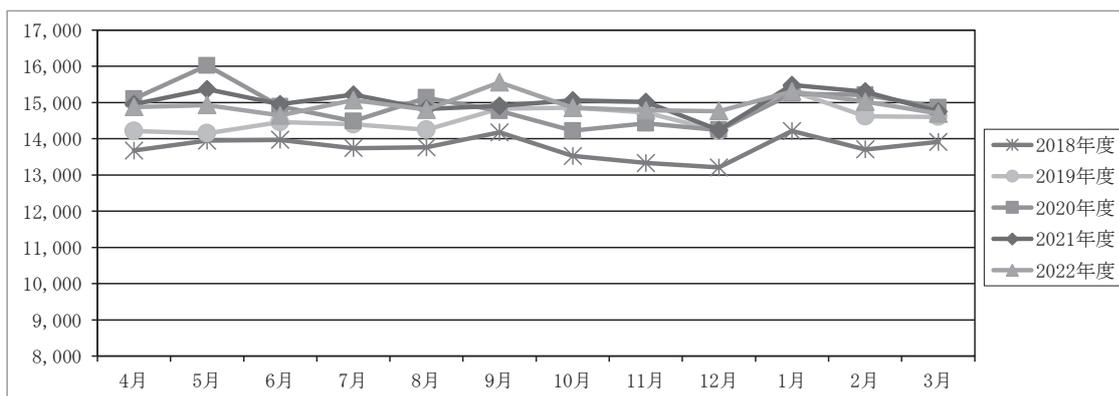
●入院平均単価推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	54,860	53,875	53,744	57,380	58,434	49,966	50,434	54,649	54,706	52,646	54,320	51,284	53,892
2019年度	52,748	48,854	51,477	56,316	55,276	51,249	55,534	51,418	53,427	55,061	53,324	54,113	53,263
2020年度	51,677	44,895	54,691	56,217	57,099	56,009	56,472	55,701	54,506	52,789	55,657	59,617	54,838
2021年度	56,938	50,244	54,931	55,906	58,934	52,638	53,804	53,002	54,959	53,780	53,851	55,472	54,548
2022年度	51,777	52,395	55,530	52,986	60,383	55,842	56,133	55,300	55,637	56,687	59,740	59,243	55,956



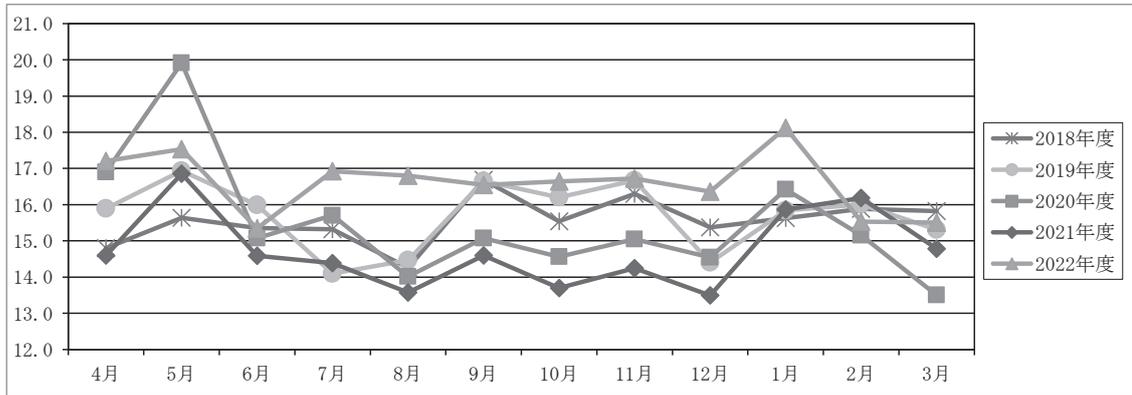
●外来平均単価推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	13,679	13,949	13,970	13,741	13,762	14,179	13,523	13,335	13,210	14,217	13,707	13,911	13,761
2019年度	14,214	14,149	14,458	14,399	14,247	14,831	14,854	14,721	14,214	15,321	14,620	14,607	14,551
2020年度	15,104	16,023	14,896	14,489	15,134	14,770	14,224	14,428	14,245	15,248	15,211	14,863	14,852
2021年度	14,951	15,371	14,954	15,220	14,825	14,913	15,059	15,019	14,242	15,485	15,303	14,750	14,995
2022年度	14,879	14,932	14,645	15,071	14,807	15,558	14,859	14,785	14,764	15,309	15,026	14,700	14,940



●平均在院日数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	14.8	15.6	15.4	15.3	14.3	16.7	15.5	16.3	15.4	15.6	15.9	15.8	16.1
2019年度	15.9	16.9	16.0	14.1	14.5	16.7	16.2	16.7	14.4	15.8	16.0	15.3	15.6
2020年度	16.9	19.9	15.1	15.7	14.0	15.1	14.6	15.1	14.5	16.4	15.2	13.5	15.3
2021年度	14.6	16.9	14.6	14.4	13.6	14.6	13.7	14.2	13.5	15.9	16.2	14.8	14.7
2022年度	17.2	17.5	15.3	16.9	16.8	16.5	16.6	16.7	16.4	18.1	15.5	15.5	16.6



●病棟別在院日数

2022年度

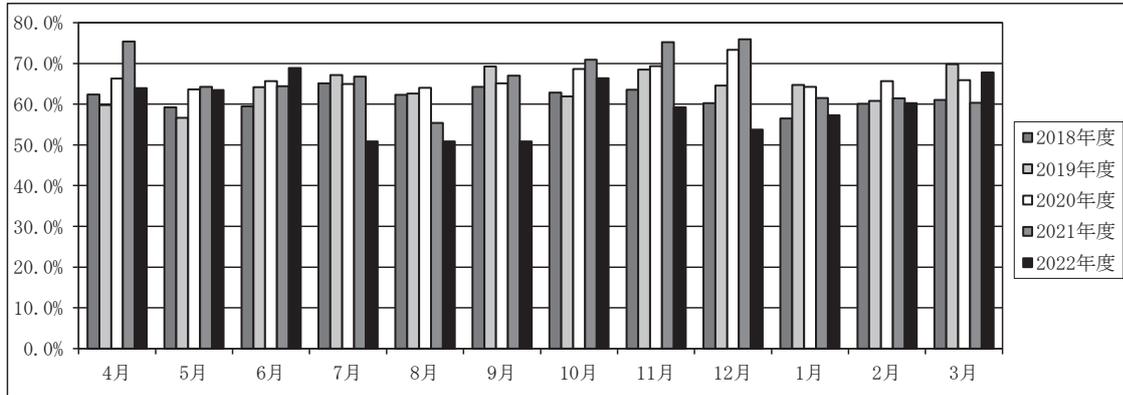
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
A2病棟	7.4	7.0	7.2	9.6	10.8	8.5	9.0	9.2	9.8	10.1	9.6	8.8	8.8
A3病棟	22.4	25.0	23.2	23.7	22.7	21.8	21.3	23.1	25.6	21.6	22.8	22.7	22.9
A4病棟	15.5	18.7	14.3	20.9	18.2	15.1	20.3	23.2	18.9	20.7	22.0	18.3	18.5
A5病棟	24.3	34.3	25.3	15.9	17.3	17.7	15.5	18.3	15.8	18.0	15.0	15.8	18.3
B2病棟	13.0	13.4	13.4	13.8	15.0	15.2	14.9	16.2	16.6	16.1	12.6	13.8	14.4
B3病棟	21.8	21.8	20.5	13.5	15.1	20.8	20.2	19.5	19.7	20.9	16.4	15.3	18.3
B4病棟	23.9	25.7	25.6	29.8	-	-	-	7.6	21.4	37.4	14.6	22.6	24.2
B5病棟	10.7	9.4	6.7	8.7	10.1	11.9	9.4	9.8	9.0	9.2	8.7	8.8	9.3
C3病棟	-	-	-	9.1	10.6	12.3	10.5	14.7	12.2	18.7	10.0	21.9	13.1

※B4病棟：8月～10月まで休棟／C3病棟：7月よりコロナ病棟として再稼働

なお、11月以降はコロナの感染状況を踏まえ、B4・C3病棟にて一般患者・コロナ患者を受入

●紹介率推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	62.3%	59.2%	59.4%	65.1%	62.3%	64.3%	62.9%	63.5%	60.2%	56.5%	60.1%	61.0%	61.4%
2019年度	59.8%	56.6%	64.2%	67.2%	62.6%	69.3%	61.9%	68.5%	64.6%	64.7%	60.8%	69.8%	64.2%
2020年度	66.3%	63.7%	65.7%	64.9%	64.0%	65.1%	68.7%	69.3%	73.3%	64.3%	65.7%	65.9%	66.5%
2021年度	75.3%	64.2%	64.4%	66.8%	55.4%	67.0%	70.9%	75.2%	75.9%	61.5%	61.4%	60.3%	66.6%
2022年度	63.9%	63.5%	68.9%	50.9%	50.9%	50.9%	66.4%	59.2%	53.8%	57.3%	60.3%	67.7%	59.2%



●診療科別紹介率

2022年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
内科	32.9%	41.4%	39.4%	19.2%	9.9%	22.1%	36.8%	17.8%	16.8%	28.6%	46.5%	43.2%	24.1%
腎臓内科	73.1%	84.3%	94.4%	73.4%	64.6%	75.4%	104.9%	94.2%	85.3%	71.4%	72.2%	85.1%	82.1%
代謝内分泌科	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	80.0%	75.0%	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	80.0%	91.8%
呼吸器内科	140.0%	114.3%	137.5%	100.0%	92.3%	150.0%	50.0%	200.0%	85.7%	83.3%	100.0%	116.7%	109.4%
消化器内科	101.7%	91.8%	109.2%	93.9%	86.5%	100.0%	103.7%	94.3%	100.0%	93.5%	97.2%	100.0%	97.6%
総合内科	43.8%	23.3%	39.3%	40.7%	48.4%	44.9%	52.1%	51.6%	53.0%	45.6%	36.8%	44.7%	44.1%
循環器科	81.3%	92.9%	100.0%	80.0%	76.9%	100.0%	83.3%	100.0%	84.6%	100.0%	75.0%	84.2%	89.0%
神経内科	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
小児科	34.1%	40.4%	55.4%	38.9%	34.8%	22.5%	30.1%	20.4%	24.0%	27.7%	22.7%	36.7%	32.8%
外科	86.9%	87.3%	108.6%	59.7%	71.2%	84.1%	62.0%	79.6%	63.8%	94.3%	66.7%	67.7%	76.4%
乳腺外科	42.9%	41.4%	52.9%	48.6%	63.4%	55.2%	80.0%	71.7%	60.0%	70.0%	72.3%	53.7%	60.0%
血管外科	40.0%	50.0%	55.6%	50.0%	50.0%	25.0%	57.1%	28.6%	0.0%	33.3%	62.5%	20.0%	43.2%
皮膚科	16.7%	16.7%	0.0%	21.1%	20.0%	5.9%	27.3%	25.0%	0.0%	12.5%	16.7%	25.0%	15.4%
整形外科	86.2%	86.2%	81.0%	78.3%	90.3%	92.4%	90.0%	95.7%	93.2%	82.7%	79.3%	95.8%	87.5%
脳神経外科	26.2%	30.0%	20.5%	18.9%	24.4%	30.3%	30.0%	32.4%	17.9%	21.2%	26.5%	25.5%	25.2%
呼吸器外科	160.0%	108.3%	84.6%	50.0%	95.7%	87.5%	100.0%	113.8%	118.8%	77.8%	91.7%	87.5%	93.4%
泌尿器科	66.7%	48.4%	55.2%	59.3%	57.1%	61.5%	68.0%	53.8%	60.0%	66.7%	61.5%	80.8%	60.9%
眼科	60.8%	70.7%	68.0%	63.6%	74.4%	64.0%	75.0%	76.0%	73.7%	71.4%	74.4%	82.9%	71.0%
耳鼻咽喉科	39.6%	40.4%	46.3%	59.2%	28.1%	53.2%	37.5%	48.3%	39.0%	42.6%	48.0%	29.2%	42.7%
放射線診断科	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.8%
放射線治療科	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
緩和医療科	160.0%	150.0%	175.0%	125.0%	155.6%	100.0%	175.0%	155.6%	183.3%	100.0%	100.0%	142.9%	145.8%
和漢診療科	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	21.4%
形成外科	59.1%	33.3%	46.9%	55.2%	58.3%	55.2%	72.0%	38.5%	72.7%	46.7%	52.2%	59.3%	54.0%
合計	63.9%	63.5%	68.9%	50.9%	48.1%	58.2%	66.4%	59.2%	53.8%	57.3%	60.3%	67.7%	59.2%

●診療科別逆紹介患者数

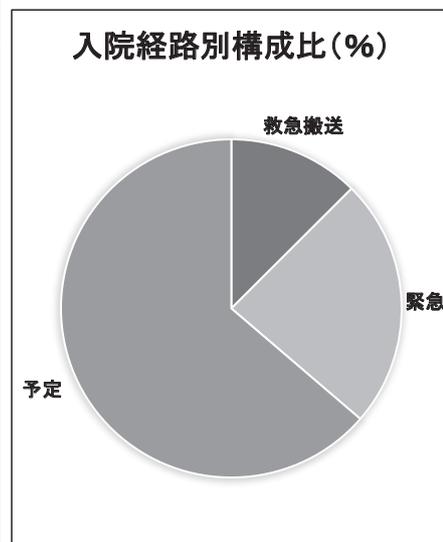
2022年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
内科	2	0	2	3	1	0	4	5	2	3	3	5	2.5
腎臓内科	60	50	70	51	53	62	64	45	53	58	62	72	58.3
透析科	3	0	0	1	0	0	4	0	2	1	2	0	1.1
代謝内分泌科	13	18	30	14	10	22	15	8	10	10	12	8	14.2
呼吸器内科	2	4	3	8	6	7	6	3	4	4	7	7	5.1
消化器内科	43	21	39	21	45	41	35	39	34	18	25	44	33.8
総合内科	3	7	6	10	13	11	8	9	12	7	4	15	8.8
循環器科	34	28	50	33	35	25	25	34	34	25	35	37	32.9
神経内科	4	8	4	2	3	8	3	4	3	5	5	4	4.4
メンタルヘルズ科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0.1
小児科	6	3	7	3	13	11	3	3	2	3	1	7	5.2
外科	25	19	21	21	15	14	16	19	24	23	17	28	20.2
乳腺外科	14	10	9	9	14	11	4	12	7	10	10	15	10.4
血管外科	1	4	3	2	3	6	1	4	3	4	2	2	2.9
皮膚科	6	3	4	6	5	1	6	8	3	0	2	3	3.9
整形外科	177	167	199	165	161	186	163	170	172	157	165	225	175.6
脳神経外科	7	18	12	14	19	13	14	14	12	14	11	24	14.3
呼吸器外科	9	12	12	15	20	21	13	18	29	21	38	47	21.3
泌尿器科	18	23	24	16	24	21	18	23	30	14	31	29	22.6
眼科	44	33	40	41	33	40	34	37	30	25	32	35	35.3
耳鼻咽喉科	24	21	28	14	18	17	15	13	21	12	18	18	18.3
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
放射線診断科	72	49	77	60	58	62	61	55	64	65	56	81	63.3
放射線治療科	6	10	4	5	2	4	2	0	13	6	8	5	5.4
緩和医療科	2	6	3	3	5	3	2	5	2	1	2	4	3.2
和漢診療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
形成外科	8	3	4	3	4	9	5	5	7	1	4	7	5.0
合計	583	517	651	520	560	596	521	533	573	487	552	722	567.9

●入院経路別患者数

2022年度

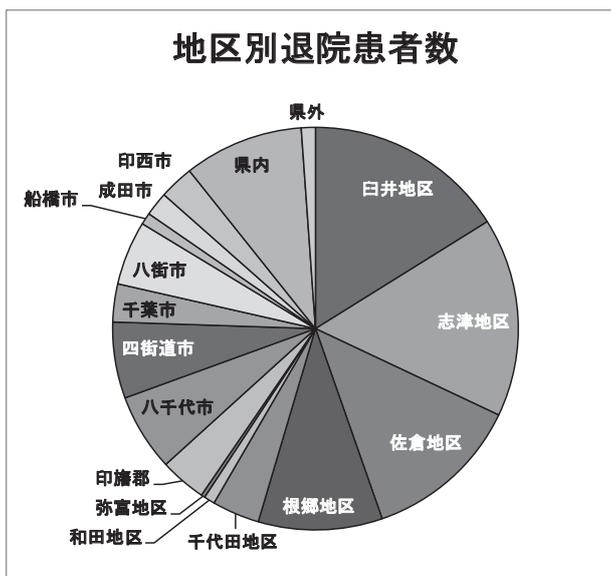
	件数 (件)				構成比 (%)		
	合計	救急搬送	緊急	予定	救急搬送	緊急	予定
腎臓内科	992	187	368	437	18.8%	37.1%	44.1%
呼吸器内科	39	19	17	3	48.7%	43.6%	7.7%
消化器内科	1,215	159	353	703	13.1%	29.1%	57.9%
総合内科	34	7	19	8	20.6%	55.9%	23.5%
循環器科	162	3	40	119	1.9%	24.7%	73.5%
小児科	96	1	46	49	1.0%	47.9%	51.0%
外科	467	28	118	321	6.0%	25.3%	68.7%
乳腺外科	243	5	18	220	2.1%	7.4%	90.5%
血管外科	26	0	2	24	0.0%	7.7%	92.3%
整形外科	1,479	295	346	838	19.9%	23.4%	56.7%
呼吸器外科	407	53	103	251	13.0%	25.3%	61.7%
泌尿器科	345	19	55	271	5.5%	15.9%	78.6%
眼科	852	0	8	844	0.0%	0.9%	99.1%
耳鼻咽喉科	153	22	58	73	14.4%	37.9%	47.7%
リハビリテーション科	9	0	0	9	0.0%	0.0%	100.0%
放射線治療科	3	0	0	3	0.0%	0.0%	100.0%
緩和医療科	103	28	30	45	27.2%	29.1%	43.7%
合計	6,625	826	1,581	4,218	12.5%	23.9%	63.7%



●地区別患者数

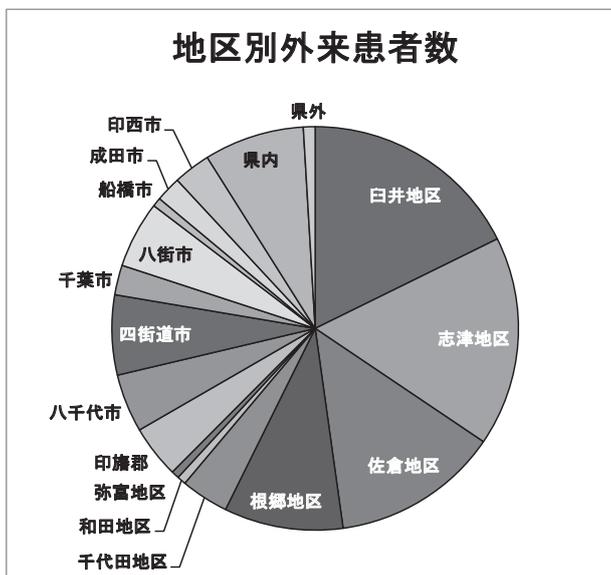
退院患者 (2022年度実績)

地区	人数	比率
白井地区	1,075	16.1%
志津地区	1,068	16.0%
佐倉地区	843	12.6%
根郷地区	661	9.9%
千代田地区	253	3.8%
和田地区	58	0.9%
弥富地区	20	0.3%
佐倉市小計	3,978	59.5%
印旛郡	248	3.7%
八千代市	414	6.2%
四街道市	409	6.1%
千葉市	204	3.1%
八街市	344	5.1%
船橋市	63	0.9%
成田市	128	1.9%
印西市	184	2.8%
その他県内	638	9.5%
県外他	75	1.1%
合計	6,685	100.0%



外来患者 (2022年度実績)

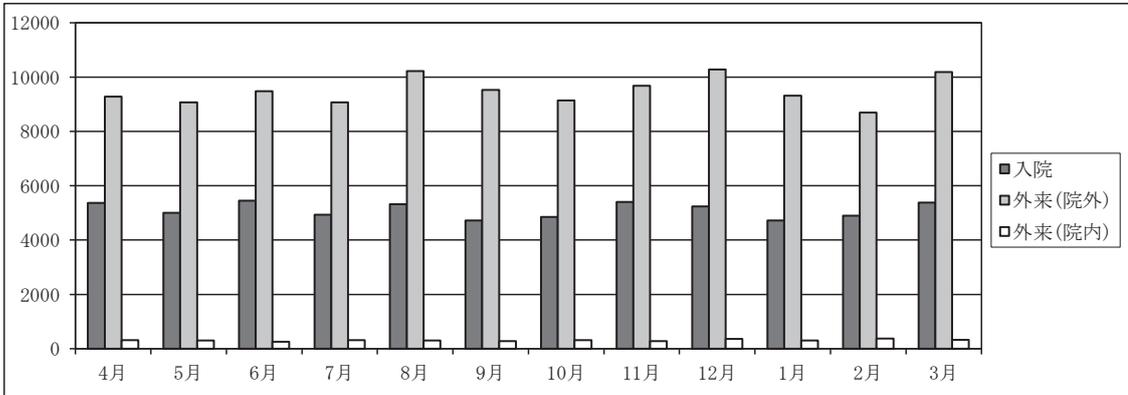
地区	人数	比率
白井地区	43,108	17.7%
志津地区	40,978	16.8%
佐倉地区	32,456	13.3%
根郷地区	23,082	9.5%
千代田地区	9,285	3.8%
和田地区	1,711	0.7%
弥富地区	1,513	0.6%
佐倉市小計	152,133	62.4%
印旛郡	10,262	4.2%
八千代市	11,379	4.7%
四街道市	15,611	6.4%
千葉市	5,821	2.4%
八街市	13,025	5.3%
船橋市	1,732	0.7%
成田市	4,925	2.0%
印西市	7,200	3.0%
その他県内	19,441	8.0%
県外他	2,271	0.9%
合計	243,800	100.0%



●処方箋枚数

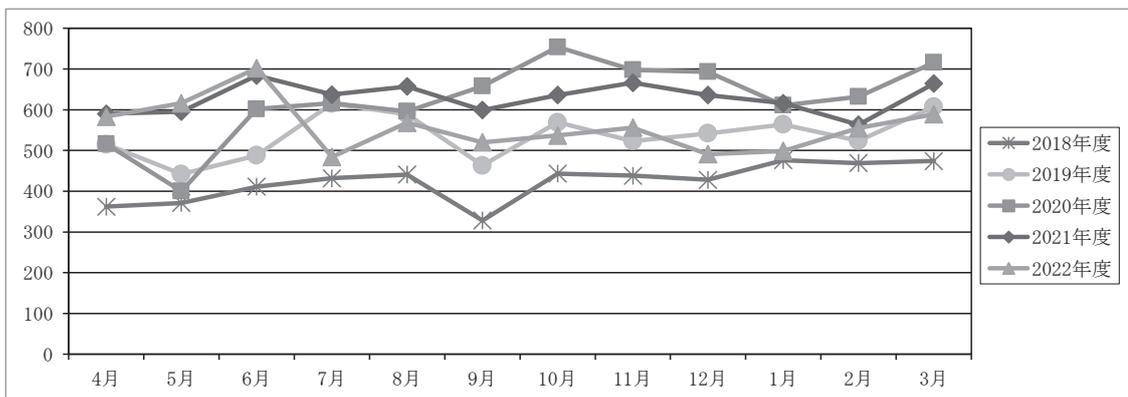
2022年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	5,372	5,009	5,448	4,928	5,321	4,718	4,853	5,399	5,242	4,721	4,896	5,377	5,107.0
外来(院外)	9,279	9,071	9,476	9,068	10,221	9,533	9,135	9,677	10,283	9,320	8,694	10,181	9,494.8
外来(院内)	313	305	260	321	306	284	314	282	364	305	371	322	312.3
合計	14,964	14,385	15,184	14,317	15,848	14,535	14,302	15,358	15,889	14,346	13,961	15,880	14,914.1



●服薬指導件数推移

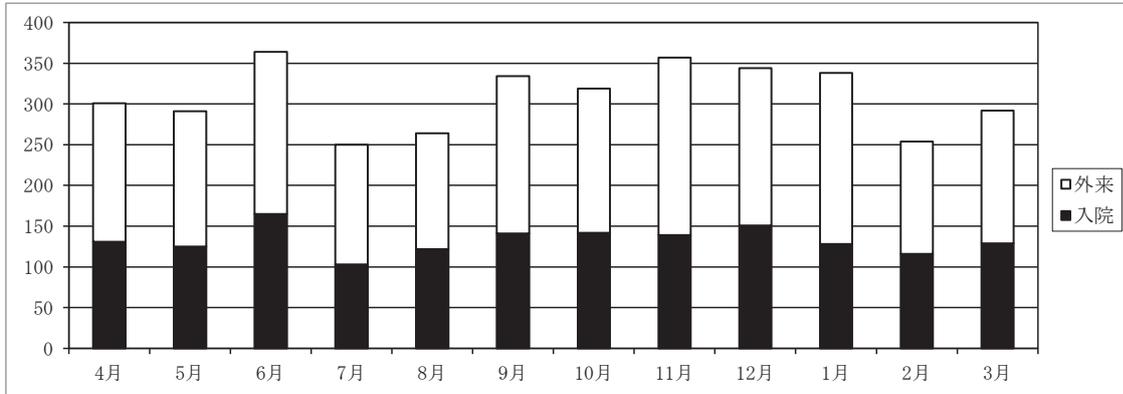
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	362	371	411	432	441	328	443	438	428	476	469	474	422.8
2019年度	515	442	488	615	589	463	569	523	542	564	524	607	536.8
2020年度	516	400	602	616	596	658	754	698	693	611	632	716	624.3
2021年度	590	595	684	637	657	599	636	666	636	616	563	664	628.6
2022年度	583	616	702	484	568	520	537	556	491	499	555	589	558.3



●栄養指導件数（入院・外来）

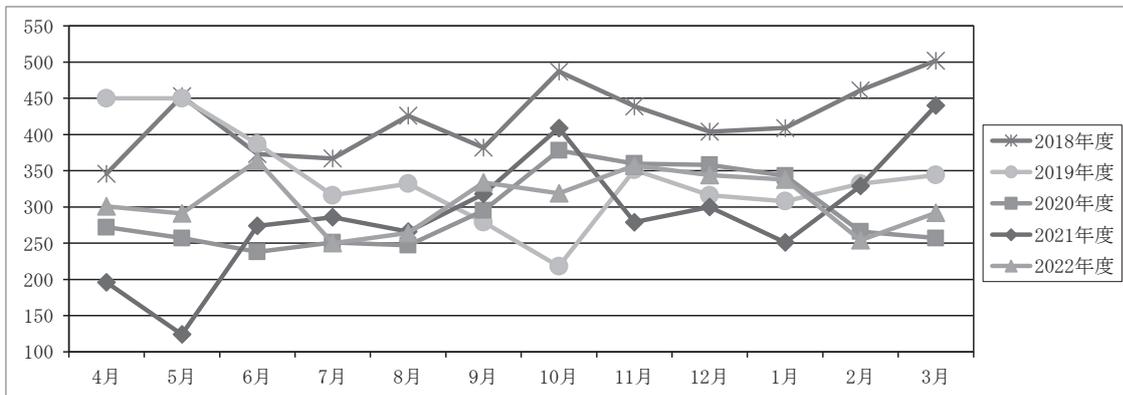
2022年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	131	125	165	103	122	141	142	139	151	128	116	129	132.7
外来	170	166	199	147	142	193	177	218	193	210	138	163	176.3
合計	301	291	364	250	264	334	319	357	344	338	254	292	309.0



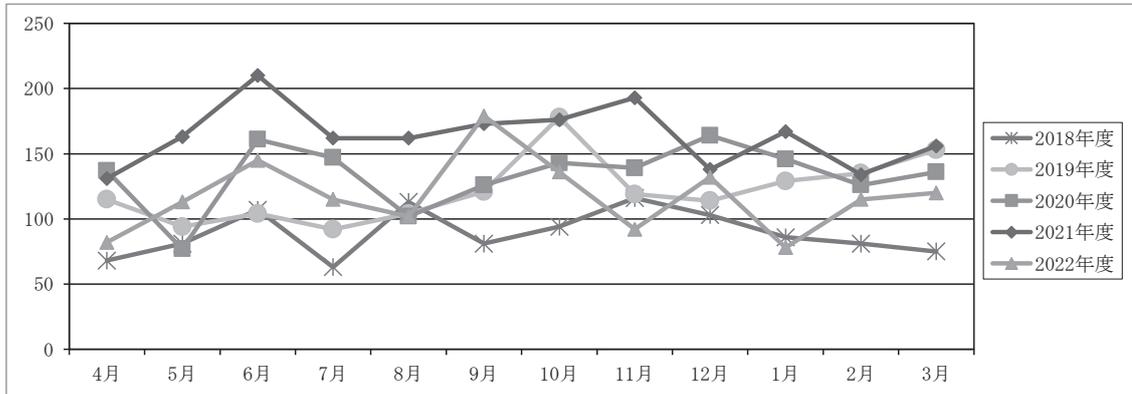
●栄養指導件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	346	453	373	367	426	382	487	439	404	409	461	502	420.8
2019年度	450	450	387	316	332	279	218	351	316	308	332	344	340.3
2020年度	272	257	238	251	247	295	378	360	358	343	266	257	293.5
2021年度	196	124	274	286	266	318	409	279	300	251	329	440	289.3
2022年度	301	291	364	250	264	334	319	357	344	338	254	292	309.0



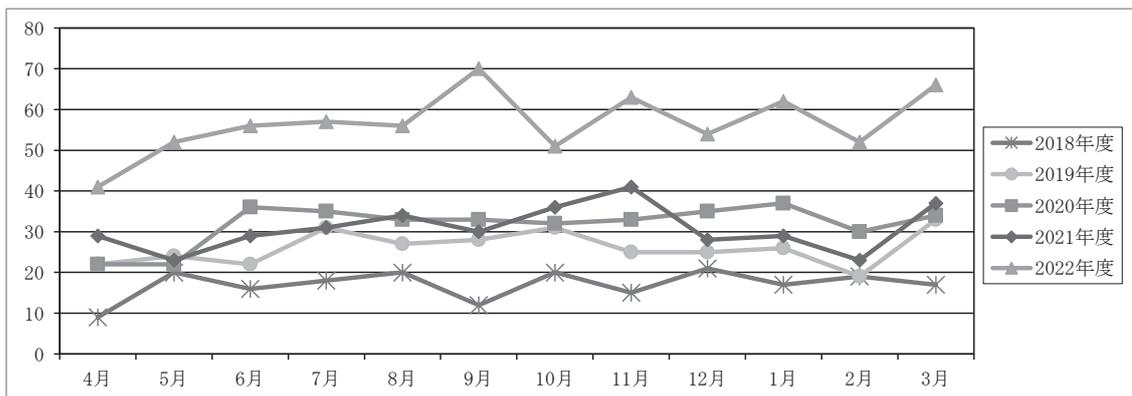
●NST加算件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	68	81	107	63	113	81	94	116	103	86	81	75	89.0
2019年度	115	94	104	92	104	121	178	119	114	129	135	153	121.5
2020年度	137	77	161	147	102	126	143	139	164	146	126	136	133.7
2021年度	131	163	210	162	162	173	176	193	138	167	134	156	163.8
2022年度	82	113	145	115	102	179	136	92	132	78	115	120	117.4



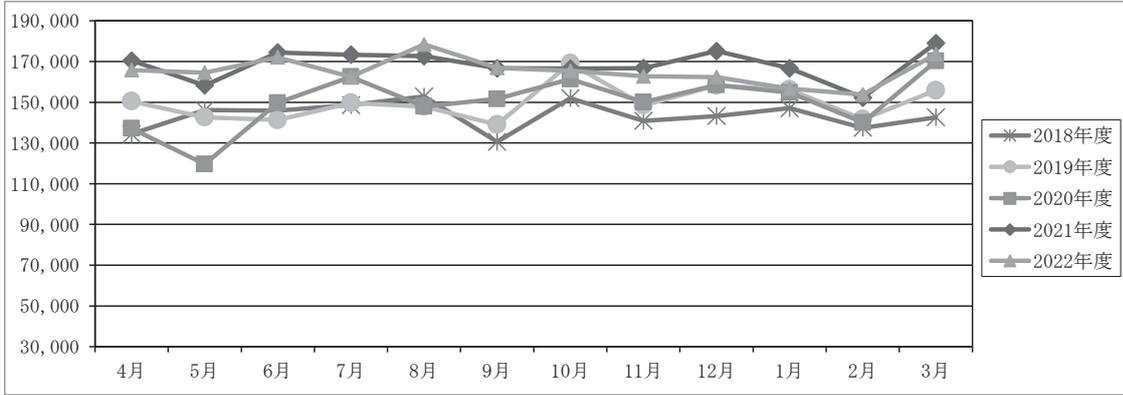
●糖尿病透析予防指導推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	9	20	16	18	20	12	20	15	21	17	19	17	17.0
2019年度	22	24	22	31	27	28	31	25	25	26	19	33	26.1
2020年度	22	22	36	35	33	33	32	33	35	37	30	34	31.8
2021年度	29	23	29	31	34	30	36	41	28	29	23	37	30.8
2022年度	41	52	56	57	56	70	51	63	54	62	52	66	56.7



●検体検査件数推移

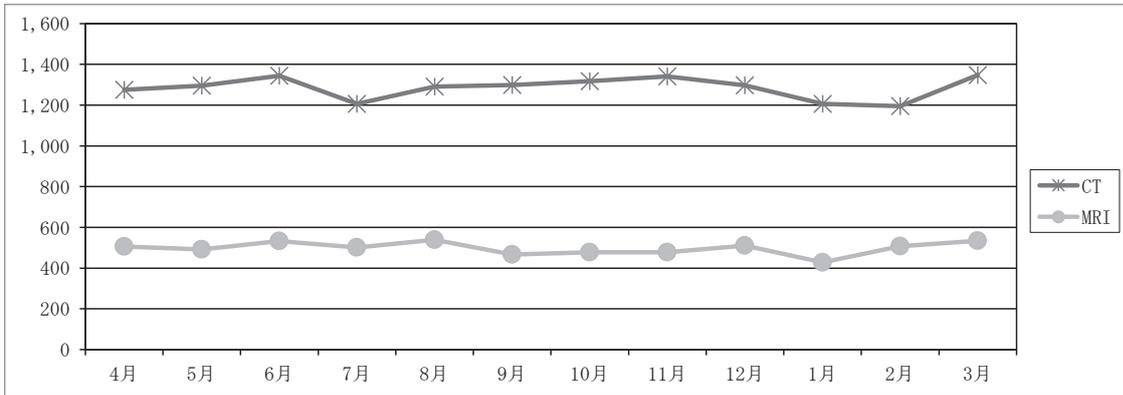
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	134,411	146,115	145,801	148,613	152,827	130,566	152,019	140,864	143,231	147,038	137,440	142,594	143,459.9
2019年度	150,398	142,612	141,236	149,646	147,890	139,003	169,064	148,520	158,157	156,221	141,635	155,875	150,021.4
2020年度	137,103	119,634	149,756	162,483	147,903	151,609	161,332	150,030	158,423	154,741	139,977	170,167	150,263.2
2021年度	170,374	158,280	174,380	173,340	172,631	166,621	166,521	166,716	175,136	166,620	152,259	179,061	168,494.9
2022年度	165,765	164,518	172,064	162,457	178,421	166,856	165,512	162,739	162,348	156,610	153,758	173,653	165,391.8



●画像診断件数 (CT・MRI)

2022年度

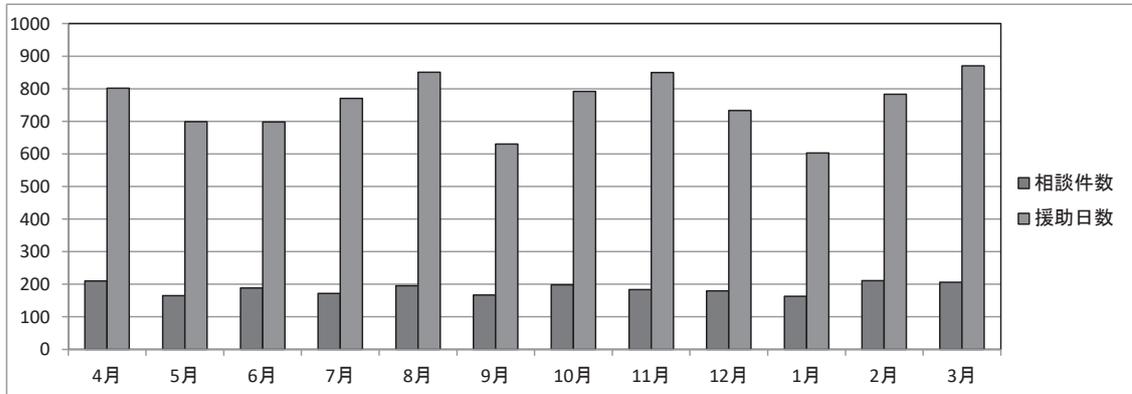
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
CT	1,276	1,295	1,344	1,206	1,291	1,299	1,317	1,341	1,297	1,206	1,195	1,348	1,284.6
MRI	506	492	533	501	539	467	477	477	511	428	508	534	497.8
合計	1,782	1,787	1,877	1,707	1,830	1,766	1,794	1,818	1,808	1,634	1,703	1,882	1,782.3



●医療相談件数

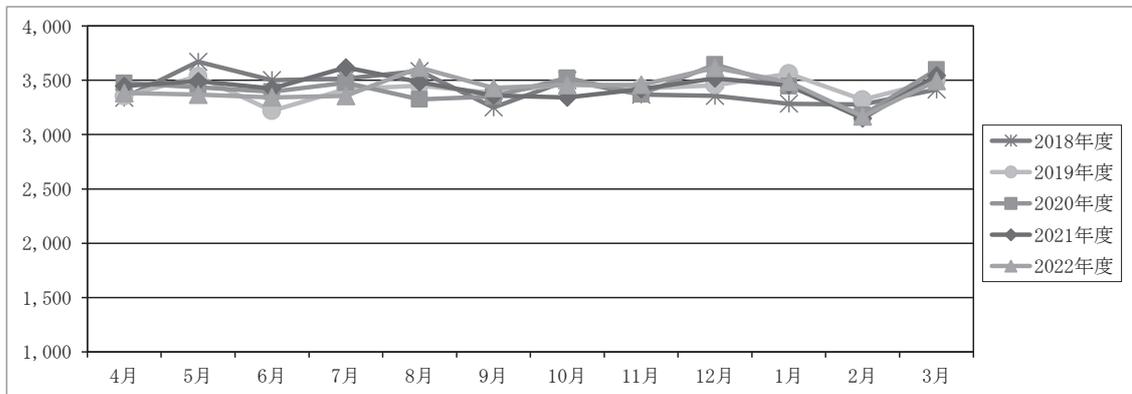
2022年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
相談件数	210	165	189	172	195	167	198	184	180	163	211	206	186.7
援助日数	802	699	698	770	851	630	792	850	733	603	783	870	756.8



●透析件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	3,339	3,671	3,502	3,515	3,585	3,249	3,499	3,367	3,356	3,284	3,278	3,415	3,421.7
2019年度	3,353	3,536	3,219	3,419	3,450	3,382	3,469	3,425	3,455	3,561	3,322	3,496	3,423.9
2020年度	3,473	3,436	3,395	3,477	3,325	3,351	3,520	3,370	3,645	3,444	3,179	3,597	3,434.3
2021年度	3,447	3,492	3,424	3,618	3,482	3,360	3,342	3,418	3,517	3,455	3,149	3,543	3,437.3
2022年度	3,383	3,367	3,343	3,357	3,616	3,429	3,457	3,458	3,615	3,484	3,167	3,495	3,430.9



●診療報酬請求書件数

2022年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	899	850	952	863	890	894	894	887	888	814	867	908	883.8
外来	10,975	10,602	11,235	11,145	12,080	11,395	11,104	11,435	11,949	10,944	10,535	11,747	11,262.2
合計	11,874	11,452	12,187	12,008	12,970	12,289	11,998	12,322	12,837	11,758	11,402	12,655	12,146.0

部門報告

診療部	43
看護部	63
医療技術部	78
事務部	85
医療安全管理室	94
感染管理室	95
健診センター	96
せいれい訪問看護ステーション佐倉	97
せいれいケアプランセンター佐倉	98

《常勤スタッフ》

院長	鈴木 理志	副部長	寺崎 紀子	医師	森本 真有
院長補佐	藤井 隆之	医長	山内 伸章	医師	松永 宇広
副部長	田中 宏明	医師	越坂 純也	医師	面 大地

《診療内容》

当科は、腎臓内科としての専門的治療として、検尿異常から腎障害の進行した保存期慢性腎臓病（CKD）の教育や治療、透析期における腎代替療法、そして透析期合併症治療とシームレスな CKD 治療を行っている。腎生検では CKD の原因疾患を特定し、疾患個々の特徴、活動性に合わせた治療を行っており、CKD 教育においては、患者一人一人の生活背景、合併症等に合わせた多職種でのきめ細かい教育・治療を実践し、腎機能悪化阻止を目指している。末期腎不全に至った場合でも、血液透析、腹膜透析の両治療を提供しており、腎移植を希望される方には移植を行っている施設に紹介している。更に血液透析患者のシャント PTA、腹膜透析の合併症にも対応している。また腎医療のみならず、救急対応、内科一般治療も協力して行っている。

《取り組み》

2022 年度は千葉県の CKD 重症化予防対策開始 2 年目でもあり、佐倉市を始め、印旛市郡の先生方、ならびに CKD 対策協力医の先生方から多くの患者さんをご紹介頂いた。可能な限り腎生検による正確な診断、個別化した CKD 教育・治療などを行い、その上で逆紹介または二人主治医制として診療を行った。また eGFR50%未満と 30%未満に配られる CKD シールは、当院では累計で 1,800 枚近くを配布しており、院外のみならず院内での他科や多職種での CKD 連携にも役立てている。また、腎臓病療養指導士、腎代替療法専門指導士を中心に、多職種による医療者と患者さんとの向き合った医療（SDM）を実践しており、2022 年度は腹膜透析治療の選択が新規に 6 例、血液透析からの移行が 1 例みられ、腎移植は血液透析から 2 例、PEKT1 例であった。

《実績》

	入院患者	腎生検	シャント (PD カテー テル挿入)	透析導入 (HD, PD)	PTA	紹介患者数 (検尿異常, 保存期 CKD, 透析関連)
2017 年度	1,166	63	92(1)	97(96, 1)	74	444(123, 203, 118)
2018 年度	1,073	51	76(2)	95(93, 2)	133	415(100, 234, 81)
2019 年度	1,152	48	62(3)	105(102, 3)	88	443(127, 230, 86)
2020 年度	994	24	75(1)	78(77, 1)	125	336(76, 186, 74)
2021 年度	1,088	42	62(3)	71(68, 3)	135	388(77, 216, 98)
2022 年度	990	39	66(8)	77(70, 7)	170	387(106, 196, 85)

《常勤スタッフ》

名誉院長	佐藤 慎一	主任医長	矢挽 眞士	医 師	門山 知樹
部 長	齊藤 将喜	主任医長	坂本 大		
副 部 長	住吉 良太	医 長	吉川 りょう		

《診療内容》

消化器疾患全般を対象として診療を行っている。消化管領域では内視鏡的粘膜切除術(EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、静脈瘤結紮術(EVL)、胆膵領域では採石術、ドレナージ・ステント留置術、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)を行っている。またウイルス肝炎に対して経口抗ウイルス薬(DAA)による治療、肝細胞癌に対して肝動脈化学塞栓療法(TACE)、ラジオ波焼灼療法(RFA)を行っている。更に、手術適応とならない消化器悪性腫瘍に対する抗癌剤治療など、専門性の高い医療を提供している。

《取り組み》

- ① 内科医としてのしっかりした土台をつくりながら、特に消化管・胆膵の内視鏡治療、肝癌の集学的治療に力を入れている。
- ② 毎朝の消化器内科ミーティングを行い、科内で問題症例を把握し、治療方針を共有できる体制にした。また毎週外科との合同カンファレンスを行い、手術適応となる症例については密に連携を図り、患者さんにとって最適な医療が提供できるように努めている。
- ③ 超音波内視鏡関連手技(EUS-FNA:穿刺吸引細胞診、EUS-CDS:膵仮性嚢胞ドレナージ、EUS-BD:胆道ドレナージ)を積極的に行っている。
- ④ 非切除消化器癌に対して診断、化学療法、ポート造設、緩和医療科と一連の治療を科内で行える体制を整えている。

《実績》

入院患者数：1,281人
上部内視鏡(GF)：2,246件
内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)：13件
下部内視鏡(CF)：2,096件
内視鏡的粘膜切除術(EMR)：505件
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)：307件
超音波内視鏡(EUS)：44件
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)：30件
超音波内視鏡下胆道ドレナージ(EUS-BD)：2件
ラジオ波焼灼療法(RFA)：5件
肝動脈化学塞栓療法(TACE)：4件

《常勤スタッフ》

医 長 山岸 一貴

《診療内容》

当科では2019年10月より常勤1名体制である。2020年度、2021年度においては完全予約制で、月・木曜日午前午後の外来診療を行った。2022年度は非常勤医師の金曜日勤務が追加となった。外来では呼吸器内科一般の診療を行っており、咳嗽、喀痰、安静時・労作時の呼吸困難、胸痛などの症状を受け付けた。疾患では気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、非結核性抗酸菌症、肺結核、細菌性ないしウイルス性肺炎、肺真菌症、気管支拡張症、塵肺、気質化肺炎や特発性肺線維症などの間質性肺炎、びまん性汎細気管支炎などのびまん性肺疾患、肺分画症等の先天性異常、肺動脈血栓塞栓症、胸部異常陰影精査、肺動静脈瘻などである。必要に応じ放射線・生理検査や呼気ガス分析、血液ガス分析、採血などを行い、治療や経過観察を行っている。なお、当科での精査加療が困難な胸部悪性疾患や手術を要する可能性のある気胸等は、呼吸器外科との連携を行った。

2020年から月曜日午後に認定看護師と共に行っている禁煙外来であるが、パニクレリン製剤へのニトロソアミン混入によるファイザー社の自主回収および出荷停止、及びこれに起因する需要集中によるニコチン貼付剤供給不安定があったが、後者は改善したため、2022年度はニコチン貼付剤の供給再開により月2~3人程度の新患を受け入れることができた。

《取り組み》

気管支喘息の治療においては、引き続き診断、内服薬・外用薬による治療、分子標的薬による治療体制を整えている。この背景には、放射線科・検査科との連携による各種検査がスムーズに行えていること、外来において薬剤調製および吸入などの薬剤の適切な使用に関する指導が円滑に行えていることがある。

また、2019年10月より常勤体制を構築したことに関連し、2020年度、2021年度に引き続き、2022年度においても近隣開業医、近隣大学病院等との地域連携を深めるため、オンラインやハイブリッドの講演会を開催することができた。2023年度は、COVID-19が5類感染症相当に変更になったことを受け、引き続き病診連携および医薬連携を推進していく。

2022年度は、2020年度に導入した呼気一酸化窒素検査の機器等により、気管支喘息の診断、治療について、地域をリードする医療を行うことができています。例えば2022年11月に発売された最新の新規抗体製剤を、必要性の高い患者に適切かつ迅速に行い、最初の約1か月で7名の患者に届けることができた。地域医療機関からの紹介も増加傾向となっている。

《実績》

当科でもCOVID-19感染拡大および収束に伴い、診療分担の従事を継続した。当科では一方で吸入薬のアドヒアランス向上により、急性増悪の頻度が減った印象であったが、他方で全国的なCOVID-19オミクロン株への置換・流行により、COVID-19に罹患した患者が増加した。

循環器科

部長 徳山 権一

《常勤スタッフ》

部長 徳山 権一

《診療内容》

循環器外来(虚血性心疾患、大動脈弁狭窄症、動脈硬化症、不整脈、ペースメーカー)と心不全症例の外来、入院での管理、心臓カテーテル検査、治療、末梢血管形成術を中心に行っている。当院には慢性心不全看護認定看護師 1 名、心不全療養指導士 5 名(看護師 3 名、管理栄養士 1 名、薬剤師 1 名)が在籍しており、質の高い療養指導を通じて心不全患者に対してサポートを行っている。

主たる疾患 高血圧症および合併する生活習慣病、虚血性心疾患、弁膜症、心不全、不整脈(心房細動等)、閉塞性動脈硬化症

外来検査 心電図、心エコー、経食道エコー、頸動脈エコー、下肢静脈エコー、トレッドミル検査、血圧脈波、ABI、負荷心筋スペクト(運動・薬物)、心臓 CT(64 列)

入院検査 心臓カテーテル検査、冠動脈造影、左室造影、大動脈造影、右心カテーテル検査、冠動脈血流予備能検査、冠動脈血管内超音波検査

入院治療 経皮的冠動脈形成術、経皮的下肢動脈形成術、下大静脈フィルター留置、抜去、ペースメーカー植え込み術

《取り組み》

1. 生活習慣病症例においては重篤な循環器疾患等を発症しないように生活管理を含め、他科の医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士等の多職種と連携しながら多面的に予防する。
2. 循環器疾患を疑われるような症例において他部門のスタッフと協力しながら迅速にかつ適切に診断できるように最大限努める。
3. 心臓カテーテル検査、治療、下肢動脈の血管内治療がより適正、安全に施行できるように多職種と連携する。
4. 患者さん、そのご家族が病状について十分理解できるようにわかりやすく説明するよう努力し、また安心して当院に通院、治療ができるよう診療体制を整備する。
5. 循環器チーム委員会を隔月開催し、患者さんの情報を多職種で共有し、よりよい医療を実践する。外来待合室に患者さん向けのビデオやポスターを設置し、循環器疾患の予防と病気の理解が深まるように啓発活動を行う。
6. 院内で年数回勉強会を開催し、循環器疾患に対する理解を深めることにより地域にさらに貢献できるように努める。

《実績》

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
心臓カテーテル検査および経皮的冠動脈形成術・血管内治療(治療)	104(48)	154(78)	133(81)
心臓 CT(64 列) 検査	72	94	90
負荷心筋シンチ	64	62	45

《常勤スタッフ》

副院長 有田 誠司 主任医長 武内 俊章 医師 池口 文香
部長 小池 直人 医長 岡田 晃一郎

《診療内容》

消化器外科を中心に消化器癌の抗癌剤治療、内視鏡治療等広い分野をカバーしている。増加する超高齢患者の外科治療も積極的に行っている。

《取り組み》

遠方の基幹病院まで行くことが億劫なお年寄りに対しても、状態を考慮しながら可能な限り高難度手術まで安全に行うように努めている。手術にはこれまで以上に腹腔鏡手術を積極的に取り入れている。2023年度は常勤医として内視鏡外科技術認定医の岡田医師が加わり、大学から手術指導の医師も同様に派遣され、高度な手術も腹腔鏡で積極的に対応できるようになった。昨今注目されている遺伝性腫瘍に関しては、乳腺外科、検査科と連携し見逃しのないようスクリーニングを行い、基幹病院と連携しながらゲノム医療も取り入れている。

《実績》

コロナ禍の中、2022年度は2021年度より手術症例は若干減少した。しかし、別表のごとく、ヘルニアを除く術式の腹腔鏡手術の割合は当院でも50%近くになった。

ところで、当院は、一般病院であるので胆道がんの比率が多いわけではないが、胆管癌に先行する前浸潤性病変である胆管内乳頭状腫瘍(intraductal papillary neoplasm of the bile duct; IPNB)を3例経験したので第34回日本肝胆膵外科学会学術集会に報告した。IPNBは比較的稀な腫瘍で胆道腫瘍の4-15%とされている。浸潤転移が比較的少ないため予後は通常の胆管癌よりやや良いが、スキップや胆管内播種など、独特の進展を呈することがあるため、根治には慎重な手術計画が必要である。粘液産生を呈する典型的なIPMNでは特に転移が稀であることからリンパ節郭清は控えめで良い可能性がある。しかし、粘液のために術前の進展評価が困難であることがあり、根治切除には十分なマージンをとって切除する必要があると思われた。

		その他	腹腔鏡
食道	胸部食道胃噴門部切除		
	その他(ESD)		
胃	幽門側胃切除術	9	6
	胃全摘術	8	
	噴門側胃切除術	0	
	胃部分切除術	0	0
	胃その他手術(バイパス試験開腹)	1	0
	胃(ESD)	1	
大腸	イレウス解除術	11	0
	虫垂切除術	0	17
	回盲部切除	6	5
	S状結腸切除	2	5
	右結腸切除	14	5
	バイパス	0	
	左(横行)結腸切除	5	2
	人工肛門造設術	6	1
	人工肛門閉鎖術	6	
	高位前方切除術	2	6
	低位・超低位前方切除術	1	6
	腹会陰式直腸切断術	2	1
	経肛門的直腸腫瘍摘出術	0	
	Hartmann手術	2	
	大腸全摘・亜全摘術	0	
	痔核、裂孔、痔瘻など	10	
骨盤内臓全摘術	0		
肝胆膵	HPD	0	
	PD	7	
	膵全摘	0	
	膵体尾部切除	2	
	肝切除(部分切除)	2	
	肝切除(垂区域切除以上)	2	
	肝門部胆管癌手術	1	
	胆嚢癌手術	1	
	胆管空腸吻合術	2	
	胆嚢摘出術	1	52
	胆管切開術	2	
脾摘	0		
ヘルニア など	鼠径ヘルニア	125	
	大腿閉鎖孔ヘルニア	1	
	腹壁ヘルニア	3	
	汎発性腹膜炎手術	3	1
	その他(局麻)	0	
	その他(全麻)	5	2
合計	243	109	

《常勤スタッフ》

部長 村上 敏史

《診療内容》

緩和医療は「生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族の QOL を、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチである」と定義されている（WHO 2002）。当科はこの定義に基づき、以下の点を重視しながら苦痛の緩和を中心とした診療を行っている。

- ・痛みやそのほかの身体的苦痛の緩和
- ・患者、家族の精神的、スピリチュアルな問題について焦点を当てる
- ・患者のケアの調整
- ・患者の Quality of Life の改善

《取り組み》

2022 年度も 2021 年度に引き続き、臨床、教育、研究を三本柱とした診療を行った。緩和ケア病棟の休止に伴い、一般病棟にて入院対応も含めた緩和医療の提供を行った。一般病棟入院中の他診療科症例へ緩和ケアの提供は主治医や看護師らと連携し、緩和ケアサポートチームとして対応したほか、在宅療養を主体とする緩和ケアの提供は緩和医療科外来にて診療を継続した。また、在宅診療連携として近隣の医療施設が開催する研究会、勉強会の参加や講演等を通じた関係性の維持強化に努めた。

教育活動として日本緩和医療学会学術大会査読委員、同学会誌や他の国際的な専門誌の査読に従事したほか、医療従事者を対象とした緩和医療の均てん化を目的とした講演・講義、講習会を実施した。

研究活動として東京慈恵会医科大学疼痛制御研究講座と連携した基礎研究及び臨床研究を継続した。

2023 年度も一般病棟での緩和医療提供が継続される。緩和ケア病棟ではないことから、専門性を持った緩和ケアの提供は一部困難となっているが、その中でも臨床・教育・研究を 3 本柱とし、患者、家族の苦痛緩和を目標とした医療提供を 2022 年度と同様に目指す予定である。

《実績》

- 2022 年度は入院総数 103 名、退院総数 110 名（死亡退院 76 名、非死亡退院 34 名）であり、非死亡退院のうち自宅退院は 28 名であった（25.5%、在宅医療移行も含む）
- 平均年齢 76.3 歳であり、平均在院日数は 22.3 日（24 時間以内～22.3 日）であった。

《常勤スタッフ》

院長補佐 眞崎 義隆
副部長 廣橋 健太郎

《診療内容》

常勤 2 名非常勤 1 名の体制で診療しており、月曜日から金曜日まで午前中外来診療を行った。外来では呼吸器外科一般（肺悪性腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、肺嚢胞性疾患、自然気胸）、検診レントゲン異常陰影の精査、睡眠時無呼吸症候群の診療を行っている。定時手術日は月曜日で、その他気管支鏡検査、血管造影検査、準緊急手術は主に火曜、木曜に行っている。2022 年度に行った呼吸器手術の 6 割以上が悪性腫瘍によるものであった。全ての症例を完全胸腔鏡手術で行っている。手術適応のない進行肺悪性腫瘍に対しては患者さんに応じた最新レジメンによる抗癌剤治療を行っており長期生存している方も珍しくない。

睡眠時無呼吸症候群は患者数 300 名以上であり県内でも有数の数である。診断後は積極的に紹介医へ逆紹介を心がけている。

《取り組み》

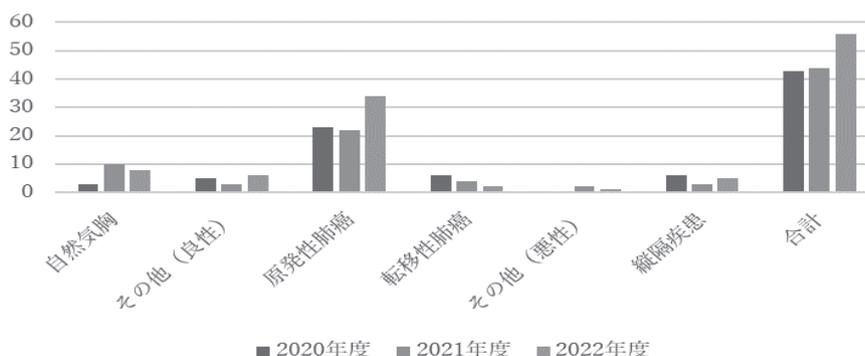
肺癌に対して診断、外科治療、抗癌剤治療、放射線治療、緩和医療まで一貫して対応できる体制を整えており集学的治療など患者さん毎に最適な治療を提供するよう心がけている。

当院の特徴は早期の肺癌、特に術中に同定困難な末梢触知不能肺癌（疑）症例に対して、術前 ICG マーキング後に赤外蛍光強調胸腔鏡による精密な手術を行っていることである。

《実績》

2022 年度は原発性肺癌手術件数が過去 2 年に比べて増加したため全体の手術件数も増加した。

疾患別手術件数の年度推移



《常勤スタッフ》

部長 川島 太一
副部長 木谷 哲

《診療内容》

乳癌の検診・診断・手術・薬物療法・放射線療法の導入・緩和ケア・遺伝カウンセリング・美容まで総てをカバーし、患者を最初から最後まで診ることを理念としている。

《取り組み》

① 検診

定期的に健診センターに出向しマンモグラフィの読影を担っている。コンピュータ支援検出 (computer-aided detection) システムを併用し 2 名の医師による読影を原則としている。

② 診断

乳腺外科のメインフィールドは外来診療である。診察室を 3 ブース占有し月曜日から土曜日まで週 6 日 2 診外来を維持している。各ブースには超音波画像診断装置およびマンモグラフィ読影用 5M 高精細モニターが設置されている。2022 年度は超音波診断装置 ARIETTA850 が導入され、主に女性臨床検査技師による丁寧な検査が実施されている。

③ 治療

手術は乳房温存から乳房切除、乳房再建に至るまでほぼすべての術式を可能としている。新規薬剤については千葉県内で首位を争うスピードにて積極的に導入している。2022 年度はオラパリブ (BRCA 遺伝子変異陽性かつ HER2 陰性再発高リスク乳癌の術後療法)、ペムブロリズマブ (高リスクの早期 TNBC に対する術前術後免疫療法) が臨床現場に登場した。(いずれも効能等追加承認)

《実績》 ※ ()内は 2021 年度

全手術件数 177 件 (253 件)

原発性乳癌 133 件 (169 件)

乳房部分切除 59 件 (73 件)

乳房切除 74 件 (80 件)

同時再建 16 件 (16 件)

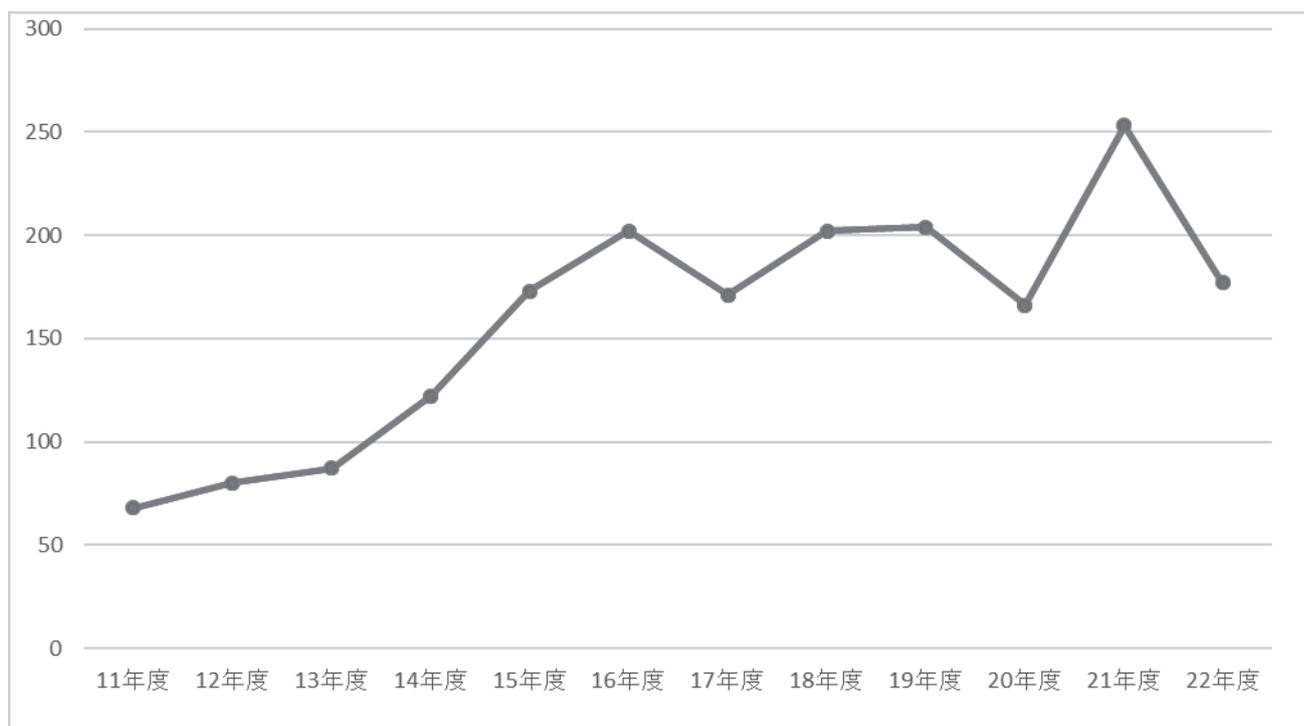
センチネルリンパ節生検 109 件 (117 件)

腋窩郭清 13 件 (27 件)

マンモグラフィ 健診 4,992 件 (4,936 件) 診療 2,936 件 (2,786 件)

乳房超音波検査 健診 4,282 件 (4,228 件) 診療 2,693 件 (2,732 件)

グラフは当院乳腺外科手術件数の推移である。



2022年度はコロナ禍が継続していたが、手術件数は例年並みであった。グラフを見ると2015年までは上昇期、それ以降は安定期に入ったとも考えられる。2020年度に始まったコロナ禍も次第にwithコロナへと社会が変化しつつある。現在常勤は乳腺外科専門医2名であり、そこに非常勤4名（乳腺外科専門医1名、形成外科専門医3名）が加わり乳腺外科を運営している。手術には血管外科および外科の応援を、集学的治療には放射線治療科、病理科、緩和医療科の協力を得ている。カンファレンスには臨床検査技師、診療放射線技師、薬剤師も参加し情報共有に努めている。2022年度より導入したPAXMAN 頭部冷却装置による「脱毛させない化学療法」はこれまで8名が受けており脱毛回避は約半数、満足度は75%ほどと思われる。

2023年度はHER2低発現乳癌という概念が臨床の現場に浸透してくると思われる。20年間を超えて使用されてきた分類が大きく変わる時代の到来である。また他癌種にやや遅れを取っていた免疫チェック阻害薬のマーケットが拡大していくと思われる。我々は常にアンテナを高くし技術の研鑽および知識のアップデートに努め利用者に還元する所存である。

《常勤スタッフ》

主任医長 宇井 啓人

《診療内容》

皮膚軟部組織の創傷診療が当科の業務の中心である。ラップ療法などの密封処置の危険性を説き、安全な治療法の啓蒙に力を入れている。外傷以外では粉瘤や脂肪腫、母斑などの腫瘍やケロイド、巻き爪、眼瞼下垂などを取り扱う。

《取り組み》

他科の併発疾患の診療が多いことも当科の特徴である。外来と手術室のみならず各病棟にも足を運ぶ。2022年度は特に他院との連携をも意識するようにした。また下肢創傷処置に関する資格を取得した。

《実績》

2022年度の外来患者数は2021年度に比べると7%ほど減り、BC時代（コロナ前）の2019年度と比べれば6%ほど増えている。2022年度の手術件数は2021年度に比べると9%ほど減り、BC時代と比べれば3%ほど増えている。月ごとに細分して統計を取っても、それらの推移はコロナの勢いと必ずしもシンクロするわけではなく、関係性の立証はできない。

コロナの影響を読み切れず、近年は公私ともに振り回されてばかりである。スペイン往きの航空券や6年に1度開催の御柱祭の観覧席チケットなど、多くの夢を手放すことになった。その一方、良いこともたくさんあった。人気食堂に行列せずに入店できたり、三春の滝桜や龍安寺の石庭を独占できたり、混み合う筈の絵画展が予約制になってくれたり……。そんな社会の変化は僕をスマホの使い方を学習せざるを得ない状況に追い込んでくれた。想定外の副産物であった。

私の趣味のひとつに大相撲観戦がある。一生に一度ぐらいい溜席（砂かぶり席）を味わいたいと思っていたのだが、コロナのお陰であっけないほど簡単にチケットが獲れてしまい、年六場所全ての溜席を体験することができた。土俵上から転がり落ちてきた貴景勝と抱擁し合ったのも良い思い出である。



《常勤スタッフ》

部 長 金岡 健

《診療内容》

扱うのは主に四肢の静脈と動脈の疾患である。

最も多いのは下肢の静脈瘤である。皮膚所見、自覚症状とエコー検査所見をもとに弾性ストッキングなどによる圧迫療法を基本として、必要に応じて硬化療法や抜去術を行う。最近話題になっているレーザーなどの血管内治療は、非常にまれではあるが深部静脈の血栓性合併症の危険性が指摘されていることから当院では行っていない。また、しばしば遭遇する下肢の深部静脈血栓症（DVT）は、最近種々の内服薬（Xa阻害薬）が開発されており外来で比較的安全に治療が行えるようになっている。その他比較的よく相談を受ける疾患に浮腫があるが、実際のところ血管が影響している症例はそれほど多くはなく、運動や生活習慣の指導で対応することが多い。

一方、動脈疾患の代表的なものとして閉塞性動脈硬化症がある。治療は症状に応じてリハビリ、バイパス手術あるいはカテーテル治療が選択される。

《取り組み》

内訳はこれまで同様に静脈瘤が多く、治療成績も安定している。跛行症状がある動脈疾患では血行再建術を検討する。高齢であっても歩行能力が保たれている場合は、積極的に介入して日常生活の質向上に貢献したいと考えている。

《実績》

静脈瘤硬化療法 7例

手術件数 27例

静脈疾患 20例

静脈瘤高位結紮・切除術 2例

大伏在静脈瘤抜去術 18例

動脈疾患 7例

大腿膝窩動脈バイパス術 1例

大腿下腿動脈バイパス術 2例

膝窩動脈形成術 1例

腋窩動脈形成術 2例

内シヤント人工血管置換術 1例

《常勤スタッフ》

名誉院長	南 昌平	主任医長	飯島 靖	医 師	水谷 雅哉
副 院 長	小谷 俊明	医 長	伊勢 昇平	医 師	森岡 勇貴
院長補佐	岸田 俊二	医 師	小方 陽介	医 師	村尾 真季
部 長	佐久間 毅	医 師	山田 有徳		
副 部 長	上野 啓介	医 師	永木 文子		

《診療内容》

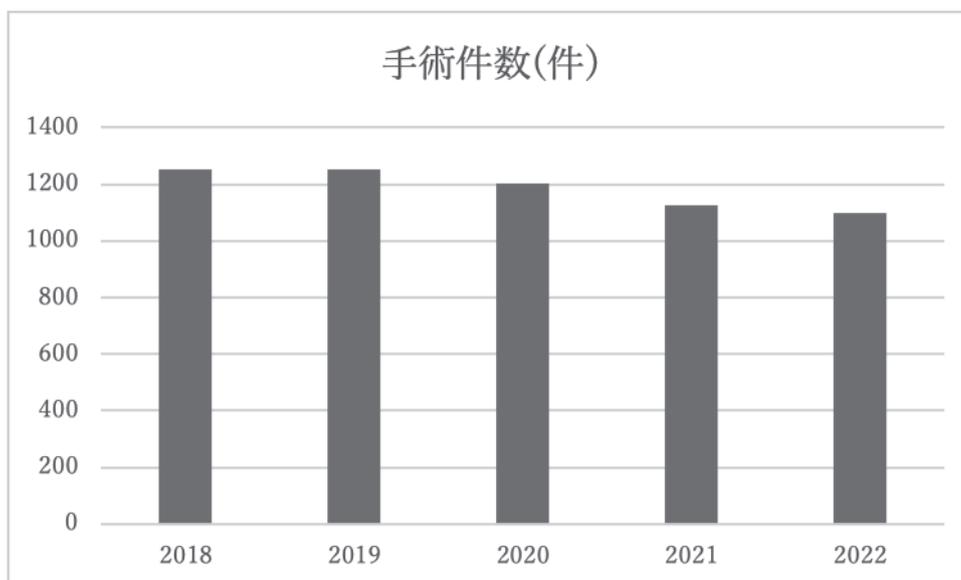
2022 年度は 13 人体制だった。脊椎・脊髄疾患、関節疾患、外傷症例に満遍なく取り組んだ。

《取り組み》

脊椎疾患では、全国的にも指折りの手術件数を誇る脊柱側彎症に対する矯正固定術に加え、腰部脊柱管狭窄症に対する低侵襲前後合併手術、脊椎圧迫骨折に対する椎体形成術や脊柱変形に対する前後合併矯正固定術といった最先端の脊椎・脊髄手術の件数が増加した。関節疾患では人工股関節、リバーショルダーといった人工関節手術に加えて、肩関節、手関節鏡視下手術が増加した。外傷手術も増加しており、手領域の腱損傷や開放骨折にも対応している。

《実績》

手術件数は年間 1,100 件前後を推移している。2022 年度も COVID-19 の影響はあったものの 1,099 件と例年の手術件数を維持していた。



《常勤スタッフ》

副院長 川村 研 医師 吉田 麻里奈
副部長 鈴木 繁

《診療内容》

3人体制で病棟、外来、小児急病診療所当直業務を行っている。午前中の一般外来は主に急性期疾患（上気道炎、気管支炎、肺炎など）に対応する。午後は完全予約制であり、川村は「腎臓外来」・「低身長外来」、鈴木は「アレルギー外来」・「夜尿症外来」の専門外来を担当している。週に2回乳幼児健診と予防接種を実施し、第1と第3土曜日午前は外来業務を行っている。新型コロナウイルス感染患者の外来診察も積極的に受け入れており、低年齢の感染者診察は受付から診断治療まで小児科スタッフが担当している。

《取り組み》

医師・看護師・クラークが一丸となり丁寧な対応を心がけている。「腎臓外来」では、ネフローゼ症候群や慢性糸球体腎炎など、入院での検査（腎生検等）や治療（ステロイド治療等）の必要性も併せ総合的に判断している。低身長や思春期早発・遅発を診療する「低身長外来」では、ホルモン分泌試験を行い成長ホルモン補充療法の必要性や適切な思春期発来時期を検討する。自己注射治療導入時は看護師が介入し児と保護者に寄り添った指導を行い継続的なケアを行っている。「アレルギー外来」は主に食物アレルギーとアトピー性皮膚炎の診療を行っている。食物アレルギー診療では血液検査や入院による食物経口負荷試験等の実施を検討し、安全に食べることを目的に管理栄養士も介入し治療を行う。アトピー性皮膚炎は外来での治療導入だけではなく、身体の洗浄や軟膏塗布の方法を看護師指導のもと保護者に習得してもらうスキンケア入院プログラムも有する。CAI（アレルギー疾患療養指導士）の資格を持つ看護師も在籍しており、個々の状況に合ったきめ細かい対応を行っている。舌下免疫療法は薬剤師が介入することにより安全に薬剤導入を行っている。夜尿症を専門的に診療する「夜尿症外来」も設置し、これらの専門外来への紹介も多くなってきている。

佐倉市の他、印西市の乳幼児健診業務への参加や近隣医療機関での腎臓・一般外来も行い地域医療の発展に貢献したいと考えている。

《実績》

	2020年	2021年	2022年
腎生検検査	8例	5例	6例
成長ホルモン分泌刺激試験等	24例	27例	17例
食物経口負荷試験等	24例	23例	17例

《常勤スタッフ》

副 部 長 稲原 昌彦 医 師 石塚 直樹
医 長 石橋 見季

《診療内容》

(外来診療)

月・火・水・木・金の午前と午後に行っている。

(外来担当医)

月曜日：稲原医師・遠藤医師（東邦大学）

火曜日：鈴木医師（東邦大学）・五十嵐医師（午後予約外来）

水曜日：稲原医師・杉崎医師（東邦大学）

木曜日：石橋医師・石塚医師

金曜日：五十嵐医師・飯島医師（東邦大学）

(診療内容)

「今日、聖隷佐倉市民病院の泌尿器科を受診してよかった。」と言ってもらえる診療をモットーとしています。

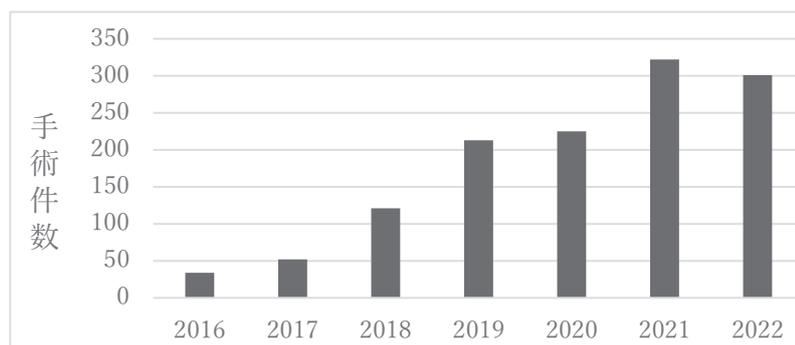
(手術)

2016年度の常勤医復活以来、手術件数は増加しています。2018年度から腎の手術に腹腔鏡手術を、2020年度からレーザー碎石装置による尿路結石治療を導入し、それぞれ良好な治療結果を得ています。

《取り組み》

2017年度から近隣の医療機関と病診連携を活発に行った結果、手術を必要とする患者さんの受診が増えています。がん治療に関しては、2020年度より近隣の医療機関でロボット支援手術が普及してきたので、これらの施設と協力して最先端の治療を心がけています。当科では手術支援ロボット以外の最新医療機器は揃えており、常勤医には腹腔鏡技術認定と癌治療認定の資格を持つ医師がいるため、ロボット支援手術以外のあらゆる診療と手術に対応しています。

《実績》



《スタッフ》

部長 坂本 理之
主任医長 吉田 いづみ

《診療内容》

2023年度より吉田いづみ医師が常勤となり、常勤医2名と1名の非常勤医師による診療を行っています。白内障、緑内障、網膜硝子体疾患に対しては手術治療を行い、緊急疾患の受入も可能としております。また視能訓練士の充実により斜視・弱視診療なども行っていますが、手術が必要な場合は近隣医療機関に紹介しております。

《取り組み》

2022年度小生が常勤医として赴任した2年目であるため、ある程度のシステムができあがり、より診療の体制が整いました。想像以上の手術件数と診療件数になり、激務でしたが吉田いづみ医師が常勤になって頂き2023年度は2名体制で診療を行います。今後はさらなるスタッフ充実を目指しております。そのなかで2021年度より当院の看護師（いつも遅くまでの手術介助、手術出し、緊急の際の入院手配などありがとうございます。）、視能訓練士、薬剤師、事務サイドの方々、院長先生をはじめとする他科の先生のサポートもあり、日々の診療をこなせております。眼科スタッフを代表してこの場を借りて感謝申し上げます。患者さまの紹介も年ごとに着実に増えてきております。2023年度も患者さまにより満足して頂けるように診療内容の向上を目標にがんばっていきたいと考えますので、引き続きのサポートをよろしく申し上げます。

《実績》

2022年度と比較しても手術件数は増加し過去最高でした。件数だけでなく丁寧な手術、満足していただける診療を今後も心がけたいと考えます。

	2021年度	2022年度
白内障手術単独	476件	608件
網膜硝子体手術（増殖硝子体手術も含む）	82件	65件
緑内障手術（白内障同時手術も含む）	118件	179件
その他手術	11件	18件

《常勤スタッフ》

部長 津田 豪太
医師 仲宗根 和究

《診療内容》

津田は月・水・金曜日の午前中に予約外来で嚥下障害・喉頭疾患・頭頸部腫瘍を中心に診療しており、耳疾患や鼻疾患などの一般的耳鼻科疾患は木曜日午前中の仲宗根医師と毎日午後の非常勤医に診察していただき対応した。当科の特徴である嚥下臨床の柱として行っている毎週火曜日午前中の嚥下外来では言語聴覚士・歯科衛生士とともに嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査を中心に診察を行い、嚥下障害の原因検索・障害の程度評価・治療計画の立案などを行っている。

入院症例に関しては、2021年度に引き続きコロナ禍の制限が多かったが、緊急対応を必要とする眩暈や急性扁桃炎などの耳鼻科疾患入院に加え、喉頭・頭頸部腫瘍・嚥下手術などの外科的入院もあった。

《取り組み》

数年来継続している嚥下障害に関する臨床は充実しており、嚥下外来・嚥下検査入院・嚥下リハビリテーション入院・手術入院などの様々な病態に合わせて対応している。週1回の嚥下カンファレンスも行い、他科入院中の症例も経口摂取自立に向けてチーム対応している。

更に、院内チーム医療である栄養サポートチーム（NST）とも協調して活動し、院内の消化器外科以外の全症例を対象として、毎週木曜日午後のラウンドを中心に栄養管理を行っており、サルコペニア症例への栄養治療と嚥下治療の併用や誤嚥性肺炎症例での栄養管理と早期経口摂取に向けた口腔ケアや間接訓練を積極的に行っている。

《実績》

嚥下外来を中心に嚥下内視鏡検査（VE）や嚥下造影検査（VF）を行っているが、2022年度はVE324件・VF308件と多くの症例に対応できていた。VEでは入院早期でも積極的にベッドサイドでも対応しており、全身状態に合わせて少量からであっても経口摂取が再開できるように言語聴覚士と共に活動している。VFは、粘度の違うトロミバリウムやゼラチンで半固形化したバリウム、時には粥や米飯にもバリウムを加えたりして単純な造影ではなく、実際の経口摂取に即した嚥下検査を行うことで、その後の治療につながるように心がけている。

手術実績としては、コロナ禍の手術自粛が続き59例止まりだった。嚥下関連機能改善手術や誤嚥防止手術、甲状腺中心の頭頸部手術など専門領域に特化した内容だった。

《常勤スタッフ》

部長 川上 浩幸
医師 瀬戸 一彦

《診療内容》

院内だけでなく、院外からの治療依頼も受け付け、月曜日から金曜日まで週 5 日間、放射線治療を実施している。Varian 社高性能リニアックシステムに加え、QA 機器を備え、IMRT(強度変調放射線治療)、SRT(頭部および体幹部定位照射)等の高精度放射線治療が可能である。頭頸部がん、肺がん、食道がん、膵がん等に対する根治的放射線治療、乳がん術後照射等、周術期放射線治療、及び、脳転移、骨転移等への緩和的放射線治療まで、外部放射線治療全般に対応する他、放射性同位元素 ^{223}Ra による内用療法も実施している。

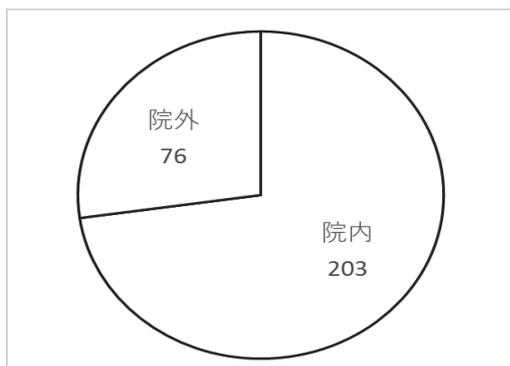
《取り組み》

有資格者のスタッフ、治療機器の施設基準を満たし、日本放射線治療学会の認定施設である。大学病院、がんセンター等で実施される高精度放射線治療を市中病院として身近な環境で提供している。マーカー留置による肝腫瘍に対する定位照射を行える数少ない施設の一つでもある。2022 年度は、骨転移への IMRT を用いた体幹部定位照射にも力を入れた。緩和的放射線治療は、1～数回でも効果の期待できる治療であり、2023 年度は、在宅医療患者を含む院外患者への放射線治療も積極的に行って行きたい。

《実績》

放射線治療 279 症例
高精度放射線治療 IMRT 103 症例 定位照射 30 症例
緩和治療 99 症例 (骨転移 61 症例 脳転移 8 症例)

治療依頼



原発部位内訳



麻酔科

部長 設楽 敏朗

《常勤スタッフ》

手術部・麻酔科 部長 設楽 敏朗
医 師 菊入 麻紀子

《診療内容》

患者さんの入院から手術を経て退院までの周術期に携わり、主に手術中の全身麻酔管理を行っている。当院は、公益社団法人日本麻酔科学会が認定する麻酔科認定病院で、同学会の認定する麻酔科専門医が常勤している。

《取り組み》

安全で質の高い医療を提供することを常に心がけているが、地域の中核病院として、柔軟かつ臨機応変に対処することに重点を置いている。また、近隣大学病院との連携をとっており、最近の高度化・専門化している手術治療にも対応できるように取り組んでいる。

《実績》

全手術件数	3,226 件
うち麻酔科管理件数	1,710 件
全身麻酔	1,509 件
全身麻酔＋硬膜外麻酔	201 件

《常勤スタッフ》

副部長 笹井 大督

《診療内容》

1. 組織診
2. 細胞診
3. 術中迅速診断
4. 剖検および CPC

《取り組み》

当科では下記のごとく年間 3,500 件程度の組織診断、1,500 件程度の細胞診断を行っています。特に乳腺、呼吸器、消化管腫瘍は多くの症例があり、近年拡充している新規抗体での免疫染色や、ガイドライン化されている分子標的治療・免疫チェックポイント阻害薬の適応についても、一部外注を含めた遺伝子検査を加えての複合的な診断を行っています。病理解剖については全国的にも減少傾向にあるものの、病態・死因および治療効果の評価、教育にも不可欠であり、当院の全研修医が CPC での発表を行っています。

《実績》

診療実績(2022年4月～2023年3月)

	外来	入院	健診	計
組織診断	1,607	1,577	268	3,452 (うち手術検体 725)
細胞診断	1,185	380	-	1,565
術中迅速	0	165	-	165
免疫染色	304	482	18	804

その他

剖検 3 例

CPC 実施 4 回

乳癌再発により癌性胸水を来たしたと考えられた維持透析患者の 1 例 (2022, 5, 25)

敗血症性ショックで急死した多発性嚢胞腎の透析症例(2022, 10, 25)

顕微鏡的多発血管炎の加療中に腹腔内出血と思われる貧血の進行で死亡した 1 例 (2022, 12, 22)

集学的治療で長期予後を得ていたが肝不全で死亡した子宮体癌多発転移の 1 例 (2023, 3, 9)

《はじめに》

看護部は、高稼働な病床利用と当院の持つ医療機能（急性期から在宅まで）を最大限に活用し、適切な医療・看護を提供し地域医療に貢献することをビジョンとしている。また、コロナ禍の中適切な感染対策の実践や部内全体での応援体制等により、看護の質を維持し病院機能の充実を実現し、ベッドサイドナースが患者の回復過程に寄り添い、治癒力を高める看護が思いっきり実践できる環境を整備し、専門職としての使命を念頭に市民の健康に寄与することを目指している。

《目標と実績・評価》

2022年度は、コロナ禍による閉塞感の続く中、忙しい中でも不機嫌を禁止し相手を思いやる円滑なコミュニケーションを推進した。また看護師の採用が充分進まない中、病棟看護師や看護補助者がベッドサイドに滞在する時間の延長をめざして、シーツ交換やメッセージャー、患者搬送など看護周辺業務を担当する看護補助者の配置をすすめた。その結果部内の超過勤務時間の削減やメンタル不調者“0”が実現できた。職員の心身の健康を保ちつつ、より働きやすい職場づくりが進められたと考える。

ベッドサイド滞在時間の延長により、患者さんの病状に応じたアセスメントや看護実践が展開され、さらに看護部で大切に学習を重ねてきた援助的コミュニケーションにより、病気に罹患することによって抱く様々な患者さんの思いを受け止め、治療に向き合うプロセスに寄り添う看護が発揮された。それにより多くの方々より「利用者の声」として質の高いヒューマンケアに対するお褒めの言葉をいただくことができた。

コロナ感染症との闘いは2022年も困難を極めた。感染者数の大きな変動に合わせてコロナ対応病棟を移動せざるを得ない状況があり、院内全部署の応援もいただきながら柔軟かつスピーディに病棟引っ越しを決行した。担当となった腎臓内科B4病棟のスタッフには戸惑いや不安・葛藤など様々な思いがあることが推察されたが、それを支えた仲間たち共々、看護師の使命と役割を逞しく全うしてくれたことが大きな誇りである。

適切な感染予防対策を継続し、コロナ感染者への対応やワクチン接種と同時に、一般診療のための救急の受入、適切な急性期医療や入退院支援により高い病床稼働を維持できた。

私たちは、超高齢社会に加え100年に1度の新興感染症の蔓延を看護職として体験することとなったが、この時だからこそ考えられたこと、厳しい環境下でも実践できたことをポジティブにとらえたい。一回り大きくなった私たちは、今後も地域から選ばれる病院を目指し、看護力を結集し地域の皆様の健康回復や安寧な暮らしに貢献するチームであり続けたい。

《2022年度稼働実績》

病床稼働率:77.6% 平均在院日数:16.6日 入院患者数:292.6人

看護必要度:急性期一般 37.7% 地域包括:9.7%

《はじめに》

A2 病棟は、乳腺外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科、緩和医療科の混合病棟である。重点目標を「患者さんの尊厳を守り、患者さんが自分らしく過ごせるように QOL を重視した医療を提供する」と掲げ、多職種と協働し、患者さんの意思を尊重した看護を提供した。2022 年度の手術件数 852 件（乳腺外科 176 件・耳鼻咽喉科 58 件・泌尿器科 289 件・眼科 324 件・外科 4 件）。新型コロナウイルスの感染状況が日々変化する中で、診療科の垣根を超え、習得すべき技術や知識の向上に取り組み、臨機応変に多くの患者さんを受け入れることができた。耳鼻咽喉科では摂食嚥下センターとして様々な検査・手術・リハビリに対応し、誤嚥予防の看護に努め、重度な障害を持つ患者さんの QOL 向上につながった。乳腺外科、泌尿器科では初期から終末期まで治療が多岐に渡り、長期間の治療を要することもあるため、周術期看護の提供とともに患者さんの気がかりを傾聴し、精神的ケアに努めた。緩和医療科では痛みを始めとする心身の諸症状の緩和を積極的に行い、患者さんとその家族の想いを尊重し、患者さんが自分らしく生を全うすることができるよう支援した。今後も患者さんの想いに寄り添った意向支援を行い、QOL を重視した医療と看護の提供をしていく。

《目標と実績・評価》

1. 患者の苦しみを捉え、QOL を重視した看護が提供できる

多職種によるカンファレンスを実施し、意見交換することでアセスメント力が向上し、効果的な薬剤の使用による症状緩和やケアができた。また、全患者の退院支援カンファレンスを実施し、入院初期から患者さんやその家族への退院指導、環境調整について検討できた。末期がん患者さんなど困難事例の療養場所の意向を支援し、家族や多職種、地域と連携したことで、患者さんの望む生活へ退院調整と支援ができた。

2. 安全対策を図り事故防止を強化する

感染リンクナースを中心に、適切なタイミングでの手指衛生を強化したことで、手指消毒実施率が向上し、病棟内の感染拡大はなかった。

3. 一人一人が専門職として責任を持ち、相手を思いやり、やりがいを持って働くことができる

看護の専門職として常に患者さん中心の考え方をチームで共有したことで、業務が煩雑になりそうな時も協力して働き、患者さんに気持ち良い接遇ができるようになった。院内、院外の研修に参加することで専門的知識を習得し、患者支援や人材育成に活用できた。

《2022 年度稼働実績》

病床稼働率:80.7% 看護必要度:46.2% 平均在院日数:8.8 日 入院患者数:37.9 人

《はじめに》

A3 病棟は急性期の整形外科病棟として、小児から高齢者まで幅広い年齢層の患者を受け入れている。2022 年度の整形外科病棟の手術件数は 983 件、A3 病棟での手術件数は 423 件であった。緊急・準緊急手術件数は 129 件であり、緊急入院や手術にも迅速に対応している。入院疾患の内訳は、側弯症 117 件、頸椎・胸椎・腰椎疾患 387 件、大腿骨骨折を含む外傷 141 件であった。入院時の急性期における患者さんの苦痛を取り除くため「ケア」と「キュア」の視点を大切にしながら医師と協働し看護を行ない、退院後の生活を見据え、患者さんや家族の意向を捉え多職種とともに地域と連携し退院支援を行っている。また、骨粗鬆症における二次的骨折予防にも力を入れており、継続医療・看護を行なうことで退院後も患者さんが生き生きと生活できるよう支援している。

《目標と実績・評価》

1. 患者の苦しみに焦点をあて、思いを尊重した看護を実践する

援助的コミュニケーションを大切にしながら、患者さんの苦しみを和らげることができるよう病状だけではなく精神的・心理的側面からも必要な看護を日々のカンファレンスで話し合いスタッフとともに実践した。これにより患者さんが病状を受け止め退院に向けてリハビリを前向きに行なえるようになり、患者さんの思いや意向を尊重した看護実践を行うことができた。

2. フィジカルアセスメント力を高め、専門的な視点で患者状態を捉えた看護の提供

クリニカル・ラダーに沿った院内外の研修参加、病棟内での勉強会を実施した。また専門領域において頸椎疾患周術期管理の体制整備を行った。様々な基礎疾患を持つ患者さんの周術期看護を安全に行うため幅広い知識とスキルを習得するための教育と体制整備を行ったことにより観察の視点が統一され、患者さんの病状変化を早期に捉え対応できるようになった。

3. 安全対策の強化

リスクアセスメント結果から患者さんに必要な予防策を講じ安全に配慮した入院環境を整えた。受け持ち看護師が意識的に患者さんの病室に滞在する取り組みにより、日中の転倒転落件数減少、身体抑制の減少につなげることができた。

4. 心身の健康を保ち働きやすい職場環境づくり

高稼働を維持しながら有給消化率 49.7% (2021 年度比+3.7%) と休暇を確保できた。またスタッフの意見を病棟運営に活かせるようチーム会を立ち上げた。スタッフが主体的に病棟内の問題解決に向けて話し合えるようになり病棟運営が活性化された。

《2022 年度稼働実績》

病床稼働率:86.5% 看護必要度:38.7% 平均在院日数:22.9 日 入院患者数:38.1 人

A 4 病棟

課長 高橋 由起

《はじめに》

A4 病棟は腎臓内科、循環器内科、総合内科を標榜する内科系混合病棟であり、混合病棟の強みを活かして医師や多職種と共にチーム医療を行っている。腎臓内科における主な入院の内訳は腎生検 24 件、シャント手術 50 件、シャント部経皮的血管形成術（以降 PTA）97 件、血液透析導入事例 57 件、慢性腎臓病（CKD）教育入院 57 件であった。また、コロナの感染拡大に伴い C3 病棟が開棟したため、同じ腎臓内科病棟である B4 病棟の閉鎖や病床の縮小があったが、B4 病棟と協働し患者さんが安全に医療を受けられる体制を整備した。それまで A4 病棟では対応していなかった腹膜透析患者 4 名の受け入れに加えて新規腹膜透析導入患者 3 名の計 7 名と、腹膜平衡試験入院患者 4 名の対応を行なった。循環器内科では主に急性冠症候群に対し、冠動脈造影（CAG）35 件、経皮的冠動脈形成術（PCI）73 件、PTA15 件、心嚢穿刺 1 件の検査・治療を行った。また、心不全看護についての知識を活用し、他科で入院している心不全をもつ患者へのセルフケア支援に取り組むことができた。

《目標と実績・評価》

1. 専門職性を発揮し、効果的な患者教育や看護実践を行えるようスキルアップ体制を強化する。

コロナの影響もあり、勉強会の実施は腎臓内科と糖尿病、ICLS が各 1 回、循環器内科 4 回に留まったが、急変時対応事例を 3 例振り返り、対応が適切であったのか、改善すべき点はないかなど病棟全体で共有することができた。退院支援カンファレンスは実施率 100%を達成することができ、今後は受け持ち看護師が主体的に退院支援を行っていくことが課題である。

2. 看護師一人一人が円滑なコミュニケーションを図り、働きやすい職場環境を維持することができる。

2021 年度と同様、人間関係のストレスによる離職者 0、新人看護師の離職者 0 であった。また、看護師から看護補助者へのタスクシェア・タスクシフトを行ない、超過勤務の削減につながった。

3. マニュアルを遵守し、安全に対するリスク感性を強化する。

週 1 回の IA カンファレンスや抑制カンファレンスを行い、適切なリスクアセスメント結果に基づいた看護実践を行うことができた。環境整備を補助者に業務委譲したこともあり、適切な療養環境の整備につながった。また、褥創リンクナースを中心として正しい褥創予防対策を実践し、褥創発生率は大幅に減少した。安全ベルト装着についても 2022 年 5 月以降は使用 0 であった。

《2022 年度稼働実績》

病床稼働率:92.4% 看護必要度:26.3% 平均在院日数:18.5 日 入院患者数:40.7 人

《はじめに》

A5 病棟は地域包括ケア病棟として、他職種と連携した安全なチーム医療を提供し、病床を最大限活用して地域社会に貢献する事を基本方針とし質の高い退院支援・調整を行った。当院の急性期病棟と連携し治療を終えた患者さんが「どこで、どのように生活したい」のかという想いを聴き、患者さんが安心して退院後の生活を送ることができる様に退院支援を行った。また、地域からのレスパイト入院の受け入れも行い、患者さんと家族が在宅での生活を無理なく送ることができる様に病床の活用を行った。今後も患者さんの意思決定を支え、他職種や在宅支援関係者と連携し患者さんが安心して退院できる退院支援と退院調整を提供していきたい。

《目標と実績・評価》

1. 患者の意思決定を支え、安心して在宅で生活できる質の高い退院支援・調整を行う
退院に関する患者さんの想いを聴き、患者さんが望む退院後の生活を送ることができる様に他職種でカンファレンス（実施率 100%）を行い、家族や在宅支援関係者と在宅の環境を整える事ができた。また、退院調整に関する勉強会を行いスタッフの知識向上に努めた。
2. 心身の健康を保ち、お互い尊重し助け合える職場環境をつくる
お互いの立場や役割を尊重し声をかけ合える職場づくりに努め、内部環境が影響している離職率は「0」であった。また、業務内容を改善し夜勤の超過勤務を約 35%削減する事ができた。有給休暇の取得は平均 12.7 日/年となっており、心身共に安定して働く環境をつくる事ができた。
3. 地域包括ケア病棟の安定した病棟運営
院内の急性期病棟から 495 件、短期入院を含めた院外からの入院を 295 件（レスパイト入院 17 件含む）受け入れた。地域包括ケア病棟入院料 2 に関する改定事項の、自院の一般病棟から転棟した患者さんの割合が 6 割未満という項目に対し、短期入院患者さんを受け入れる体制をつくり、6 割未満を達成することができた。
4. ベッドサイドケアの充実
患者さんの苦しみに焦点をあてコミュニケーションを行う事により、患者さん自身が語ることができ、スタッフが患者さんの変化を感じる事ができた。今後は患者さんの苦しみが軽くなる援助について方針を立てチームで関わりを持てるように努める。
5. マニュアルを遵守し安全対策を強化する
感染リンクナースを中心とし手指衛生の遵守に取り組んだ。また、褥瘡に関する勉強会を行い、褥瘡予防に関する知識を深め日々のケアにつなげた。

《2022 年度稼働実績》

病床稼働率:86.2% 看護必要度:9.7% 平均在院日数:18.3 日 入院患者数:41.4 人
在宅復帰率:86.6%

《はじめに》

2022 年度は、「心身の健康を保ち、働き続けられる職場環境作り」に重きをおき、スタッフ一丸となりチームで業務改善と業務委譲を実現し、患者のベッドサイド滞在時間の延長と看護ケアの充実が図れた。その中で、入院前から退院後を見据えた継続した医療・看護の提供のために入退院支援加算 1 は、2021 年度比：271%の増加と退院カンファレンスの充実を図り、スムーズな退院支援を行うことができた。また、周術期から終末期までの各期において関連するがん化学療法や放射線治療等幅広い医療を提供すると共に、積極的に他科の救急患者を受け入れることで高稼働を維持することができた。日々進化する専門性の高い治療に対し、質の高い看護が提供できるように自己研鑽すると共に、多職種・各分野の認定看護師との協働やがん化学療法院内認証看護師の活用と育成が課題である。

《目標と実績・評価》

1. スタッフ個々が看護実践能力を発揮し、急性期看護の質の向上を目指す

がん患者が多いという病棟の特色から安全・安楽に集学的治療と術前術後の看護実践を行ない、外科急性期病棟としての役割を担えた。理学療法士の術後離床の介入により、早期離床と看護師のベッドサイドでのケアの充実につながった。化学療法は、投与件数が 2021 年度比：197%と増加し、安全な投与管理と最新で多様化する薬剤の有害事象に対応できるように多職種と協働し、更なる業務改善を実施していきたい。末期がん患者や社会資源の活用が必要な患者の退院支援を、患者・家族がどのような思いや苦しみを抱えているのかを適切なタイミングで丁寧に聴き、受け持ち看護師を中心にチームで最善の方法を考え支援することができた。また、終末期の患者・家族への看護実践のために、事例検討やカンファレンスを行ない、患者との関わりについて共有し課題について取り組むことができた。

2. 安全対策を強化し、医療・看護の質を保証する

褥瘡発生率が 1.2%を超えたため、11 月より看護補助者を交えたカンファレンスを開始した。褥瘡予防や褥瘡のケアなど患者情報の共有を図り、褥瘡発生率の増加は見られなかった。また、抑制カンファレンスを実施し抑制の三原則に則り、アセスメントを行なうことで、術後の不必要な抑制を防止することができた。

3. 心身の健康を保ち、働き続けられる職場環境づくり

多職種を交えての業務委譲と業務改善を行い、超過勤務時間が 2021 年度より 2022 年度は約 3 分の 1 に大幅に減少した。有給休暇取得は、平均 16 日、有給消化率 59.4%であった。今後も、多様な働きかたやワークライフバランスが保てるように働きやすい職場環境を整えていきたい。

《2022 年度稼働実績》

病床稼働率：83.3% 看護必要度：39.4% 平均在院日数：14.4 日 入院患者数：36.7 人

《はじめに》

整形外科急性期病棟として迅速な入院の受け入れ体制を維持した。緊急入院の受け入れ 342 件、その内、高齢者に多い大腿骨近位部骨折の入院受け入れは 131 件だった。地域の医療機関と連携を図り、入院の依頼があった際は速やかに対応した。患者が適した治療を受けられる療養環境を整備し、多職種と連携して患者の回復力を高める関わりをチームで行い、患者一人ひとりに応じた看護ケアを提供した。

《目標と実績・評価》

1. 病棟の役割を発揮し、質の高い看護を患者に提供する

緊急入院の依頼があった際は、患者の外来滞在時間の削減に努め、速やかに患者が治療を受けられるための病床を確保した。迅速で円滑な入院の受け入れをチームで行い、急性期病棟の役割を発揮することができた。病床確保が難しいという理由でのお断りは、0 件だった。患者の回復力の低下や病状悪化を予防するため、データカンファレンスを開始し、毎週 1 回実施している。継続的に患者の状態を多くのスタッフとディスカッションすることで、患者の全身状態の変化を見逃さず臨床推論につなげることができ、スタッフのアセスメント力が向上したと考える。予測される状態変化を捉え、予防するためのケアをチームで共有し、質の高い看護を患者に提供している。また、病棟看護師が主体となり、患者・家族の意思を尊重し、多職種と協働して専門性を活かした退院調整を行った。入退院支援加算 1 の取得は 365 件（2021 年度 178 件）であり、退院後の患者の QOL を考え、患者と関わることで、患者の回復意欲を引き出すことにもつながった。また、周術期患者の疼痛と睡眠が影響を及ぼす身体的変化を継続的に計測した研究を行い学会で発表した。適切な時期に疼痛管理を行うことで十分な睡眠が取れ、ADL の回復に差がでた研究結果を活かし、患者の ADL 拡大につなげる看護ケアの実践を継続する。

2. 個別性のあるリスクアセスメントを適切に行い安全対策ができる

毎週 1 回病室ラウンドを実施し、患者の ADL 変化に適した環境を整備して安全な療養環境を提供している。患者の安全を確保しつつ ADL 拡大を妨げない環境整備や看護ケアを提供して、転倒転落予防を行っている。新型コロナウイルス感染症以外のインフルエンザや MRSA などの流行性感染症が発生した際は、感染症分類に合わせた感染予防策をスタッフ自らが適切に行うことで感染拡大はなかった。

3. 働きやすい職場環境

お互いが声を掛け合い、助け合うことで個人の業務の負担を軽減している。業務内容の見直しを行い、各々の職種が専門性を活かした業務を行うことで、患者と関わる時間が増えケアの充実を図ることができた。有給休暇取得平均 13.6 日／年だった。病床稼働率が高い病棟だが、スタッフのリフレッシュ時間を大切にして、ワークライフバランスを保っている。

《2022 年度稼働実績》

病床稼働率:88.8% 看護必要度:42.8% 平均在院日数:18.3 日 入院患者数:39.1 人

B 4 病棟・C 3 病棟

課長 小笠原 祐美

《はじめに》

B4 病棟は腎臓内科病棟として腎疾患の全ステージの患者と腎疾患以外の内科的疾患の患者を計 228 名受け入れた。主な入院患者は腎生検 14 件、慢性腎臓病(CKD)教育入院 21 件、シャント手術 14 件、経皮的血管形成術 37 件、腹膜透析(PD)導入 5 件、腎代替療法入院 3 名、特に CKD 教育入院や腹膜透析でのスタッフの教育体制に力を入れた。また、CKD 外来看護師と連携し入院までの患者の情報を共有する事で、継続看護につながる事ができた。夏にはコロナ感染症患者の増加に伴い、当病棟の一部機能をコロナ病棟に変更し、安全、安心に業務を行える様に短期間で感染対策等の教育、感染対策の徹底を図り、165 名の患者を受け入れた。腎疾患患者とコロナ感染症患者の受け入れを行う事でスタッフの不安は大きかったが、感染管理室をはじめとして病院全体の支援体制を構築したことで、安心して業務を行う事ができ、両病棟の円滑な運用につながった。

《目標と実績・評価》

1. 質の高い看護実践を提供するために個々のレベル UP を図る

スタッフが質の高い看護を提供するために中途採用者等の到達度を可視化できる体制を整えた。また PD 教育、技術指導、CKD 教育を全スタッフが行える様に勉強会や事例検討会、デモによる教育指導を行い個別性に合わせた教育指導に力を入れ、統一した CKD 教育を患者に提供できるようになった。コロナ病棟では基礎疾患を有する患者が多く、急変するリスクが高いため、積極的に勉強会を開催し知識向上に努めるとともに、定期的に PPE 脱着や正しい手指消毒について知識と技術の向上を図り、緊張感を持って業務にあたった。退院困難事例では、カンファレンスで情報共有し退院調整を進め 2 事例がコロナ病棟から転院した。今後も腎疾患看護での患者教育やコロナ感染症患者の看護に対して常に患者中心、個別性を尊重した看護を提供し質の高い看護につなげていく。

2. 多職種連携を強化し、療養環境と職場環境を整える

患者に適切な看護を提供できるように看護師から補助者に 11 項目を委譲し、PDCA サイクルを回しながら現在も継続して行えている。また第 8 波においては他部署の応援に加え、補助者も看護師と共にコロナ感染症患者ケアにあたった。薬剤科へ業務を委譲した事で看護師が看護業務に集中できる体制を整えた。病院全体の協力体制のもと、患者が安全かつ円滑に治療を受けられる環境を継続することで、適切な看護医療につながる事ができている。

3. お互い声を掛け合い、助け合いながら働きやすい職場環境を作る

多忙時こそアサーティブなコミュニケーションを心掛け、一人一人が意見を伝えられる環境を作り、発信するスタッフが増えた事で建設的な意見を言える職場環境となり、現在も継続できている。

《2022 年度稼働実績》 (上段:B4 病棟/下段:C3 病棟)

病床稼働率:45.7% 看護必要度:22.6% 平均在院日数:24.2 日 入院患者数:20.1 人
病床稼働率:25.1% 看護必要度:11.9% 平均在院日数:13.1 日 入院患者数:4.5 人

《はじめに》

B5 病棟は、消化器内科・小児科・眼科の 3 診療科混合病棟である。「患者・家族が気持ちを話すことができ、聴いてもらえたと実感できる関わりを持つ」を職場方針に掲げ、様々な年代の患者・家族が安心して入院生活を過ごせるよう環境作りに重点を置いた看護を提供した。消化器内科は肝胆膵や大腸の疾患を中心として診断から治療まで幅広い医療提供を行っている。「千葉県がん診療連携協力病院」でもあるため、2023 年度は、がん化学療法院内看護師を取得していききたい。小児科は経口食物負荷試験や成長ホルモン負荷試験、ネフローゼ症候群をはじめとする腎疾患の診断や治療を中心に受け入れている。眼科は、白内障を中心に緑内障、硝子体の手術患者を受け入れている。新型コロナウイルス拡大時期には適切な感染対策を講じたことで新型コロナウイルスによる病棟内の感染拡大はなかった。

《目標と実績・評価》

1. 心身共に健康で働き続けたいと思う職場作り

業務改善・業務委譲を行い、超過勤務時間 13.1%減少した。定期的な有給休暇の消化を心がけ、平均 14.1 日/年取得することができ身体・精神的に安定して働くことができた。今後も効率的に取得し ON/OFF のバランスを維持していききたい。

2. 特有性を活かした看護を提供する

感染に留意し対策を行いながら勉強会を 9 回開催した。特に小児科を中心に統一した観察やケアが行えるよう知識を習得した。眼科の術後点眼や退院時指導は全員が行うことができたため、眼科一連の看護を全員がひとり立ちできるように取り組んでいき知識・実践を向上させ患者に合った必要な看護を提供していく。

3. 適切な安全対策を実践しリスクアセスメントを強化する

保湿や適切なポジショニングの説明を行い実践した結果、褥瘡発生は減少した。皮膚脆弱な患者も多いため看護補助者への教育も行い、全員が正しい知識を持ち体位交換を実施し更に減少を目指す。

4. 地域へ貢献するために退院支援の推進

他部署と連携を取り地域包括ケア病棟での内視鏡的粘膜切除術患者の受入体制を整えた。眼科の緊急手術や安静不安等により局所麻酔で行えない患者に対し全身麻酔で受け入れられる体制を整え手術件数は 523 件であり 2021 年度より 189 件多く受け入れた。また内科を中心とした全体の緊急入院を 355 件受け入れ高稼働を維持するベッドコントロールができた。

《2022 年度稼働実績》

病床稼働率:91.8% 看護必要度:40.7% 平均在院日数:9.3 日 入院患者数:40.4 人

《はじめに》

コロナ禍の第6波から第8波にかけて透析患者の感染が相次いで確認されたが、透析入り口での厳重な検温、体調確認を継続した結果、発熱・有症状者の透析室内への入室を未然に防ぐことができた。コロナ病棟での出張透析や陽性患者の送迎、透析室内のゾーニングによる隔離透析を延べ262回実施し、透析室でのクラスター発生を防ぐことができた。また、コロナ禍において、スタッフ数が減少する危機に陥ったが、透析センターとしてのBCP対策を実施し、平時と同様の透析治療を提供し続けることができた。今後、感染予防対策の情勢を鑑みながら、コロナウイルスと共生する新しい世界においても、それぞれの日常の営みを続けられるように適切で安心できる治療環境を提供していきたい。

2022年度の透析導入患者数は97名で、他院から治療目的での転入患者100名を受け入れた。現在、251名の患者が通院透析を行っている。また、透析治療開始後の療法選択により腹膜透析に移行した患者2名、腎移植を選択した患者2名が、それぞれの新たな人生を歩み始めている。これからも透析患者のそれぞれの人生の物語りに触れさせていただきながら、患者自身が治療に向き合い、治療を継続しながらも自分の“暮らし”に満足できるよう、ひとりひとりの患者に寄り添い、支え続けていきたい。

《目標と実績・評価》

1. 患者が充実した日常生活を送ることができるよう、質の高い透析看護を実践する

プライマリー制を導入し、2～3名のチームで45名の患者を受け持ち、ケア実践の責任を明確にした。また、ベッドサイドケアに重点を置き、患者の透析治療に対する思いや治療継続によって起こる様々な困りごとを丁寧に聴き、個々に応じた援助を実践している。認知症の透析患者を取り巻く問題に速やかに対応し、地域の介護職と連携をとり治療が継続できるように関わったり、認知症透析患者のアドバンス・ケア・プランニング(ACP)も開始した。また、事前指示書をきっかけとしたACPも継続し、現在20名の患者が、自分が望む治療や自分らしく生きることについて語ってくれている。近年、高齢化が進み、通院が困難となる患者も増加傾向にあるが、当院を選んでくれる患者に安定した透析治療を提供し、元気で通い続けられるよう、下肢末梢動脈疾患の早期発見と予防にも力を入れている。また、2022年度「透析後疲労感に関連する因子の検討」として研究発表を行なった。透析後の疲労感に焦点をあて、影響する関連因子を明かにした。QOL(生活の質、生きがい、満足度)の低下は透析後の疲労感を助長させるため、適正な透析治療の提供と心身の状態を丁寧に観察しながら、その人に合った支援を行なっていきたい。さらに質の高い看護を提供するために腎不全認定看護師教育課程の受講を支援した。2023年度の活躍に期待を寄せている。

2. 笑顔で働き続けられる職場環境づくり

「どんなに忙しくても気持ちよく働こう」を合い言葉に、多職種がお互いを思いやる言葉かけを意識し、笑顔で働き続けられる「場」づくりを追求し実現することができた。

《はじめに》

2022年度、度々蔓延化する新型コロナウイルス感染症に対し、手術患者の抗原スクリーニング検査、スタッフの健康管理や個人防護具装着の徹底により、有事の影響を最小限に抑え手術室運営が行えた(2022年度手術件数3,221件、2021年度比100.2%)。

個別性のある手術看護を目指し、2022年度から術前・術後訪問の対象を全ての入院手術患者へと拡大、更に麻酔科医師の麻酔説明及び術前診察にスタッフの同席を開始した事で、対面する職種により表出できない患者の不安や苦しみを察知する機会が増え、それらをケアへとつなげる事ができた。身体的特徴や術式に依存し易い手術看護から全人的な苦痛を捉えた周術期看護へとスタッフ全体で共通した認識を持ち、術前訪問～手術実践～術後訪問の一連を継続させ、周術期看護の充実が図れている。

安全面への対策では、必須事項である『サインイン・手術部位マーキング・タイムアウト・麻酔医の退室許可・サインアウト』の内容を見直し、手術麻酔部門システム入力へ反映させた事で、スタッフ個々のリスク感性の向上、患者に関連する手術室内のヒヤリ・ハットの減少と、大きな医療事故を未然に防ぐ結果へつながった。

《目標と実績・評価》

1. 働きやすい職場作り

手術終了時刻が夜間に及んだ際の翌日勤務体制について、更に業務終了時刻別を細分化して勤務間インターバルを実践した結果、夜間担当スタッフの翌日抱える疲労度が減少し、常に心身ともに万全な状態のスタッフが手術患者を安全に迎え入れている。記録物の電子化移行も着々と進んでおり、これらにおいて確保できた時間が、対象を拡大させた術前・術後訪問等の周術期看護実践へ充てられた。

2. 質の高い手術看護の提供

教育担当係は新人指導内容の更新と教育に注力し、新人看護師がクリニカルラダーIを取得できた。セーフティリンクナースを中心にIAレポート入力強化と事例の共有、速やかな対策の実践を継続した結果、類似したインシデントの再発防止へつながった。感染リンクナースは感染に関する勉強会や積極的な手指衛生活動により、スタッフの手指消毒剤使用量と手指衛生回数が増加し、アウトブレイクや重篤な術後感染は発生しなかった。褥瘡リンクナースを中心に長時間腹臥位による褥瘡発生を振り返り、効果的な体圧分散材料の選択と除圧方法を再検討し、看護実践へ反映させている。

3. 多職種・他病棟と連携を図り、円滑な手術室を運営する

時間管理・人材管理に焦点をあて、術式により異なる器械展開所要時間や臨床工学技士と連携する業務内容の役割を明確化させた手術スケジュール調整を常態化した結果、638件の追加手術を受け入れる事ができた。さらに毎週金曜日(2023年より連日)、計97日間の発熱外来応援勤務が実施できた。

《はじめに》

2022年度外来は地域の窓口として、わかりやすく丁寧で、迅速な外来診療の提供に努めてきた。特に待ち時間対策として、診療開始時間の確認や、診察の進行状況の案内、必要に応じて予約日時の調整など診療科ごとに対応することで、待合の混雑状況を回避できるようになった。今後も継続して待ち時間短縮に向けて患者の視点を忘れずに取り組んでいきたい。新型コロナウイルス感染状況が変化中、正しい手指消毒や個人防護具の着用を継続し感染拡大を防止し、安全で安心できる治療環境を維持することができた。また、2022年度の病院機能評価受審を機にケアプロセスの正確な記録について振り返るとともにIC同席時の記録を徹底することで、治療に向き合う患者の精神的支援につなげることができた。2023年度も地域医療に貢献し、患者が地域で生活することを支援するため看護専門外来のさらなる拡充と、多職種と連携し個別性のある患者中心の継続看護の実現を目指していきたい。実績は以下の通りである。(CKD支援外来 493件、CKD・HD予防外来 662件、生活習慣病支援外来 579件、腎代替療法外来 15件、骨粗鬆症・再骨折予防外来 203件、禁煙外来 81件、弾性ストッキング指導 40件、心不全療養指導士相談 184件、アレルギー相談 33件、外来通院治療室年間 2,135件)

《目標と実績・評価》

1. 専門性の高い外来看護の提供

患者本人の想いを傾聴し、患者自身が病気と向き合い、望む治療を継続しながら地域で生活できるように、またその人にとって最も良い意思決定となるように支援することに努めた。退院支援カンファレンスに参加し、実現可能な日常生活を情報共有することで、個々に応じた在宅療養支援につなげることができた。救急外来では、救急患者のトリアージを開始するためスタッフ教育を行ない、10月からトリアージを実践している。院内学会では腎代替療法の取り組みを発表し、患者の人生観や価値観を確認し、患者がどう生きたいか療法選択するための支援について外来としての課題を明確にすることができた。今後も患者と共に悩み一緒に考えるプロセスに丁寧に関わっていきたい。

2. 地域医療への貢献

小児科外来では、学校検尿、保育園検診、各種の集団ワクチンなど地域の活動に参画し生活指導なども継続することができた。救急車の応需については、応需可能な状況を明確にすることで応需率が向上し年間受入数 2,000件を達成することができた。多職種と協働し、発熱外来・コロナワクチン接種を継続し、発熱者のトリアージやワクチン接種後の副反応患者の対応を実施し感染拡大を防止することができた。

3. 働きやすい職場づくり

多忙な時間帯の応援体制と協働でできる業務を明確にすることで、お互いに声を掛け合い支援することができた。気持ちの良い挨拶とお互いを思いやる言葉を伝えることで今よりさらに働きやすい職場づくりを実践していく。

《はじめに》

2022年度は新型コロナウイルス（以下 COVID-19）の感染が蔓延化し、病院の状況が刻々と変わるなか画像内視鏡外来では「感染させない・感染しない」ことを念頭に業務に取り組んだ。変化の多い一年であったがその都度柔軟に対応し、多職種との協働のもと患者が安全に検査・治療が受けられるよう努めた。内視鏡待合室の体制整備や混雑緩和と感染防止のため、自宅での大腸カメラの前処置を推進したことで、EMR 件数の増加に貢献するとともに、患者が検査までの時間を自宅で安楽に過ごすことにもつながった。また、冬には患者支援センター内の検査説明スペースを放射線診断科内へと移動した。検査と説明を同じ場所で行うことで動線が短くなり、落ち着いた環境が患者から好評評価を得た。発熱外来は受診枠の調整等の整備を支援し、安定稼働に向け尽力した。

	内視鏡件数	画像系検査数	放射線治療	検査説明数
2022年度	4,979件	5,520件	4,954件	6,213件
2021年度	5,339件	4,655件	4,668件	6,366件
2020年度	4,500件	3,820件	5,250件	5,777件

《目標と実績・評価》

1. 画像内視鏡外来の専門性を活かし、診療・治療に効果的な看護を提供する
緊急時の検査体制の確立のために週末の宅直制度の導入に向けて、オンコール時の速やかな電話対応や ERCP や止血などの緊急時に必要なスキルの訓練や知識の向上を図り、実践へ活かすことができた。教育体制については、放射線看護過程研修に1名が参加、放射線治療の看護実践を担える看護師を2名育成し、患者が安全に放射線治療を継続できるよう支援できた。また内視鏡室での急変事例の振り返りを行い、各々の役割や課題を再確認できたため、今後はシミュレーションによる対応力の強化を図る。自分たちの意識が検査や治療に伴う患者の気になりや苦しみに向いているか会話記録による振り返りを行い、意識的に関わる必要性を認識した。今後も援助的コミュニケーションを様々な場面で実践に活かせるよう学びを深めていきたい。
2. マニュアルを遵守し、医療・看護の質を保証する
COVID-19 などに対する適切な感染防止策を実施し、安全な検査・治療環境を提供することができた。感染リンクナースの手指消毒量の可視化や声掛けにより、スタッフの意識と手指衛生回数が向上し、消毒剤の使用量が140%増えた。今後も適切なタイミングで実施できるよう働きかけを継続する。
3. 働きやすい職場環境を整える
職場スローガンとして「THE POWER TEAMWORK」を掲げ、多職種が気持ちよく働けるよう不適切なコミュニケーションを禁止し、協力しながら業務が遂行できた。平均有休消化日数は17.9日取得できた。今後も相手の立場を思いやり、協力し合いながら働き続けられる環境をつくっていきたい。

《はじめに》

2022年度は、7領域8名の認定看護師（以下CN）、1名の特定看護師（慢性疾患管理モデル：糖尿病ケア）が活動した。主な活動として、院内の困難事例への看護実践とケアの質向上を目指し、以下の取り組みを行った。

《目標と実績・評価》

1. CNが各領域における困難事例を受け持ち、役割モデルとなる。

領域	活動内容	実践/相談件数	
糖尿病看護 (特定看護師)	①特定行為の実施 ②外来診察同席 ③生活習慣病支援外来 ④在宅療養指導料 ⑤糖尿病透析予防外来 ⑥フットケア	高橋弥	①5,164件/648名 ②231件/45名
		長谷川	③529件 ④441件 ⑤271件 ⑥155件
がん化学療法 放射線療法	①放射線治療外来 ②IC後個別面談 ③入院患者支援	神尾	①1,057件/270名 ②521件/259名 ③2件/2名
認知症看護	①物忘れ外来 ②入院患者支援受け持ち	橋本	①3件/3名 ②実践630件/132名 相談293件/165名(12月)
皮膚・排泄ケア	①ストーマケア(病棟+外来) ②ストーマサイトマーキング ③スキンケア ④フットケア ⑤褥瘡ハイリスク ⑥褥瘡・創傷回診 ⑦褥瘡・創傷ケア ⑧排尿自立支援	青木	①196件/81名 ②18件/17名 ③14件/12名 ④4件/4名 ⑤575件 ⑥416件 ⑦141件 ⑧8件/4名
		高野	②35件/21名 ③4件 ⑤125件 ⑥32件 ⑦28件
慢性心不全看護	①心不全療養支援 ②心不全予防支援	宍倉	①36件/28名 ②137件/70名
救急看護	①外来実践 ②ICLS指導・運営	森田	①840件 ②中止
感染管理	①学習会実施 ②ICTラウンド	安間	①7回 ②2回/月

2. 治療に効果的な看護の提供

院内教育に必要な勉強会を動画、ポスター等で開催。(皮膚・排泄ケア:14件/救急:9件/感染管理:8件/慢性心不全:3件/認知症:8件)また、効果的なコンサルテーションに向けて「CN通信」を4回発刊した。アンケート調査ではCNへの相談方法がわかった:77%/CNへ相談した:46%/満足した:97%であった。CNの助言は活かされた:86%/CNの認知度:84.3%(2021年度76.4%)であった。

3. 安全対策の強化

看護スタッフに対し、各CN領域におけるIAや最新の情報を共有した。

4. 機能評価に向けたケアプロセスの記載状況を把握し、整備する

各領域の診療・ケアプロセスの記載状況を把握し、整備した。(認知症・皮膚・排泄ケア)及びマニュアルを整備した(褥瘡・救急)

5. 看護の力で地域に選ばれる病院および院内への周知

外来の待ち時間で視聴できる掲示モニターに認定活動の紹介を3ヶ月クールで7領域実施した。地域広報誌STaDは年6回掲載した。

6. CNがいきいきと活動するための職場づくり

CN会議での相互支援と意見交換を実施し、1人1人意見を述べることにした。否定する姿勢はなく様々な視点で考えることができ円滑なコミュニケーションにつながった。また、認定更新時に困らないよう、支援・相談CNを明確化し支援を行った。

《はじめに》

患者が退院後に住み慣れた場所で日常生活の継続ができることを目指して、入院早期から退院支援に取り組むための多職種カンファレンスを定期的に継続できるよう体制を構築した。この体制構築により、コロナ禍で病棟編成が変わる等の院内の状況変化があった中でも専門性の高い支援を保つことができ、6月には入退院支援加算1を取得することができた。地域との連携においては、継続した医療提供のため、合同カンファレンスにも力を入れ、2022年度の介護支援等連携指導料算定件数は61件（2021年度46件）と増加した。今後は、退院支援に関するスタッフ教育の充実と地域との顔の見える連携強化により、更に質の高い退院支援を目指す。

《目標と実績・評価》

1. 多職種と連携し、患者が安心して安全に入院生活を送ることができるよう患者中心の個別性のある入退院支援を提供する

入院時支援では、入院セットレンタル導入に関する検討への参画や予定入院患者に対しての症状スクリーニングを継続し、感染拡大防止に努めた。退院支援では、多職種が早期から情報共有や支援を開始するため、記録の整備、多職種カンファレンス等の体制構築を行い、入退院支援に関する加算の算定件数の増加や退院支援の質向上につなげることができた。治療経過から退院支援を判断する事例について、多職種での関わりを更に充実させていくことが課題である。

	入退院支援加算	入院時支援加算	介護支援等連携指導料
2020年度	294件		36件
2021年度	1,275件	403件	46件
2022年度(2021年度比)	3,109件(243%)	1,571件(389%)	61件(132%)

2. 外来患者や地域の人々が医療資源・社会資源を活用できるよう情報を提供し、多職種・地域と連携して、患者の意向に沿った療養支援を行う

電話・面談による相談件数は年間2,531件（2021年度比121%）であり、そのうち受診・症状相談が1,432件（2021年度比175%）、地域連携（医療福祉サービス導入等）に関する相談が604件（2021年度比150%）と増加した。地域連携については、面会制限が続いた状況を受け、自宅を療養の場として選択する患者が増えたが、多様な背景を持つ患者の意向にできる限り応え、安心して自宅で暮らすことができるように患者中心の療養支援を行うことができた。また、地域から選ばれる病院づくりを目指して、緩和医療科外来の初診受付の運用検討に参画し、受診しやすい体制を構築した。地域で患者が望む生活を継続できるように、今後も地域の多職種との連携強化、必要な院内の体制づくりに取り組む。

《スタッフ》

臨床検査技師 27名 准看護師 1名 事務受付 3名

《資格取得者数》

超音波検査士（循環器 1名 消化器 1名 体表臓器 3名 健診 3名）
 心電図検定 1級 2名 心電図検定 2級 1名 細胞検査士 2名 国際細胞検査士 1名
 認定病理検査技師 1名 有機溶剤取扱者 2名 特定化学物質取扱者 2名
 毒物劇物取扱責任者 2名 NST 専門療法士 1名 千葉県糖尿病療養指導士 1名
 日本乳がん検診精度管理中央機構乳房超音波講習会 A 判定 4名
 ピンクリボンアドバイザー初級 1名 二級臨床検査士（臨床化学 1名 病理学 3名
 微生物学 1名 免疫血清学 2名 循環生理学 1名） 緊急検査士 4名
 POCT 測定認定士 1名 ME2 種 1名 骨粗鬆症マネージャー 2名

《業務内容》

採血業務、健診センター業務、一般検査、血液検査、生化学検査、免疫学検査、生理検査、病理検査、輸血検査、細菌検査（培養・同定・感受性を BML へ委託）。また、検査業務以外に、糖尿病教室、腎臓病教室、感染対策、NST、治験業務等へ積極的に参加している。

《取り組み》

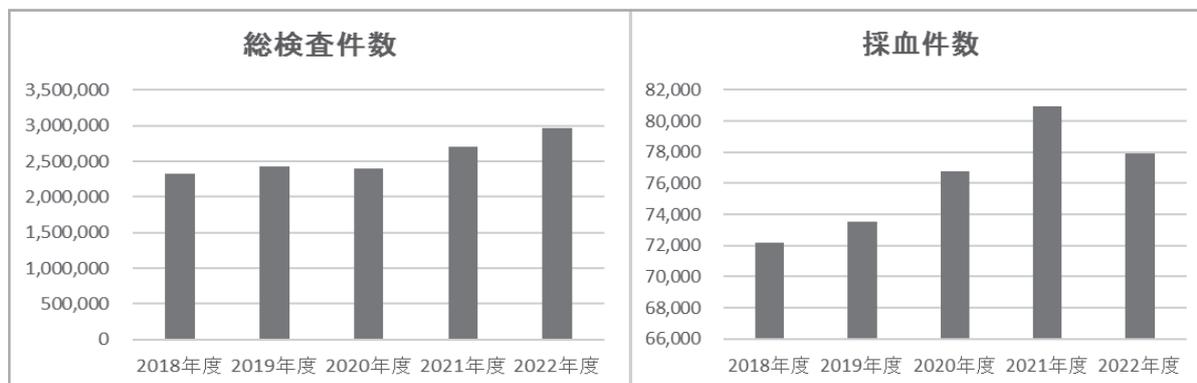
新型コロナウイルス PCR 検査を院内化した。院外 PCR の結果待ちのため、感染対策を継続していた事例が、迅速に結果を報告することが可能となり臨床の負担軽減に貢献した。病棟検体の前日準備の締め切りを 15 時から 17 時に延長し、病棟看護師の作業軽減に貢献した。診療材料が高騰する中、WG 活動により診療材料のコストカットを実現した。

超音波検査では予約枠以外の検査を受け入れ、診療に貢献した。

外部精度管理（日本医師会、日本臨床検査技師会、全衛連等、各メーカーサーベイ）においては、2022 年度も高い評価が得られた。

《実績》

2022 年度は総検査数が 2,963,258 件と過去最高件数となった。



眼科検査室

室長 大竹 梨詠子

《スタッフ》

視能訓練士 8 名 眼科コメディカル 2 名 (パート含む)

《業務内容》

・眼科一般検査

視力検査・眼圧検査・角膜内皮細胞検査・角膜形状解析検査・動的量的視野検査
静的量的視野検査・眼底カメラ検査・蛍光眼底造影・光干渉断層撮影
自発蛍光撮影・網膜電位図・検影法・色覚検査・眼軸長測定・眼鏡処方

・斜視弱視検査

眼位眼球運動検査・両眼視機能検査・網膜対応検査・立体視検査
抑制除去訓練・輻輳訓練・弱視訓練

・ロービジョンケア (低視力者に対して視機能評価、視覚補助具の選定と指導)

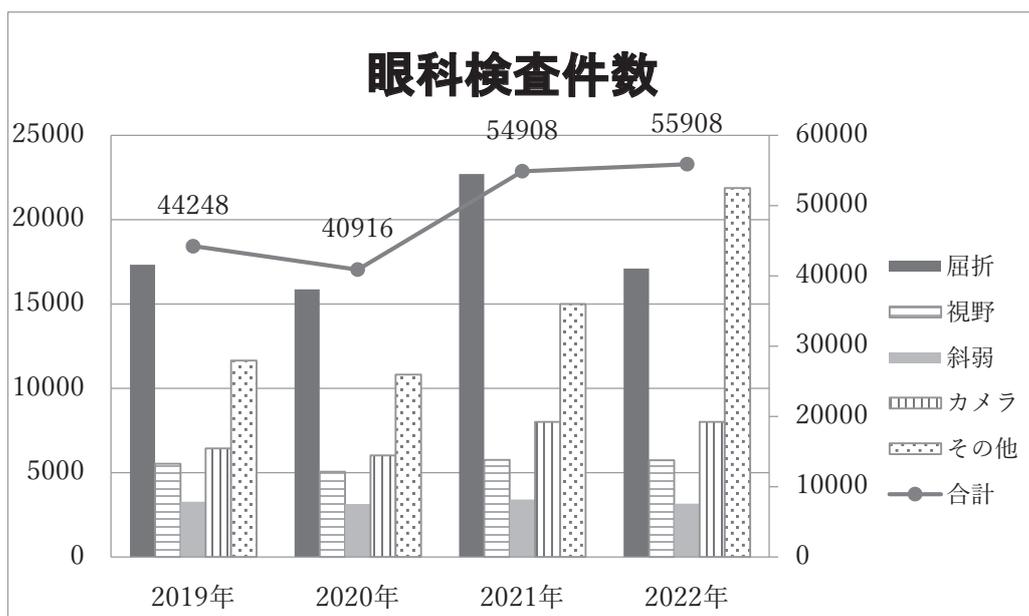
・健診センター業務 (視力検査・眼圧検査・眼底カメラ検査)

《取り組み》

2022 年度は 2021 年度より近隣医療機関からの紹介も増え、検査件数や手術件数が増加した。また斜視弱視患者の紹介もあり地域連携も確立できている。コロナが続く中、消毒や換気をしながら患者が安心して受診できる環境作りを継続した。

2023 年度は常勤医師が 2 名になるため、より多くの疾患に対応できるようになる。そのため、迅速にかつ信頼性と質の高い医療の提供を行えるよう視能訓練士も日々精進していく必要がある。満足度の高い接遇を意識しながら、眼科医師、看護師、事務員と連携してチーム医療を推進していく。

《実績》



《スタッフ》

薬剤師 24名 事務 3名 (パート含む)

《資格取得者数》

日病薬病院薬学認定薬剤師 5名 日病薬がん薬物療法認定薬剤師 1名
 日病薬感染制御認定薬剤師 1名 日本薬剤師研修センター認定薬剤師 5名
 腎臓病療養指導士 2名 腎代替療法専門指導士 1名 骨粗鬆症マネージャー 2名
 栄養サポートチーム(NST)専門療法士 4名 周術期管理チーム薬剤師 1名
 日本大学薬学部認定薬剤師 1名

《業務内容》

調剤、製剤、DI、抗がん剤混注、TDM、薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務、通院治療室・手術室・透析室常駐、ICTやNST、褥瘡回診などチーム医療への参画、薬品管理、患者支援センターの活動、治験実施への関与、薬学生実務実習受入

《取り組み》

2022年度は病棟業務内容の見直しを行い、薬品管理全般への関わりを強化した。また、安全性を考慮したPBPMの導入と新たなフォーミュラリーの導入を行った。COVID-19については、治療薬の手配と発熱外来における調剤薬局との調整、ワクチン管理等の対応を行った。

2023年度は病棟業務の更なる改善に取り組み、引き続き安全に薬物治療が行われるよう関わっていくことを目指す。また、IA報告内容の分析を行い具体的な対策を立案して医療安全対策に取り組む。さらに、薬薬連携を通じたポリファーマシー対策に取り組み、トレーシングレポートを含めた院外薬局との情報共有を図っていく。

《実績》

【処方箋枚数・注射箋枚数】

	総枚数	1日平均
外来 院外処方箋枚数	113,938枚/年	390枚/日
外来 院内処方箋枚数	3,747枚/年	13枚/日
入院 処方箋枚数	61,284枚/年	168枚/日
注射箋枚数(薬剤科セット)	84,282枚/年	231枚/日

【各種件数】

	年間件数	月平均
薬剤管理指導件数	6,700件/年	558件/月
持参薬鑑別業務件数	4,080件/年	340件/月
外来 無菌製剤処理料1(細胞毒性)	1,988件/年	166件/月
外来 抗がん剤混注件数	2,109件/年	176件/月
入院 抗がん剤混注件数	292件/年	24件/月

放射線診断科 放射線科

医師 瀬戸 一彦
技師長 園田 優

《スタッフ》

放射線診断医 1名 非常勤医師 8名 診療放射線技師 26名 事務員 3名

《資格取得者数》

検診マンモグラフィ認定技師 6名 X線CT認定技師 2名 放射線機器管理士 2名

肺がんCT検診認定技師 2名 胃がんX線検診技術部門B資格 3名

放射線管理士 2名 放射線治療品質管理士 1名 放射線治療専門放射線技師 1名

臨床実習指導教員 1名 日本磁気共鳴専門技術者 1名 胃がん検診認定技師 2名

胃がんX線検診読影部門B資格 3名 血管撮影・インターベンション専門技師 1名

骨粗鬆症マネージャー 1名 医療安全管理者 1名

《業務内容》

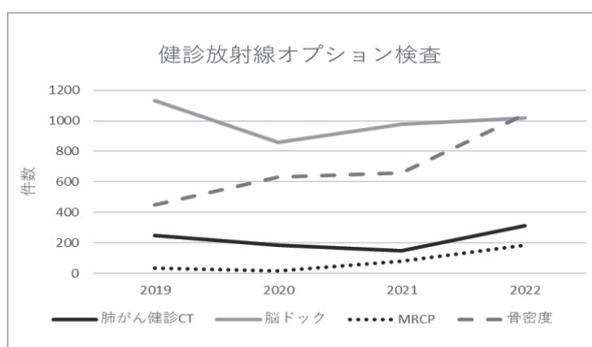
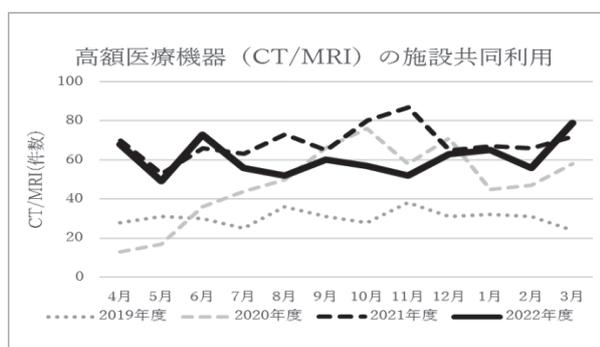
一般撮影、透視検査、骨密度測定、CT、MRI、血管造影、核医学検査、マンモグラフィ、放射線治療、健診センター業務、受付業務、画像診断、読影管理業務

《取り組み》

- ①高額医療機器の施設共同利用（地域診療所からの検査委託）の推進のため、総合企画室、地域連携室と協働し地域医療の貢献を目指した。
- ②地域の健康推進のため、健診センターでは当日のオプション検査受入を開始した。
- ③画像診断報告書の未確認が社会的な問題になり、放射線科で画像診断報告書の確認を強化した。

《実績》

- ①2022年度は常時60件/月のご依頼を頂いた。また、当日の検査依頼も受け入れることができた。
- ②2022年度は肺がん検診CT、MRCPの検査依頼が多くなり対2021年度比2倍以上になった。
- ③2022年度は13,744件の画像報告書が作成され、放射線科では396件についてカルテの内容確認や医師に直接報告した。



栄養科

科長 中村 貴子

《スタッフ》

管理栄養士 12名 栄養士 2名 調理師 6名 事務 1名 調理助手 8名
食器洗浄 14名（パート、学生アルバイト、就労支援 6名含む）

《資格取得者数》

NST 専門療法士 2名 骨粗鬆症マネージャー 4名 心不全療養指導士 1名
病態栄養認定管理栄養士 1名 がん病態栄養専門管理栄養士 1名
がん病態栄養専門管理栄養士研修指導師 1名 日本糖尿病療養指導士 1名
在宅訪問管理栄養士 1名 高血圧・循環器病予防療養指導士 1名
特定保健指導担当栄養士 2名 給食用特殊料理専門調理師 1名

《業務内容》

① フードサービス（食事提供に関連する業務）

院内食事基準管理、献立作成、食材管理、調理、配膳、下膳、食器洗浄、
食品衛生に関する業務、給食システムの管理、食数管理、市場調査、嗜好調査、
治療食の提供、行事食の提供、院内保育園への食事提供

② クリニカルサービス（栄養管理に関連する業務）

外 来) 疾病別個別栄養指導、患者支援センター入院前問診、
骨粗鬆症リエゾンサービス関連業務、摂食嚥下造影検査関連業務
入 院) 栄養状態の評価、栄養管理計画書の作成、疾病別個別栄養指導
個別対応のプランニング、ミールラウンド（患者訪問）、カンファレンス
への参加、教育入院に関連する業務、食物アレルギー負荷試験
チーム活動）NST、摂食嚥下、褥瘡対策、緩和ケア、骨粗鬆症リエゾンサービス、
循環器疾患

《取り組み》

9月より調理師による昼食ミールラウンドを開始し、患者の声を調理師主導の献立改善に活かす取り組みを行い、1年間で10献立を入れ替えることができた。事業団内の施設対抗料理対決でおいしい麺料理をテーマにレシピ動画対決が開催され、栄養士考案の「梅風味・ぶっかけ肉うどん」が優秀賞を受賞した。糖尿病透析予防指導、通院治療室での栄養指導枠を拡大し、患者のニーズに応える栄養指導を行うことができています。今後は特別メニューや緩和ケア食等の患者ニーズに沿った食事を提供したい。

《実績》

食事提供数(平均) 22,132食/月

(一般食 11,430食 治療食 10,026食 濃厚流動食 369食 その他 307食)

栄養指導件数(平均) 外来(初回) 37.8件/月、(2回目以降) 138.6件/月

入院(初回) 107.2件/月、(2回目以降) 25.5件/月

NST加算件数(平均) 117.4件/月

学生実習受入れ 4校(延 11名)

《スタッフ》

臨床工学技士 37 名

《資格取得者数》

血液浄化専門臨床工学技士 1 名 透析技術認定士 13 名 呼吸療法認定士 8 名
認定血液浄化臨床工学技士 3 名 消化器内視鏡技師 2 名 臨床検査技師 3 名

《業務内容》

医療機器全般の保守点検・定期点検の実施、トラブル時の対応
手術室の機器セッティング・操作・介助、保守点検、トラブル時の対応
内視鏡室・健診センターでの使用前点検・操作介助・使用後点検、保守管理
心臓カテーテル検査における清潔介助・外回り・ポリグラフの操作
ペースメーカー外来でのプログラマーの操作、緊急時の対応
透析実施全般、透析装置保守管理、透析用水に関わる業務、特殊血液浄化療法実施

《取り組み》

2022 年度は透析センターや病棟における COVID-19 対応の影響が大きかったが、各部署との協力で乗り切ることができた。透析センターではレオカーナの症例数の増加、フットチェックの継続など下肢救肢の取り組みを進めた他、使用するヘモダイアフィルターやシャントエコー算定の見直し等を実施し、増収につなげることができた。また、電子スコープの生菌検査方法の見直しによる検査数の増加・防災訓練・教育改善をすすめ、安全性の向上に努めた。2023 年度は BIA の本格運用や各部署でのタスクシフト、タスクシェアをさらに進め、業務の充実を図りたい。

《実績》

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
手術室立ち会い業務件数	1,254	1,288	1,218
ペースメーカー業務件数	190	166	155
内視鏡立ち会い件数	4,575	4,524	4,857
心臓カテーテル業務件数	97	141	129

血液浄化実施件数

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
血液透析	41,218	41,701	41,249
その他血液浄化療法	8	13	82
腹水濃縮濾過再静注法	30	21	3
シャントエコー	733	738	737
VAIVT	146	158	170

リハビリテーション室

室長 白井 智裕

《スタッフ》

理学療法士 21名 作業療法士 3名 言語聴覚士 3名 歯科衛生士 2名
リハビリテーション室受付・業務補助 4名

《資格取得者数》

運動器認定理学療法士 3名 スポーツ理学療法認定理学療法士 1名
代謝認定理学療法士 1名 3学会合同呼吸療法認定士 2名
骨粗鬆症マネージャー 1名 腎臓リハビリテーション指導士 3名
NST 専門療法士 2名 認知症ケア専門士 1名 福祉用具プランナー 1名
認定言語聴覚士（摂食嚥下障害領域） 1名 日本口腔ケア学会 4級認定者 1名
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 1名

《業務内容》

① 入院・外来患者に対するリハビリテーションの実施

《対象》 脊椎、肩・肘・手・股・膝関節疾患、上下肢骨折、廃用症候群、呼吸器疾患、
脳卒中、認知症、摂食嚥下障害、言語障害、術後構音障害

② 病棟カンファレンスへの参加 ③ 各委員会活動 ④ 退院前カンファレンス

《取り組み》

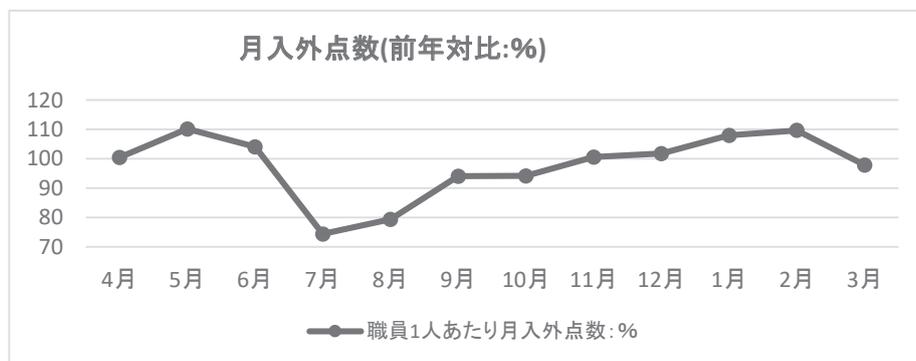
理学療法部門は、主に整形疾患（肩・股・膝関節疾患や外傷）や廃用症候群、呼吸器疾患の急性期に対し理学療法を実施、作業療法部門は主に手の外科疾患の術後、廃用症候群の急性期に対し作業療法を実施した。言語聴覚部門は摂食嚥下障害、呼吸リハ、廃用リハの急性期において入院・外来共に実施した。歯科衛生部門は、主に摂食嚥下障害、化学療法患者さんへの口腔ケア依頼に対する対応を中心に実施した。

地域包括ケア病棟では、在宅復帰に向けた支援やリハビリを中心に実施した。

研究活動としては整形外科、腎臓リハ、摂食嚥下分野等にて活動し、質向上に努めた。

《実績》

下記は、2022年度の職員1人あたり月算定総点数の2021年対比を示したものである。7～8月コロナ感染拡大期を除き、概ね100%前後の結果となった。



《スタッフ》

事務職員 6名（パート含む）

《業務内容》

経営企画業務、システム管理業務、広報業務、その他新規事業企画業務など

《取り組み》

●経営企画業務

- ・看護部や救急委員会と連携し、週末の積極的な救急受入、緊急入院のフォロー体制の構築などを行った。
- ・C3 病棟再開に伴い、一般診療とコロナ診療の両立に向け、病院方針や経営指標策定、運用構築、院内周知等に取り組んだ。
- ・各科と連携した取り組みとして、循環器内科や小児科の外来単価増加への取り組みや呼吸器外科の SAS 入院待機期間の短縮を目的に、CPAP 外来患者数について整理を行った。
- ・管理会議にて将来構想について検討を開始した。

●システム管理業務

- ・電子カルテシステムの更新、健診システムのベンダー変更について検討を行った。
- ・セキュリティの強化を目的に、電子カルテバックアップストレージサーバにクローン機能を追加した。また、事業団全体で EDR (Endpoint Detection and Response) を導入することとなり、導入準備を行った。

●広報業務

- ・コロナ禍のためイベント関連は自粛し、広報誌や HP を活用した広報活動を行った。地域情報誌 (STaD) を活用し、当院の診療内容に関する情報発信を積極的に行った。
- ・各部門と連携し、動画による情報発信や編集対応を行った。
- ・看護部採用の情報発信力の強化を目的に新たにランディングページを導入した。新卒用看護師採用リーフレットを制作した。
- ・コロナワクチンの空き瓶を利用し、ワクチンツリーを製作した。

●その他

- ・病院機能評価受審にあたり、コア会議事務局、第 2 領域 WG メンバーとして病院機能評価に参画した。また、情報システム運用規程の改定や院内掲示物の見直しなどを行った。
- ・新型コロナウイルス抗原定量検査の自費検査を 8 月に終了した。
- ・職員向けにランチ帯においてキッチンカーの誘致を行った。

《スタッフ》

施設課員 4名 委託設備員 6名 警備員 5名

《資格取得者数》

第3種電気主任技術者 1名 第1・2種電気工事士 9名 2級計装士 1名
 2級ボイラ技士 4名 乙種危険物取扱主任者 2名 第1・3種冷凍機責任者 3名
 甲・乙種消防設備士 2名 甲種防火管理者 1名 建築物環境衛生管理技術者 2名
 エネルギー管理員 1名 特別管理産業廃棄物管理責任者 1名
 特定高圧ガス取扱主任者 2名 第1種高圧ガス販売主任者 1名
 高圧ガス製造保安責任者乙種機械 1名

《業務内容》

- ・建築物、電気設備、衛生設備、空調設備、医療ガス設備、消防用設備、搬送設備中央監視設備等の維持管理、車両管理
- ・各種工事、外構、緑地、産業廃棄物、感染性廃棄物、清掃業務(委託)等管理
- ・院内外修繕業務、光熱水管理業務、省エネルギー推進業務、各種自主点検業務各種法定点検及び官庁諸手続き業務等
- ・院内外の巡視警備、立哨出入り監視

《取り組み》

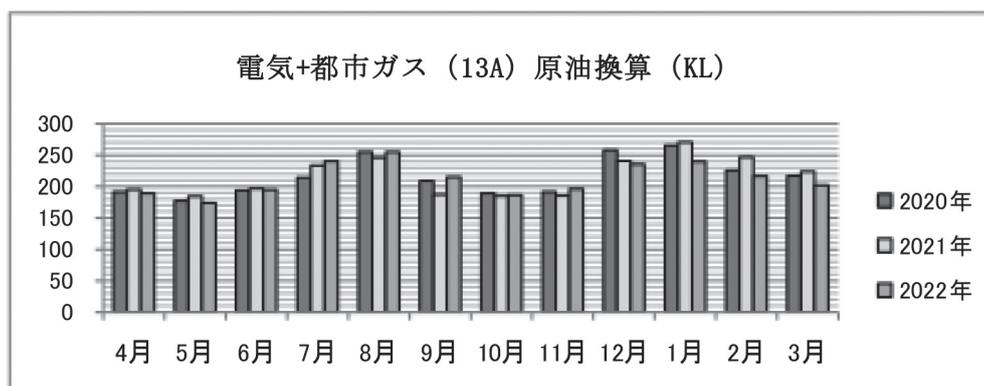
- 老朽化による設備改修計画や非常用電気設備の整備、修繕を行った。
- BCP（事業継続計画）の策定を行った。
- 光熱水費増加に伴い、LED照明を交換整備した。
- コロナ対応として各室の陰圧対応やCO2センサーを用いて環境調査し、空調の整備を行って利用者が安全に受診や療養できるよう努めた。

《課題》

- ・2021年から続いている燃料の高騰により、光熱水費の削減が課題である。LED照明の導入や空調運転管理など院内を巻き込んで行うことが必要。

《実績》

- ・光熱水費高騰が続き省エネ活動を積極的に行った。



《スタッフ》

職員数 計 22 名

課長 1 名 総務担当 9 名 事務当直者 1 名 司書 1 名 保育士 9 名 保育助手 1 名

《業務内容》

職員募集・採用・異動等の人事管理、人件費予算管理、給与計算・社会保険手続き・健康管理等の労務管理、各種届出・補助金・イベント対応・電話交換・その他庶務業務、医局・図書室の管理、入院基本料等施設基準の管理、医師臨床研修に関する業務、互助会代行事務・宿舍管理・院内保育園運営等の福利厚生に関する業務

《取り組み》

2022 年度は、一般診療と新型コロナ診療の両立が図られるなかでの人員配置の適正化に取り組んだ年であった。

職員採用においては、全職種における採用（退職補充）を適宜実施する方針とし、通年での採用活動を実施した。経営状況をみながら一定の補充を実施した一方で、急募診療科の常勤医確保、看護師の採用においては引き続き課題が残ることとなった。看護師採用に向けた取り組みとしては、動画やランディングページの作製、募集パンフレットの更新等、看護師募集ツールの充実を行った。引き続きこれらを有効活用するとともに、さらなる採用力強化に努めていく。一方、初期研修医において定員 4 名の採用に至ったことは、広報活動の強化を含め臨床研修体制の確立・安定化に継続的に努めてきたことの成果と受け止めている。労務管理においては、医師による出退勤打刻率の向上、超過勤務ルールの明確化等につき「医師の働き方改革」の一環として推進し、目標値を達成することができた。また、労務管理の仕組みとして、身上異動時における WEB 申請の全面導入に向け、2023 年度からの開始に備えるための準備も実施した。今後も病院全体の働き方改革に向け、継続的に取り組んでいく。なお、これらの実績と課題に加え、病院機能評価受審を通し、多岐に亘る総務業務において見過ごしてきた課題が浮き彫りとなったことも、各担当における振り返りの機会につながったと感じている。

院内保育園においては感染対策に徹底的に取り組むことで、一年を通し通常運営を行うことができた。このことも労働環境の継続的な確保の一助になったと認識している。

なお、課内の体制としては 2021 年度の退職者 4 名分（保育士含む）の減員状態を引き継ぐ形で 2022 年度も運営を行った。これにより、職員における労働負荷が大きい状況が続いたため、適正な配置に向けた対応をとっていくことが喫緊の課題と考えている。

《スタッフ》

事務職員 3名

《業務内容》

一般経理

小口現金出納業務、銀行取引業務、会計帳簿の記録・整理・保管、予算立案・管理、月次・年次決算業務、固定資産等財産管理

窓口会計

医療費の請求、窓口出納業務、未収金管理・督促

《取り組み》

当院の経営改善の2年目として予算必達のため予算管理を徹底した。特に費用管理について毎月各部署と情報共有を密に行い、経営状況に応じた効率的な投資を進めることができた。

医療費の未収金対策として入院セット導入に伴った医療費保障サービスの導入を行った。これにより未収金の発生を防ぐことができた。また事業団としての課題である医事システムと財務システムとの未収金差異をなくす取り組みを行い、差異を極力なくすことができた。さらに差異をなくすよう原因を追求していく。

《実績》

2022年度の経営状況は、7月に新型コロナウイルスにより職員と入院患者の感染が拡大したため、一般病棟（44床）を休床しコロナ専用病棟を再開した。そのため入院患者を制限せざるを得ない状況となり入院患者数は予算未達となった。ただし、コロナ関連の補助金を活用し収益が予算未達にならないよう入院患者目標値を設定する対策を行った。また、健診事業は過去の利用者へ受診勧奨を行うことや閑散期も積極的な活動の結果予算を達成することができた。一方費用については、人件費は採用困難な状況が続き予算未達となったが、2023年度に向け採用を進めることができた。また水光熱費の急激な高騰により増加した課題もあったが、その他の費用については、価格交渉などにより費用削減を行えたこと、また設備投資についても経営状況を見据え効率的な導入を図ることができた。結果、税引前当期活動増減差額において対予算+341,083千円と大幅に予算を達成することができた。

単位：千円

	2021年度 実績	2022年度 予算	2022年度 実績	2021年度比
サービス活動収益	11,455,187	10,890,000	11,162,251	97.4%
サービス活動費用	10,882,906	10,989,000	10,906,734	100.2%
うち人件費	5,891,933	5,993,000	5,911,799	100.3%
経常増減差額	542,624	-126,400	223,016	41.4%
税引前当期活動増減差額	447,207	-180,000	161,083	33.8%

《スタッフ》

事務職員 計 6 名

購入管理担当者 5 名 手術室クラーク担当者 1 名

《業務内容》

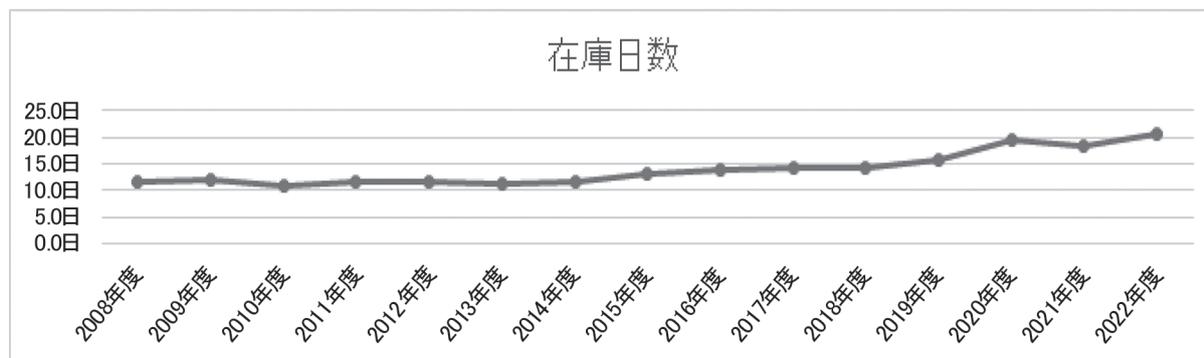
資材課は医療機器・診療材料・事務用品等の購入や価格交渉と、手術室クラーク業務（手術室物品管理や台帳作成等）を主とし、病棟、外来アメニティーなども委託会社を通して、管轄として業務を行っている。

《取り組み》

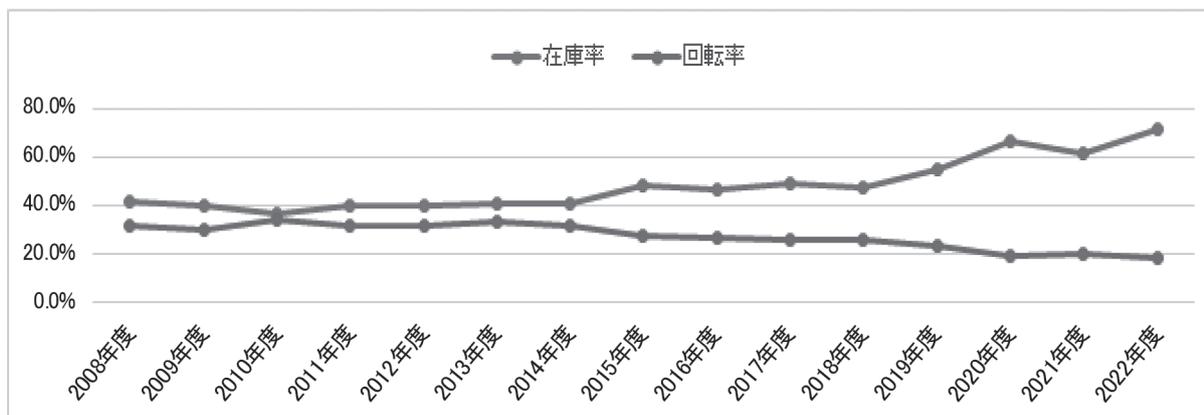
2022 年度は診療報酬改定に伴う診療材料の価格交渉、物価上昇による値上げ品に対する価格交渉と物品の見直しを行い、費用抑制に努めた。中央材料室の高圧洗浄機、透析センターベッド、老朽化した病棟配備機器の更新を実施した。入院セットサービスは委託業者との定例会を開催し、改善に努めた。

《実績》

- ・ 診療材料 在庫日数



- ・ 診療材料 在庫回転率及び在庫率



《スタッフ》

事務職員 5名（パート含む）

《主な業務内容》

- ・ 医療機関・施設等より患者さんの診療受入相談（外来、入院、時間外、転院）に伴う前方支援連携
- ・ 当院で治療を終えた患者さんの施設戻り調整や新規透析患者さんの通院透析先の調整や逆紹介に伴う後方支援連携
- ・ 高額医療機器共同利用の受付、他医療機関への受診や検査予約取得案内
- ・ 紹介元医療機関への診療結果報告書の返書管理、診療情報提供書の受付
- ・ 広報活動

《取り組み》

2022年度は10月に1名が他部署へ異動となったが11月～3月までにそれに伴う人員補充に難渋し、結果として5名体制での業務となった。また2021年度に引き続きコロナ禍で不安定な社会情勢が続く中、信頼され地域から選ばれる病院として先生方より多くの患者さんを安心して紹介していただけるように以下のような取り組みを行った。

【診療結果報告書7日以内返書の取り組み】

2021年度より取り組みを開始したが、いままでおざなりになっていた返書規定を明確にして、さらに7日以内に返信することにより、地域の先生方より当院に対して「安心して紹介できる病院」として認知して頂けるよう目指してきた。また管理会議や診療科責任者会にて返書率の定例報告を行い同時に院内にも7日以内返書の風土醸成ができてきた。スタッフもこの取り組みに奔走しているが、まだ改善の余地あり、返信率100%達成に向けて今後も継続していく。

【各診療科と地域医療機関の連携関係を構築】

院外活動として医療機関への訪問があげられるが計画していた夏と冬に折しもCOVID-19の感染拡大が重なり厳しい条件下であったが、先方のご理解をいただき年間を通じて数こそ少ないが約60件の医療機関への訪問活動ができた。具体的には整形外科では医師同行にて積極的な救急受入や肩肘領域の診療広報を行った。その他では緩和医療科、乳腺外科、耳鼻咽喉科に於いても関連医療機関へ訪問を行い紹介効果は上々である。また放射線治療機器入れ替えに伴う照射停止中の医療機関と期間中の照射サポートを含めた連携に放射線治療科と共に取り組むことができた。

2022年度はコロナ禍による不安定な中で、限られた人数で業務遂行は厳しいものがあったが、地域医療連携室を共に支えてくれたスタッフ全員に深謝申し上げたい。2023年度はこれまでの分を挽回できるよう各種業務に取り組んでいきたい。

《実績》

・ 紹介件数 9,224件 ・ 逆紹介件数 6,821件 ・ 医師同行訪問件数 36件

《スタッフ》

管理者 1名 医療福祉相談員 5名 事務員 1名

《資格取得者数》

社会福祉士 5名

《業務内容》

通院、入院中の患者さん、ご家族に対し、医療福祉相談室では療養上の生活に関する不安や心配事伺い、様々な福祉制度(介護保険、身体障害者福祉、障害年金、健康保険、社会保障制度等)の紹介、援助を行っている。相談内容としては、1. 医療費・生活費問題 2. 退院援助 3. 受診・入院相談 4. 療養中の生活諸問題 5. 在宅ケア諸サービス 6. 人間関係に関する援助 7. 心理的問題 8. 診断治療理解決定 9. 就労就学支援 10. 苦情受付 等となっている。相談内容に応じて医師や看護師、リハビリ等のコメディカルスタッフ、事務部門と連携、相談や必要に応じて地域の関係機関や専門の相談機関の紹介も行っている。

《取り組み》

2022年6月より、退院支援加算1の取得が開始となり、各病棟に専任の社会福祉士および看護師が配置された。入院後1週間以内に行われる多職種退院支援・リハビリカンファレンスを実施することにより、①退院調整が必要な方の早期発見②病棟およびコメディカルスタッフとの活発なコミュニケーション③多職種協働による退院支援、これらにつながり、私たち職員の合言葉“Weで語ろう”実践により、サービスの質が向上したといえる。また、コロナ禍ではあったが、地域の居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、介護老人保健施設等、患者さんを支えてくださる事業所や施設の方々と、顔の見える連携、信頼のおける関係づくりを実行しており、継続して積極的に拡大カンファレンスを実施し、2022年度は60件という結果となった。さらに、産休育休から復帰した職員がおり、相談件数も2021年度より大幅に増え、1,504件の増加となった。

外来、入院問わず対応するケースも、老老介護に加えキーパーソン不在、経済的困窮、不法滞在等、複雑化しており、対応に時間を要することも多くなっている。そうした状況下、地域の関係機関から外来患者の支援に関し相談を受けることも多々あるが、十分に対応できていないこともある。外来の患者、家族、関係機関への対応を充実させるために、病棟専任を持たないスタッフの補充も2023年度は実現したい。また、サービスの質のさらなる向上として、せいいいケアプランセンター佐倉、せいいい訪問看護ステーション佐倉との連携を強化し、退院を急ぐ終末期のケースや、継続した医療処置が必要なケースもよりスピーディーに退院調整ができるようにしたいと考えている。そして、引き続き、地域の機関の方々や病棟およびコメディカルスタッフにも力をお借りしながら、“患者さん本位の援助”を継続していきたい。

《実績：相談延べ件数／実人数》

2022年度 9,081件／2,420名 (2021年度 7,577件／2,171名)

外来医事課

課長 石井 まゆ美

《スタッフ》

事務職員 計 41 名（育休中含む）

課長 1 名 外来医事 3 名 ドクタークラーク 5 名

外来クラーク 20 名 外来受付 10 名 透析クラーク 2 名

《業務内容》

受付、書類対応、予約・診療に関する問合せ対応、外来医療費の計算、診療報酬請求、透析室事務、外来診察室事務、学術・研究支援

《取り組み》

2022 年度は 4 月の診療報酬改定に伴い、患者への案内、院内への情報発信を行い、新設された項目の届出を行った。中でも、二次性骨折予防継続管理料の届出にあたり、大腿骨近位部骨折のデータベース登録に必要な項目を医師・看護師・理学療法士・事務の多職種協働でデータ収集し、医師事務補助者がデータ入力を担当している。今後も継続して行く予定である。

7 月は課内でコロナ感染者が増加したが、役職者をはじめとしたスタッフの協力体制のもと、通常業務に影響を与える事なく乗りきることができた。

外来診察の待ち時間については、診療開始時間の徹底、待ち時間が長い医師の予約枠について、変更・見直しを行った。さらに一部診療科では、医師がカルテへ記載していた血圧、サチュレーションの数値を医師事務補助者が代行入力を行い、スムーズな外来診療が実施できるよう取り組みをおこなった。また乳腺外科では、1 年ごとの定期受診者のマンモグラフィの待ち時間短縮のため、乳腺外科医師、放射線科と共に検討を行った。1 年後の予約を取得するまでの運用手順の整備、マンモグラフィの予約枠を作成し 2 月より運用を開始している。

院内の連携では、健診センターと協働し、患者の要望が多いインフルエンザワクチンの接種枠を拡張し、地域貢献を行った。

課内全体では、2021 年度から引き続き個々ではなくチームで業務ができる体制を構築中である。2023 年度も継続し、長く勤められる、働きやすい職場環境作りを目指していく。外来収益に関わる診療報酬では、2024 年度診療報酬改定にむけて、院内への情報発信、新規届出の取得に積極的に取り組んでいく。

《実績》

外来患者数	832.1 人／日
外来単価	14,940 円
レセプト枚数（保険請求分）	11,262 枚／月
外来手術件数	28.8 件／月

入院医事課

課長代行 加藤 雄揮

《スタッフ》

事務職員 計 19 名（パート含む）

入院算定 6 名 診療録管理室 4 名 病棟クラーク 9 名

《資格取得者数》

診療情報管理士 3 名

《業務内容》

入院受付：入院に関する事務手続き全般の説明

入院算定：入院医療費の計算、診療報酬請求

診療録管理室：DPC 調査データ登録提出、院内がん登録、NCD 登録、死亡統計、ICD 別統計、疾患別データ抽出、カルテ開示、診療録管理体制加算に係る業務

病棟クラーク：病棟での入退院患者手続き等の事務全般

《取り組み》

2022 年度はコロナ感染症によるスタッフ不足への対応やコロナ専用入院病棟の変更などコロナ感染症の流行に対応を求められた。3 月には厚生局による施設基準適時調査があったが日々の施設基準管理体制により大きな指摘事項無く終えることができた。

入院受付：コロナ感染症流行フェーズの変化による院内状況の変更にあわせ患者案内の対応を行った。

入院算定：2022 年度診療報酬改定での新規加算の取得や地域包括ケア病棟の減算対応を行った。また 3 月には施設基準適時調査の対応を行い大きな指摘事項無く終えることができた。

診療録管理室：DPC 提出データ（保険診療指数に係る項目）詳細不明コードの使用割合減少化対策を継続して行った。外来患者の院内がん登録も一部開始した。

病棟クラーク：スタッフのコロナ感染による休職時の対応ができるよう各病棟クラークがヘルプ体制強化を行い、入院患者数の増加による業務に対応した。

《実績》

件名		件名	
入院患者数	292.6 人／日	入院単価	55,956 円
病床稼働率	77.6%	入院手術件数	240 件／月
退院患者数	6,685 件	カルテ開示件数	45 件
退院サマリ完成率（14 日）	98.6%	退院サマリ完成率（30 日）	100.0%
院内がん登録件数	718 件	NCD 録件数	1,959 件

《スタッフ》

専従：看護師（医療安全管理者） 1名

専任：医師（室長兼副院長） 1名 看護師 1名 薬剤師（医薬品安全管理者） 1名
臨床工学技士（医療機器安全管理責任者） 1名 事務 1名

《資格取得者数》

医療安全管理者養成研修修了者 3名（医師 1名 看護師 2名）

《業務内容》

医療安全推進のための担当部署として設置し、医療安全管理委員会と連携を図り、医療安全管理委員会で決定した方針の具体化及び実行推進

- ・医療安全管理委員会（毎月）及び医療安全管理室会議（毎週）の開催
- ・インシデント・アクシデント事例の情報収集と具体的対策の検討及び推進・支援
- ・医療事故防止に役立つ資料の収集と医療安全情報の発信、研修及び教育
- ・医療安全対策マニュアル整備、相談室担当者支援
- ・医療安全確保のためのパトロール・点検・指導 など

《取り組み》

- ・コロナ禍になり中断していた BLS 実地研修（診療部・医療技術部・事務部対象）、全職員対象とした動画による暴力対応研修を開催、BLS カードを全職員に配布した。
- ・医療事故調査・支援センター発行の提言に基づき、「安全な薬剤配置の工夫」や「頸部手術に起因した気道閉塞に係る死亡回避のための対策」を検討した。
- ・年間死亡事例（全件）の病態等を確認した結果、予期せぬ医療に関連した死亡の報告はなかった。また、1件について多職種カンファレンスを開催し、適切な医療を提供できるように体制整備を行った。
- ・年間 2,700 枚のインシデント・アクシデント報告があり、多くの報告の提出があった 4 職場と 6 個人に「最多レポート賞」を授与した。
- ・すべての職員が患者安全を大切に考え、患者に安心・安全な医療が受けられるように 2023 年度も活動を続けていく。

《実績》

- ・医療安全対策マニュアルの新規作成 4 件、改訂 36 件に携わった。
- ・暴力対応研修は職員の 89%が受講し、BLS 実地研修は 219 名が参加した。

《スタッフ》

医師 2 名 看護師 2 名 薬剤師 1 名 臨床検査技師 1 名 事務 2 名
(専任、専従、パート含む)

《資格取得者数》

ICD(infection control doctor) 2 名
感染制御学修士 1 名
感染管理認定看護師 1 名

《業務内容》

新型コロナウイルス感染症対策、院内感染防止対策マニュアルの作成・改訂
ワクチン接種事業(コロナ・インフルエンザ)、職員の抗体値管理
感染対策の院内研修、ICT ラウンドの実施と環境評価

《取り組み》

7、8月に発生した新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)の院内感染における感染者・濃厚接触者の洗い出しや管理の徹底により、感染拡大を最小限に抑え込むことができた。また、コロナ病棟の再開設に関わり、院内感染者転棟につなげた。

コロナ対策会議では最新情報を共有し、面会等病院制限に関する事項の意思決定をした。

コロナワクチン接種では、2021年3月に接種開始以降継続的に取り組んでいる。総接種回数は45,000回を超え、感染防止に係わる地域貢献ができた。

院内の感染対策については、2022年度より手術室・検査科と協力し JANIS の SSI(院内感染対策サーベイランス手術部位感染)部門〔整形外科〕に登録・参加した。2023年度は薬剤科を中心に J-SIPHE(感染対策連携共通プラットフォーム)に参加予定となっている。また、中材のウォッシュャーディスインフェクター劣化に伴い、洗浄・効率化・質の観点から機種選択を行った。

2022年度は印旛地区における感染対策カンファレンスに5回参加(うち1回は新興感染症を想定した訓練)し、地域の感染状況を共有、院内感染対策に役立てた。

コロナ5類移行後も、院内各部門や近隣医療機関、佐倉市や千葉県と連携し、コロナを含む感染症の拡大防止に努めていく。

《スタッフ》

所長(兼副院長) 有田 誠司 副部長 久保田 亨 医 長 石橋 見季
副所長 楠目 健一 主任医長 太田 智雄 医 師 高野 玲
非常勤医師 5名 保健師 3名 看護師 12名 管理栄養士 1名 臨床検査技師 12名
診療放射線技師 12名 事務職員 32名 (病院との兼務及びパート含む)

《資格取得者数》

日本人間ドック学会人間ドック認定医 6名 労働衛生コンサルタント 1名
産業医 5名 日本認知症予防学会専門医 2名 健康スポーツ医 1名
産業カウンセラー 1名 人間ドック健康情報管理指導士 3名 超音波検査士 4名
検診マンモグラフィ認定技師 3名 日本乳がん検診精度管理中央機構認定技師 2名
胃がん検診専門技師 2名 肺がんCT検診認定技師 2名 医療経営士 1名

《業務内容》

健診センターは「利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します」を理念とし、1 日人間ドック・脳ドック・スペシャルドック（人間ドック+脳ドック）、プレミアムドック、認知症予防ドック、生活習慣病予防健診、健康診断及び特殊健康診断、市町との契約による各種がん検診などの健診事業を行っている。

また、企業へ出向いての出張健診も行っている。

《取り組み》

引き続き COVID-19 感染対策を充分に行いながら営業を行った。当日の医師による結果説明や保健師等による対面での保健指導は受診者の希望を尊重しながら、場合によっては別日で対応するなど工夫した。待ち合いスペースに健康情報などの動画を流し、情報発信を工夫した。ご希望が多い胃内視鏡の予約枠を拡大するなど受診者受け入れ拡大にも力を入れ、健康保険組合との新規契約、産業医契約なども行いながら、地域の皆様のニーズに応え、健康をサポートできる施設を目指した。

《実績》

年間収益・・・2022 年度：832,213 千円（2021 年度：820,059 千円、前年比 101.5%）

受診者数・・・2022 年度：49,322 名（2021 年度：48,824 名、前年比 101%）

せいいい訪問看護 ステーション佐倉

所長 竹澤 英恵

《はじめに》

せいいい訪問看護ステーションは、利用者・ご家族の意向を尊重し、病気や障害があっても住み慣れた地域でその人らしい生活が送れることを目標に取り組んでおります。2022年度は COVID-19 に感染した利用者への訪問時の感染対策の徹底を行い実施しました。今後も地域の皆さんが安心安全に過ごすことができるよう職員一丸となり在宅医療・介護サービスの充実を図り、地域に貢献できるよう邁進してまいります。

《目標と実績・評価》

1. 訪問実績の評価

スタッフ数は看護師 5 名、作業療法士 1 名、理学療法士 1 名（2022/9 より）、事務員 1 名にて活動。

実績は下記表参照。

【医療 訪問件数実績】*医療 訪問件数予算 130 件

2022 年 4 月	99	2022 年 8 月	141	2022 年 12 月	132
2022 年 5 月	121	2022 年 9 月	110	2023 年 1 月	137
2022 年 6 月	123	2022 年 10 月	129	2023 年 2 月	119
2022 年 7 月	122	2022 年 11 月	135	2023 年 3 月	174

【介護 訪問件数実績】*介護 訪問件数予算 360 件

2022 年 4 月	324	2022 年 8 月	337	2022 年 12 月	361
2022 年 5 月	308	2022 年 9 月	320	2023 年 1 月	343
2022 年 6 月	329	2022 年 10 月	338	2023 年 2 月	300
2022 年 7 月	309	2022 年 11 月	333	2023 年 3 月	336

2022 年 9 月より予定していた理学療法士 1 名が増員され、医療は 10 月より予算達成、介護も未達ではあるが訪問件数の増加につながりました。また、作業療法士・理学療法士が 1 名ずつの体制となりリハビリの充実を図ることができました。

感染対策の強化・対応の整備を図り COVID-19 感染者への訪問を行いました。ステーション内での感染拡大することなく訪問を行えました。

病院スタッフと地域連携ミーティングを定期的に行いました。今後も地域で生活する利用者・ご家族の望む生活ができるよう院内だけでなく院外とも連携を密にとり療養生活の充実を目指していきます。

2. 会議参加状況・広報活動

臼井・千代田圏地域事業所連絡会、地域別ケア会議参加
千葉県訪問看護ステーション協会印旛・山武地区部会
介護者講習会へ講師として参加

せいれい ケアプランセンター佐倉

所長 金子 綾子

《はじめに》

当事業所は2019年6月に開設され、まもなく4年が経とうとしている。2023年4月より職員を増員し、主任介護支援専門員を含め4人体制で稼働している。これからもそれぞれの介護支援専門員が専門性の高い支援を行い、地域から選ばれ、愛される居宅支援事業所を目指していきたい。

《業務内容》

- ・居宅サービス計画書の作成
- ・介護サービス提供事業所や行政機関との連絡、調整
- ・利用者の生活状況の確認
- ・介護保険の申請代行
- ・支給額限度額の確認と利用者負担額の計算など

《実績》（※2022年4月～2023年3月末までの累計人数）

介護度別担当割合

	2022年	2023年	2023年	2023年	累計								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
支援1	4	5	5	6	5	5	5	6	7	8	8	9	73
支援2	10	11	12	13	15	15	16	16	14	12	15	12	161
介護1	10	12	14	15	15	15	17	18	19	19	18	18	190
介護2	11	11	12	12	12	12	11	11	13	13	12	15	145
介護3	3	5	3	3	4	5	6	6	5	5	7	7	59
介護4	4	4	5	4	3	4	4	4	4	4	2	1	43
介護5	2	2	2	3	3	4	4	4	5	4	3	3	39
実績	44	50	53	56	57	60	63	65	67	65	65	65	710

《これからの取組み》

引き続き、感染予防に配慮しながら、特定事業所としての役割を果たせるよう中重度者や支援困難ケースへの対応、公正中立で質の高いケアマネジメントを実施し、どの介護支援専門員も利用者、ご家族が安心して在宅生活を送れるように柔軟性のある対応を心掛ける。

研究・業績

診療部

【腎臓内科】

『国際学会』

学開場演 会催 名 : 59th ERA-EDTA congress 2022
日 : May19-22,2022
所 : Paris, France
題 : FRAX is a useful tool for predicting all-cause mortality in addition to the risk of fragile fracture in hemodialysis patients. Free comunication session
者 : Takayuki Fujii, Junnya Koshizaka, Nobuaki Yamauchi, Takahiro Matsunaga, Mayu Morimoto, Noriko Terasaki, Hiroaki Tanaka, Satoshi Suzuki

『国内学会』

学開場演 会催 名 : 第 65 回日本腎臓学会総会
日 : 2022 年 6 月 10 日～ 12 日
所 : 兵庫県神戸市
題 : 軽症 IgA 腎症の長期腎予後は組織学的重症度と治療法に依存する
者 : 藤井隆之、鈴木理志、松永宇広、森本真有、越坂純也、山内伸章、寺崎紀子、田中宏明

学開場演 会催 名 : 第 67 回日本透析医学会総会
日 : 2022 年 7 月 1 日～ 3 日
所 : 神奈川県横浜市
題 : FRAX は血液透析患者の骨折リスクのみならず全死亡を予測する
者 : 藤井隆之、越坂純也、山内伸章、松永宇広、森本真有、寺崎紀子、田中宏明、鈴木理志

学開場演 会催 名 : 第 67 回日本透析医学会総会
日 : 2022 年 7 月 1 日～ 3 日
所 : 神奈川県横浜市
題 : 進行胃癌多発肝転移治療中に食思不振を呈し、ニボルマブによる ACTH 欠損症が疑われた透析患者の一例
者 : 越坂純也、藤井隆之、森本真有、松永宇広、山内伸章、寺崎紀子、田中宏明、鈴木理志

学開場演 会催 名 : 第 26 回日本透析アクセス医学会学術大会・総会
日 : 2022 年 10 月 1 日～ 2 日
所 : 愛知県名古屋市
題 : ソアサム症候群に対して VAIVT と手背枝結紮術を一期的に施行した5症例
者 : 寺崎紀子、松永宇広、山内伸章、越坂純也、森本真有、田中宏明、藤井隆之、鈴木理志

学開場演 会催 名 : 第 52 回日本腎臓学会東部学術大会
日 : 2022 年 10 月 22 日～ 23 日
所 : 東京都港区
題 : intoron24 のスプライシング変異を含む常染色体劣性 Alport 症候群の一例
者 : 山内伸章、藤井隆之、岡田絵里、寺崎紀子、田中宏明、今澤俊之、北村博司、野津寛大、鈴木理志

学開場演 会催 名 : 第 682 回日本内科学会関東地方会
日 : 2022 年 11 月 19 日
所 : 東京都千代田区
題 : 片側胸水の鑑別に苦慮した陳旧性心筋梗塞と転移性腫瘍を認めた血液透析患者の一部検例
者 : 菊屋慶一郎、松永宇広、森本真有、山内伸章、越坂純也、寺崎紀子、田中宏明、笹井大督、藤井隆之、鈴木理志

学開場演 会催 名 : 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会
日 : 2022 年 11 月 26 日～ 27 日
所 : 岡山県岡山市
題 : 多彩な合併症がありながら PD で安定した管理ができていたミトコンドリア病の一例
者 : 寺崎紀子、藤井隆之、松永宇広、山内伸章、森本真有、越坂純也、田中宏明、鈴木理志

学開場演 会催 名 : 第 49 回千葉県透析研究会 (座長)
日 : 2022 年 12 月 4 日
所 : 千葉県千葉市
題 : PAD (臨、検)セッション
者 : 藤井隆之

学開場演 会催 名 : 第 49 回千葉県透析研究会
日 : 2022 年 12 月 4 日
所 : 千葉県千葉市
題 : FRAX は血液透析患者の骨折リスクのみならず全死亡を予測する
者 : 藤井隆之、越坂純也、山内伸章、松永宇広、森本真有、寺崎紀子、田中宏明、鈴木理志

学開場演 会催 名 : 第 49 回千葉県透析研究会
日 : 2022 年 12 月 4 日
所 : 千葉県千葉市
題 : 不明熱精査中に突然死した重症大動脈弁狭窄症合併透析患者の一例
者 : 山内伸章、笹井大督、松永宇広、森本真有、越坂純也、寺崎紀子、田中宏明、藤井隆之、鈴木理志

『講義』

講開場演 義催 名 : NST 講義
日 : 2022 年 12 月 1 日
所 : 聖隷佐倉市民病院
題 : CKD と栄養
者 : 藤井隆之

『講演』

講開場講 演催 名 : 第 2 回流山 CKD 対策を考える会
日 : 2022 年 4 月 6 日
所 : 千葉県柏市 (Web)
名 : 千葉県 CKD 重症化予防対策を活用した当院での CKD 診療の取り組み
者 : 藤井隆之

講演	演	会	名	:	佐倉 CKD スキルアップセミナー
開	催		日	:	2022 年 4 月 13 日
場			所	:	Web
講	演		名	:	連携と最新の CKD 治療薬を駆使して腎臓病と対峙する
講	演		者	:	藤井隆之
講演	演	会	名	:	CKD 地域連携講演会
開	催		日	:	2022 年 4 月 21 日
場			所	:	群馬県藤岡市(Web)
講	演		名	:	慢性腎臓病の新たな治療戦略～ SGLT2 阻害薬への期待～
講	演		者	:	藤井隆之
講演	演	会	名	:	第 58 回佐倉薬剤師セミナー
開	催		日	:	2022 年 5 月 11 日
場			所	:	千葉県佐倉市
講	演		名	:	CKD-MBD 管理の update
講	演		者	:	藤井隆之
講演	演	会	名	:	心腎治療 UP Date セミナー
開	催		日	:	2022 年 5 月 12 日
場			所	:	Web
講	演		名	:	慢性腎臓病におけるカリウム管理～ロケルマへの期待～
講	演		者	:	藤井隆之
講演	演	会	名	:	プライマリーケア医としての CKD 医療を考える
開	催		日	:	2022 年 5 月 18 日
場			所	:	千葉県柏市、我孫子市(Web)
講	演		名	:	印旛市郡における CKD 診療連携の現況と課題 ～最新の CKD 診療も含めて～
講	演		者	:	藤井隆之
講演	演	会	名	:	ARNI Web Symposium
開	催		日	:	2022 年 6 月 20 日
場			所	:	千葉県千葉市 (Web)
講	演		名	:	PreHF への治療戦略を検討する
講	演		者	:	藤井隆之
講演	演	会	名	:	第 58 回循環器合同カンファレンス
開	催		日	:	2022 年 7 月 14 日
場			所	:	Web
講	演		名	:	慢性腎臓病の新たな治療戦略
講	演		者	:	藤井隆之
講演	演	会	名	:	SHPT Web フォーラム
開	催		日	:	2022 年 7 月 27 日
場			所	:	Web
講	演		名	:	CKD-MBD 治療のアップデート
講	演		者	:	藤井隆之
講演	演	会	名	:	第 29 回骨粗鬆症を語る会
開	催		日	:	2022 年 9 月 10 日
場			所	:	大阪府大阪市 (Web)
講	演		名	:	CKD 患者(特に透析患者)の骨粗鬆症治療で期待するもの ～腎臓内科も骨粗鬆症治療に取り組んでみました～
講	演		者	:	藤井隆之

講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: : これからの電解質管理を考える会 : 2022年9月29日 : Web : 慢性腎臓病におけるカリウム管理 : 藤井隆之
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: : 第7回成田CKD地域連携懇話会 : 2022年10月7日 : 千葉県成田市 : 慢性腎臓病の新たな治療戦略～SGLT2阻害薬への期待～ : 藤井隆之
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: : 千葉県腎疾患対策Web講演会2022 : 2022年10月27日 : 千葉県千葉市 : 腎臓病の病態、病期に合わせた治療法 : 藤井隆之
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: : 令和4年度千葉県内科医会中央集会 : 2022年11月3日 : 千葉県千葉市 : 当院における多職種介入によるCKD教育入院の実践とその効果 : 藤井隆之
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: : 心臓と腎臓を考える会 : 2022年11月9日 : 千葉県千葉市(Web) : CKDと高カリウム血症を考える : 藤井隆之
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: : Edogawa CKD Forum : 2022年11月10日 : 東京都墨田区 : 「CKD教育入院」、地味に効く : 鈴木理志
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: : 令和4年度慢性腎臓病(CKD)予防講演会 : 2022年11月14日 : 千葉県佐倉市 : 腎臓病を知って守ろう : 藤井隆之
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: : Kowa Web Conference : 2022年11月25日 : Web : CKD患者での脂質管理の実態とペマフィブラート使用例について : 藤井隆之
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: : 印西CKD連携セミナー : 2022年12月12日 : 千葉県成田市(Web) : CKD診療連携の現況と課題～最新のCKD治療への期待を込めて～ : 藤井隆之

講演	催	名	:	第2回 Chiphron
開場		日	:	2022年12月16日
講演		所	:	Web
講演	演	名	:	感染症と腎障害について
	演	者	:	藤井隆之
講演	催	名	:	第65回佐倉市薬剤師セミナー
開場		日	:	2023年2月1日
講演		所	:	千葉県佐倉市
講演	演	名	:	慢性腎臓病診療の薬物療法(薬剤性腎障害も含めて)
	演	者	:	田中宏明
講演	催	名	:	上越CKD治療フォーラム
開場		日	:	2023年2月28日
講演		所	:	新潟県新潟市(Web)
講演	演	名	:	慢性腎臓病の新たな治療連略～SGLT2阻害薬への期待～
	演	者	:	藤井隆之
講演	催	名	:	千葉県CKD診療UPDATEセミナー
開場		日	:	2023年3月8日
講演		所	:	千葉県千葉市(Web)
講演	演	名	:	より良いCKD診療を探る～SGLT2阻害薬への期待～
	演	者	:	藤井隆之

【呼吸器内科】

『講演』

講演	催	名	:	Asthma Experts Symposium
開場		日	:	2022年4月15日
講演		所	:	ウインチェンホテルユーカリ
講演	演	名	:	重症喘息の治療戦略～気道組織への好酸球集積と気道炎症病態を踏まえて～
	演	者	:	山岸一貴
講演	催	名	:	薬剤師のための吸入指導勉強会(四街道市薬剤師会)
開場		日	:	2022年5月24日
講演		所	:	Web
講演	演	名	:	吸入指導と吸入確認-製剤、デバイスごとの特徴を踏まえて-
	演	者	:	山岸一貴
講演	催	名	:	喘息WEB講演会
開場		日	:	2022年5月31日
講演		所	:	Web
講演	演	名	:	気管支喘息治療の第一歩～トリプル療法の意義～
	演	者	:	山岸一貴
講演	催	名	:	Severe Asthma Clinical Forum
開場		日	:	2022年6月14日
講演		所	:	Web
講演	演	名	:	かかりつけ医で診る！喘息の診断/治療と病診連携～Mepolizumabの使い方～
	演	者	:	山岸一貴

講 開 場 講	演 催 演 演	名 日 所 名 者	: : : : :	喘息 WEB 講演会 2022 年 9 月 9 日 Web 気管支喘息治療の第一歩～トリプル療法の意義～ 山岸一貴
講 開 場 講	演 催 演	名 日 所 名 者	: : : : :	感染症治療 Web セミナー 2022 年 9 月 20 日 杏林製薬千葉フロア 呼吸器感染症治療、特に誤嚥性肺炎・肺膿瘍に対するラスビックの有 用性と役割 山岸一貴
講 開 場 講	演 催 演 演	名 日 所 名 者	: : : : :	喘息 WEB 講演会 2022 年 10 月 18 日 Web 気管支喘息治療の第一歩～トリプル療法の意義～ 山岸一貴
講 開 場 講	演 催 演 演	名 日 所 名 者	: : : : :	喘息治療 UPDATE 2022 年 12 月 5 日 Web 病態・吸入手技・アドヒアランスからみた、喘息治療におけるトリプル療 法の意義 山岸一貴

【循環器科】

『講義』

講 開 場 演	義 催 演	名 日 所 題 者	: : : : :	血管と高尿酸血症を考える会 2022 年 7 月 19 日 千葉県佐倉市(Web) 急性冠症候群に対する治療血管内イメージングで示す急性期治療と二 次予防～高尿酸血症も含めて～高尿酸血症治療薬は Vasucular Aging を抑制するのか？ 徳山権一
講 開 場 演 演	義 催 演	名 日 所 題 者	: : : : :	地域連携 WEB セミナー（座長） 2022 年 10 月 18 日 印西市 摂食嚥下センターのチーム医療～聖隷佐倉市民病院での取り組み～ 耳鼻咽喉科部長 津田豪太先生
講 開 場 演 演	義 催 演	名 日 所 題 者	: : : : :	ARNI Web Symposium in Sakura 2023 年 3 月 13 日 千葉県千葉市 エンレスト、どんな人に使ってますか？ 徳山権一(ディスカッションセッション 総合司会)

【緩和医療科】

『論文』

雑誌名 : J Palliat Med.
題名 : A Successful Case of Switching Treatment from Ketamine to Methadone for Complex Neuropathic Pain.
著者 : Murakami S, Asada T, Kubota T, Kawakami H, Kokubun H, Uezono Y.
巻、ページ、年度 : 2022 Apr;25(4):686-689.

雑誌名 : Spine Surg Relat Res.
題名 : Intradural Extramedullary Spinal Tumor Suspected Angiosarcoma Based on Clinical Course and Pathological Findings: A Case Report.
著者 : Iijima Y, Furuya T, Kotani T, Sakuma T, Nakayama K, Sasai D, Murakami S, Maki S, Miyamoto T, Okimatsu S, Kishida S, Muramatsu Y, Sasaki Y, Ueno K, Kajiwara D, Ohtori S, Minami S.
巻、ページ、年度 : 2022 Apr 12;6(5):577-580.

『講義』

講義名 : 緩和ケア研修会
開催日 : 2022年7月30日
会場所 : 東京慈恵会医科大学附属第三病院
演題 : コミュニケーション、がん疼痛事例検討、療養場所の選択と地域連携(グループワーク協力)
演者 : 村上敏史

講義名 : 緩和ケア研修会
開催日 : 2022年11月5日
会場所 : 東京慈恵会医科大学附属第三病院
演題 : コミュニケーション、がん疼痛事例検討、療養場所の選択と地域連携(グループワーク協力)
演者 : 村上敏史

講義名 : 緩和ケア研修会
開催日 : 2022年11月23日
会場所 : 国保直営総合病院君津中央病院
演題 : 全人的苦痛に対する緩和ケア
演者 : 村上敏史

講義名 : 緩和ケア研修会
開催日 : 2022年12月3日
会場所 : 独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院
演題 : e-learning の復習・質問
演者 : 村上敏史

『講演』

講演会名 : 脳神経疾患の地域医療・介護の会 オンラインセミナー
開催日 : 2022年11月24日
会場所 : Web 配信
講演名 : 緩和ケアのイロハ、非がん疾患の緩和ケア
講演者 : 村上敏史

講演会名 : Oncology Supportive Care Seminar in 宮崎
開催日 : 2022年12月16日
会場所 : KITENビル
講演者名 : 緩和ケアについて知っておいてほしいこと
講演者 : 村上敏史

講演会名 : 第12回緩和ケア病棟講習会
開催日 : 2023年3月22日
会場所 : 聖隷佐倉市民病院
講演者名 : 緩和ケアに関するQ&A
講演者 : 村上敏史

『その他』

その他 : 千葉県がん診療連携協議会 緩和医療専門部会委員
日付 : 2021年4月1日～2023年3月31日
氏名 : 村上敏史

その他 : 日本緩和医療学会 専門医症例報告書事前審査委員
氏名 : 村上敏史

その他 : 日本緩和医療学会学会誌 論文査読
氏名 : 村上敏史

その他 : Journal of Palliative Medicine 論文査読
氏名 : 村上敏史

その他 : ANNALS OF PALLIATIVE MEDICINE 論文査読
氏名 : 村上敏史

【外科】

『論文』

雑誌名 : Surg Case Rep
題名 : Transhiatal bilateral thoracic duct ligation for duplicated thoracic duct injury after esophagectomy: a case report
著者 : Komatsuzaki S, Hisakura K, Ogawa K, Akashi Y, Kim J, Moue S, Miyazaki Y, Furuya K, Doi M, Owada Y, Shimomura O, Ohara Y, Takahashi K, Hashimoto S, Enomoto T, Koike N, Oda T.
巻、ページ、年度 : 8, 213, 2022

雑誌名 : 千葉県医師会雑誌
題名 : 千葉県での19年
著者 : 小池直人
巻、ページ、年度 : 75, 37, 2023

雑誌名 : 印旛市郡医師会報
題名 : 12年の変遷と今後の展望
著者 : 小池直人
巻、ページ、年度 : 89, 56, 2023

『国内学会』

- | | | |
|-----------------------|--------|--|
| 学
開
場
演
演 | 会
催 | 名 : 第4回千葉肝胆膵サージカルフォーラム
日 : 2022年5月7日
所 : 千葉県千葉市
題 : 術後再発に対し免疫チェックポイント阻害剤が奏効した MSI-H 肝内胆管癌の1例
者 : 小池直人、大島祐二、武内俊章、白石匡、小松崎修平、久保田亨、有田誠司、笹井大督 |
| 学
開
場
演
演 | 会
催 | 名 : 第34回日本肝胆膵外科学会・学術集会(座長)
日 : 2022年6月11日
所 : 愛媛県松山市
題 : Poster session 45, Miscellaneous 4
者 : Naoto Koike |
| 学
開
場
演
演 | 会
催 | 名 : 第34回日本肝胆膵外科学会・学術集会
日 : 2022年6月12日
所 : 愛媛県松山市
題 : Three cases of intraductal papillary neoplasm of the bile duct (IPNB) in the liver
者 : Naoto Koike, Yuji Ohshima, Masayoshi Saitoh, Daisuke Sasai |
| 学
開
場
演
演 | 会
催 | 名 : 第77回日本大腸肛門病学会学術集会
日 : 2022年10月15日
所 : 千葉県千葉市
題 : 穿孔性虫垂炎の保存加療後に虫垂癌を疑い拡大切除を行ったが、黄色肉芽腫性虫垂炎の診断となった一例
者 : 小松崎修平、小池直人、岩田萌、白石匡、荒澤孝裕、武内俊章、久保田亨、有田誠司、小田竜也 |
| 学
開
場
演
演 | 会
催 | 名 : 第18回がんワクチン療法研究会学術集会
日 : 2022年12月10日
所 : 愛知県名古屋市
題 : 肝細胞癌に対する自家がんワクチン療法の経験(続報)
者 : 小池直人、白石匡、小松崎修平、武内俊章、久保田亨、有田誠司、岩渕康雄 |
| 学
開
場
演
演 | 会
催 | 名 : 第18回がんワクチン療法研究会学術集会(座長)
日 : 2022年12月10日
所 : 愛知県名古屋市
題 : 一般演題
者 : 小池直人、新田雅之 |
| 学
開
場
演
演 | 会
催 | 名 : 第27回千葉内視鏡外科研究会
日 : 2023年2月18日
所 : 千葉県千葉市
題 : PTGBD 施行後の腹腔鏡下胆嚢摘出術で気胸をきたした一例
者 : 久保木昌史、小池直人、小松崎修平、白石匡、久保田亨、有田誠司 |

『その他』

- その
日
場
題
氏
- の
- 他 : Gastric Cancer Web Seminar(座長)
付 : 2022年7月13日
所 : 千葉県佐倉市
名 : 特別講演
名 : 小池直人
- その
日
場
題
氏
- の
- 他 : Cancer Total Care Seminar-Colorectal cancer-
付 : 2022年7月15日
所 : 千葉県千葉市
名 : Opening Remarks
名 : 小池直人
- その
日
場
題
氏
- の
- 他 : 胃がんトータルケア Web Seminar
付 : 2023年1月25日
所 : 千葉県佐倉市
名 : クロージングリマークス
名 : 小池直人
- その
日
場
題
氏
- の
- 他 : 月刊 医療経営士
付 : 2022年7月号
所 : リモートによる取材
名 : 医療経営士が取り組むべき手術室のマネジメント
名 : 有田誠司
- その
日
場
題
氏
- の
- 他 : 月間医療経営士
付 : 2022年9月号 P36-37
所 : 特集連載
名 : 臨床講座部門マネジメント 手術室1
名 : 有田誠司
- その
日
場
題
氏
- の
- 他 : 月間医療経営士
付 : 2022年10月号 P36-37
所 : 特集連載
名 : 臨床講座部門マネジメント 手術室2
名 : 有田誠司
- その
日
場
題
氏
- の
- 他 : 月間医療経営士
付 : 2022年11月号 P36-37
所 : 特集連載
名 : 臨床講座部門マネジメント 手術室3
名 : 有田誠司
- その
日
場
題
氏
- の
- 他 : 月間医療経営士
付 : 2022年12月号 P38-39
所 : 特集連載
名 : 臨床講座部門マネジメント 手術室4
名 : 有田誠司

【乳腺外科】

『国内学会』

- | | | |
|-----------------------|--------|--|
| 学
開
場
演
演 | 会
催 | 名 : 第 30 回日本乳癌学会学術総会
日 : 2022 年 6 月 30 日～7 月 2 日
所 : 神奈川県横浜市
題 : 胸腔に穿破し膿胸を呈した乳癌胸骨転移の一剖検例
者 : 押川美鈴、川島太一、木谷哲、有田誠司、富田歩子、宮内充、
笹井大督 |
| 学
開
場
演
演 | 会
催 | 名 : 第 60 回日本癌治療学会学術集会
日 : 2022 年 10 月 20 日～22 日
所 : 兵庫県神戸市
題 : 学術セミナー 1 がん治療における緩和ケア
者 : 木谷哲 |
| 学
開
場
演
演 | 会
催 | 名 : 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会
日 : 2022 年 11 月 10 日～12 日
所 : 広島県広島市
題 : 乳癌術後照射中のトラスツズマブ エムタンシン(T-DM1)の投与タイミング
についての検討
者 : 木谷哲、川上浩幸、竹山晃史、戸塚大輔、金子貴之、神尾眞由美、
川島太一 |
| 学
開
場
演
演 | 会
催 | 名 : 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会
日 : 2022 年 11 月 10 日～12 日
所 : 広島県広島市
題 : 眼付属器 MALT リンパ腫に対する放射線治療成績
者 : 山野貴史、高橋健夫、早川豊和、惣田梨加奈、齋藤美音、金森信佑、
町田史晴、安居文音、西村敬一郎、上野周一、内海暢子、本戸幹人、
村田修、木谷哲、畑中星吾、新保宗史 |

『講演』

- | | | | |
|-----------------------|------------------|--------|--|
| 講
開
場
講
講 | 演
催
演
演 | 会
催 | 名 : イブランス発売 4 周年記念講演会 First
日 : 2022 年 4 月 27 日
所 : Web
名 : 総合座長
者 : 川島太一、坂本はと恵、有賀智之 |
| 講
開
場
講
講 | 演
催
演
演 | 会
催 | 名 : 乳癌診療のための緩和ケア Web セミナー
日 : 2022 年 7 月 27 日
所 : Web
名 : 乳がん治療期における緩和ケア
者 : 木谷哲 |
| 講
開
場
講
講 | 演
催
演
演 | 会
催 | 名 : Breast Cancer Web Seminar
日 : 2022 年 8 月 4 日
所 : Web
名 : 乳がんの痛みの緩和～放射線治療を上手に使おう～
者 : 木谷哲 |

講 開 場 講	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: Breast Cancer Web Seminar : 2022年8月5日 : Web : オープニングリマークス : 川島太一、黒住献、片山彩香、尾内康英、地曳典恵、岡崎桂
講 開 場 講	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: Oncology Total Care Seminar in Shikoku : 2022年8月19日 : Web : がん治療期の緩和ケア : 木谷哲
講 開 場 講	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: Breast Cancer Supportive Care Seminar : 2022年9月30日 : Web : 乳がん治療期における緩和ケア : 木谷哲
講 開 場 講	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: Oncology Supportive Care Seminar in 宮崎 : 2022年12月16日 : 宮崎県宮崎市 : 上手につなごう がん治療と緩和ケア ～疼痛緩和を中心に～ : 木谷哲
講 開 場 講	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: がん診療と緩和ケア Web Seminar : 2023年1月20日 : Web : がん診療における緩和ケア : 木谷哲
講 開 場 講	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 印旛 BREAST CANCER SEMINAR : 2023年2月1日 : Web : 講演I座長 : 川島太一、飯田信也、地曳典恵、堀口淳、寺田かおり、榊原雅裕
講 開 場 講	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 乳がん疼痛マネジメント Web Meeting : 2023年2月2日 : Web : Opening Remarks : 木谷哲
講 開 場 講	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 第12回緩和ケア病棟講習会 : 2023年3月22日 : Web : 積極的緩和ケアについて : 木谷哲
講 開 場 講	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 乳がん治療 UP TO DATE : 2023年3月29日 : Web : がん治療と緩和ケアの統合 : 木谷哲

【呼吸器外科】

『講演』

講演会名 : 第 62 回佐倉薬剤師セミナー
開催日 : 2022 年 10 月 6 日
場所 : Web
講演名 : 当院における非小細胞肺癌患者の治療～周術期の薬物治療を中心に～
講演者 : 廣橋健太郎

【整形外科】

『論文』

雑誌名 : 東京都予防医学協会年報 2021 年版
題名 : 脊柱側弯症検診の実施成績
著者 : 南昌平
巻、ページ、年度 : 51、33-37、2022

雑誌名 : 千葉県学校保健集団検診報告書
題名 : 脊柱側弯症検診
著者 : 南昌平
巻、ページ、年度 : 令和 2 年度、7-8、2022

雑誌名 : 千葉県スポーツ協会七十五年史
題名 : スポーツ医事・科学研究委員会について
著者 : 南昌平
巻、ページ、年度 : 公益財団法人千葉県スポーツ協会、2022

雑誌名 : J Orthop Sci
題名 : Acute celiac artery compression syndrome with superior mesenteric artery stenosis and aortic stenosis: A rare but life-threatening complication after adult spinal deformity surgery
著者 : Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Sato S, Nakanishi K, Ueda T, Hara T, Nakayama K, Sunami T, Asada T, Akazawa T, Kishida S, Sasaki Y, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S.
巻、ページ、年度 : 28(2):490-494. 2023

雑誌名 : Spine (Phila Pa 1976)
題名 : Large Lumbar Lordosis Is a Risk Factor for Lumbar Spondylolysis in Patients with Adolescent Idiopathic Scoliosis
著者 : Sunami T, Kotani T, Aoki Y, Sakuma T, Nakayama K, Iijima Y, Akazawa T, Minami S, Ohtori S, Yamazaki M.
巻、ページ、年度 : 47(1):76-81. 2022

雑誌名 : Spine Surg Relat Res
題名 : Medical Accidents Related to Ferromagnetic Objects Brought into the MRI Room: Analysis of the National Multicenter Database by Orthopedic Surgeons
著者 : Inaguma K, Kotani T, Kishida S, Sakuma T, Ueno K, Iijima Y, Kajiwara D, Okuyama K, Sakashita K, Okuwaki S, Nakano S, Suzuki N, Nokariya S, Umeda R, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Aoki Y, Ohtori S.
巻、ページ、年度 : 28;7(1):96-102. 2022

- 雑題 誌 名 : J Orthop Sci
 名 : Risk factors for vertebral bridging in residual adolescent idiopathic scoliosis with thoracolumbar/lumbar curves
 著 者 : Sakashita K, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Okuyama K, Akazawa T, Minami S, Ohtori S, Koda M, Yamazaki M.
 巻、ページ、年度 : S0949-2658 (22) 00301-3. 2022
- 雑題 誌 名 : J Orthop Sci
 名 : Prevalence of pleural injury in an extrapleural approach to adolescent idiopathic scoliosis and association of pleural injury with postoperative respiratory function
 著 者 : Sato K, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Asada T, Akazawa T, Minami S, Ohtori S, Koda M, Yamazaki M.
 巻、ページ、年度 : S0949-2658 (22) 00322-0. 2022
- 雑題 誌 名 : J Orthop Sci
 名 : Associated factors and effects of coronal vertebral wedging angle in thoracic adolescent idiopathic scoliosis
 著 者 : Okuwaki S, Kotani T, Sunami T, Sakuma T, Iijima Y, Okuyama K, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S, Yamazaki M.
 巻、ページ、年度 : 16:S0949-2658 (23) 00074-X. 2023
- 雑題 誌 名 : J Orthop Sci
 名 : Analysis of the relationship between spinal alignment and retrocrural space area in adult spinal deformity surgery: Potential risk factors for acute celiac artery compression syndrome
 著 者 : Ohyama S, Kotani T, Takeuchi T, Sunami T, Iijima Y, Okuwaki S, Aoki Y, Sakashita K, Iwata S, Sakuma T, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S.
 巻、ページ、年度 : S0949-2658 (23) 00064-7.2023
- 雑題 誌 名 : World Neurosurg
 名 : Effect of Preoperative Severity and Location of Lumbar Intervertebral Disc Vacuum Phenomenon on Surgical Outcomes After Single-Level Transforaminal Lumbar Interbody Fusion
 著 者 : Ohyama S, Aoki Y, Inoue M, Nakajima T, Sato Y, Sato M, Yoh S, Takahashi H, Nakajima A, Kotani T, Eguchi Y, Orita S, Inage K, Shiga Y, Nakagawa K, Ohtori S.
 巻、ページ、年度 : S1878-8750 (23) 00293-0. 2023
- 雑題 誌 名 : Spine Deform
 名 : Trunk flexibility using a sit-and-reach test after surgery for adolescent idiopathic scoliosis
 著 者 : Nokariya S, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Okumura T, Katogi T, Okuwaki S, Miyagi M, Inoue G, Akazawa T, Shiga Y, Minami S, Ohtori S, Takaso M.
 巻、ページ、年度 : 11 (2):297-303. 2023
- 雑題 誌 名 : Int J Orthop Trauma Nurs
 名 : Comparison of pain and discomfort in supine and lateral positions after surgery for lumbar degenerative disease: A prospective randomized controlled study
 著 者 : Aoki Y, Suzuki M, Takahashi H, Nakajima A, Sonobe M, Kotani T, Nakajima T, Sato Y, Inoue M, Saito J, Norimoto M, Eguchi Y, Orita S, Ohtori S, Nakagawa K.
 巻、ページ、年度 : 47:100959. 2022

- 雑誌名 : J Neurosurg Spine
 題名 : Incidence and causes of instrument-related complications after primary definitive fusion for pediatric spine deformity
 著者 : Demura S, Ohara T, Tauchi R, Takimura K, Watanabe K, Suzuki S, Uno K, Suzuki T, Yanagida H, Yamaguchi T, Kotani T, Nakayama K, Watanabe K, Yokogawa N, Oku N, Tsuchiya H, Yamamoto T, Kawamura I, Taniguchi Y, Takeshita K, Sugawara R, Kikkawa I, Sato T, Fujiwara K, Akazawa T, Murakami H, Kawakami N; Japan Spinal Deformity Institute.
 巻、ページ、年度 : 30;38(2):192-198.2022
- 雑誌名 : 整形外科看護
 題名 : 術前に行う貯血式自己血輸血と術中や術後に行う回収式自己血輸血の利点、気を付けなければならないことってなに？(解説)
 著者 : 小谷俊明
 巻、ページ、年度 : 27 巻 12 号 P1179-1181
- 雑誌名 : Spine Surgery Related Research
 題名 : Intradural Extramedullary Spinal Tumor Suspected Angiosarcoma Based on Clinical Course and Pathological Findings: A Case Report
 著者 : Yasushi Iijima, Takeo Furuya, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma, Keita Nakayama, Daisuke Sasai, Satoshi Murakami, Satoshi Maki, Takuya Miyamoto, Sho Okimatsu, Shunji Kishida, Yuta Muramatsu, Yu Sasaki, Keisuke Ueno, Daisuke Kajiwara, Seiji Ohtori, Shohei Minami
 巻、ページ、年度 : 2022 Apr 12;6(5):577-580.
- 雑誌名 : Journal of Orthopaedic Science
 題名 : Risk factors for celiac artery and superior mesenteric artery stenosis in preoperative lumbar and thoracolumbar spinal surgery patients
 著者 : Yasushi Iijima, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma, Keita Nakayama, Tsutomu Akazawa, Shunji Kishida, Keisuke Ueno, Daisuke Kajiwara, Shuhei Ohyama, Shuhei Iwata, Takahiro Sunami, Kotaro Sakashita, Shun Okuwaki, Yasuhiro Shiga, Shohei Minami, Seiji Ohtori
 巻、ページ、年度 : 2022 Nov 9;S0949-2658(22)00288-3
- 雑誌名 : BMC Musculoskeletal Disorders
 題名 : Imaging and histological evaluation of the long head of the biceps tendon in the presence of different types of rotator cuff tears
 著者 : Daisuke Kajiwara, Nobuyasu Ochiai, Eiko Hashimoto, Naoya Hirose, Koji Akimoto, Daisuke Nojima, Yohei Shimada, Shohei Ise & Seiji Ohtori
 巻、ページ、年度 : 24, Article number: 230 (2023)
- 雑誌名 : 肩関節
 題名 : 難治性肩石灰性腱炎に対する体外衝撃波単独と穿刺併用療法の比較検討
 著者 : 梶原大輔、落合信靖、橋本瑛子、廣澤直也、嶋田洋平、伊勢昇平
 巻、ページ、年度 : 肩関節、第 46 巻第 1 号 ; 146 - 151
- 雑誌名 : Spine Surgery and Related Research
 題名 : Risk factors for cage subsidence in minimally invasive lateral corpectomy for osteoporotic vertebral fractures.
 著者 : Iwata S, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Okuwaki S, Ohyama S, Maki S, Eguchi Y, Orita S, Inage K, Shiga Y, Inoue M, Akazawa T, Minami S, Ohtori S
 巻、ページ、年度 : Vol.7, No.4, 2023

- 雑誌名 : Journal of Orthopaedic Science.
 題名 : Variability in sonographic anterior drawer test measurements of the ankle: Experienced versus beginner examiners.
 著者 : Iwata S, Yamaguchi S, Kimura S, Hattori S, Mikami Y, Kawasaki Y, Shiko Y, Akagi R, Amaha K, Atsuta T, Ikegawa N, Koyama M, Nakagawa R, Omodani T, Ouchi H, Saito M, Takahashi K, Watanabe S, Sasho T, Ohtori S.
 巻、ページ、年度 : S0949-2658 (22) 00365-7, 2023
- 雑誌名 : Journal of Spine Research
 題名 : 異なる学校検診システム地域からの側弯症手術患者の特徴—客観的検査法の有無における比較—
 著者 : 奥脇駿, 小谷俊明, 中山敬太, 佐久間毅, 飯島靖, 赤澤努, 南昌平, 大鳥精司, 山崎正志
 巻、ページ、年度 : 13:1171-1176.2022
- 雑誌名 : 別冊整形外科, 南江堂
 題名 : 化膿性脊椎炎の起菌同定率向上手技 - 術中灌流洗浄液を血液培養ボトルで培養させる工夫 -
 著者 : 奥脇駿, 辰村正紀, 蒲田久典, 江藤文彦, 長島克弥, 船山徹, 山崎正志.
 巻、ページ、年度 : 81: 64-67. 2022
- 雑誌名 : Cureus
 題名 : Usefulness of the Round Endcap Expandable Cage Placed on the Vertebral Ring Apophysis in Anterior Spinal Reconstruction.
 著者 : Okuwaki S, Tatsumura M, Eto F, Funayama T, Yamazaki M.
 巻、ページ、年度 : 14(3): e23586. 2022
- 雑誌名 : Journal of Bone and Mineral Metabolism
 題名 : Risk factors affecting vertebral collapse and kyphotic progression in postmenopausal osteoporotic vertebral fractures.
 著者 : Okuwaki S, Funayama T, Ikumi A, Shibao Y, Miura K, Noguchi H, Takahashi H, Koda M, Tatsumura M, Kawamura H, Yamazaki M.
 巻、ページ、年度 : Mar;40(2):301-307.2022

『国際学会』

- 学会名 : 13th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section
 開催日 : March 9-11, 2023
 開催場所 : Yokohama, Japan
 演題 : Acute high cervical spinal cord injury with Down Syndrome: a pediatric case report
 演者 : Yosuke Ogata, Toru Funayama, Masao Koda, Hiroshi Kamada, Fumihiko Eto, Kousei Miura, Hiroshi Takahashi, Hiroshi Noguchi, Masashi Yamazaki

『国内学会』

- 学会名 : 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会(座長)
 開催日 : 2022年4月21日～23日
 開催場所 : 神奈川県横浜市
 演題 : 口演31 AIS診断
 演者 : 小谷俊明

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会 日 : 2022年4月21日～23日 所 : 神奈川県横浜市 題 : Lenke type 2思春期特発性側弯症における 者 : 佐久間毅、小谷俊明、赤澤努、飯島靖、坂下孝太郎、大鳥精司、南昌平
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会 日 : 2022年4月21日～23日 所 : 神奈川県横浜市 題 : 腰椎後方椎体間固定術における罹患椎体間高の変化が隣接椎間に与える 影響 者 : 小方陽介、相野谷武士、箱岩篤生、山崎正志
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会 日 : 2022年4月21日～23日 所 : 神奈川県横浜市 題 : 異なる学校検診システム地域からの側弯症手術患者の特徴—客観的検査 法の有無における比較— 者 : 奥脇駿、小谷俊明、中山敬太、佐久間毅、飯島靖、奥山晃平、赤澤努、南 昌平、大鳥精司、山崎正志
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会 日 : 2022年4月21日～23日 所 : 神奈川県横浜市 題 : 頸椎後縦靭帯骨化症を有する高齢者頸椎・頸髄損傷の特徴と現況—JASA 多施設共同研究— 者 : 奥脇駿、船山徹、加藤仁志、安藤圭、渡辺航太、古矢丈雄、中嶋秀明、 長谷川智彦、寺島嘉紀、鈴木秀典、池上章太、外村仁、橋本功、川口謙一、 鈴木伸幸、山崎正志
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会 日 : 2022年4月21日～23日 所 : 神奈川県横浜市 題 : 骨粗鬆症性椎体骨折の受傷後の椎体圧潰および局所後弯の進行に影響 する因子の検討 者 : 奥脇駿、船山徹、柴尾洋介、辰村正紀、長島克弥、野口裕史、三浦紘世、 高橋宏、國府田正雄、山崎正志
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会 日 : 2022年4月21日～23日 所 : 神奈川県横浜市 題 : 思春期特発性側弯症の椎体数のvariationと肋骨形態の関係性 者 : 坂下孝太郎
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会 日 : 2022年4月21日～23日 所 : 神奈川県横浜市 題 : MRI T2 mappingを用いた成人脊柱変形患者の体幹筋評価 者 : 岩田秀平、江口和、高岡宏光、折田純久、稲毛一秀、志賀康浩、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第95回日本整形外科学会学術総会 日 : 2022年5月19日～22日 所 : 兵庫県神戸市 題 : 側弯症での画像活用と将来の役割 者 : 小谷俊明、赤澤努、江口和、折田純久、牧聡、佐久間毅、飯島靖、南昌平、 大鳥精司

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第95回日本整形外科学会学術総会 日 : 2022年5月19日～22日 所 : 兵庫県神戸市 題 : The efficacy of intraoperative tranexamic acid administration and simultaneous exposure in double and triple curve adolescent idiopathic scoliosis surgery 者 : Yasushi Iijima, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma, Tsutomu Akazawa, Shohei Minami, Seiji Ohtori
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第95回日本整形外科学会学術総会 日 : 2022年5月19日～22日 所 : 兵庫県神戸市 題 : 肩石灰性腱炎に対する体外衝撃波単独と穿刺併用療法の比較検討 者 : 梶原大輔、落合信靖、橋本瑛子、廣澤直也、嶋田洋平、伊勢昇平
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第95回日本整形外科学会学術総会 日 : 2022年5月19日～22日 所 : 兵庫県神戸市 題 : 骨粗鬆症性椎体骨折の受傷後の椎体圧潰および局所後弯の進行に影響する因子の検討 者 : 奥脇駿、船山徹、柴尾洋介、辰村正紀、井汲彰、長島克弥、野口裕史、三浦紘世、高橋宏、國府田正雄、山崎正志
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第95回日本整形外科学会学術総会 日 : 2022年5月19日～22日 所 : 兵庫県神戸市 題 : Risk factors for vertebral bridging in residual adolescent idiopathic scoliosis with thoracolumbar/lumbar curves 者 : 坂下孝太郎
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第95回日本整形外科学会学術総会 日 : 2022年5月19日～22日 所 : 兵庫県神戸市 題 : MRI T2 mappingを用いた成人脊柱変形患者の体幹筋評価 者 : 岩田秀平、江口和、高岡宏光、折田純久、稲毛一秀、志賀康浩、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第95回日本整形外科学会学術総会 日 : 2022年5月19日～22日 所 : 兵庫県神戸市 題 : 超音波下足関節前方引き出しテストにおける検者の経験の影響 者 : 岩田秀平、山口智志、木村青児、服部惣一、三上行雄、戸口郁、赤木龍一郎、佐粧孝久、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名 : JOSKAS-JOSSM2022 日 : 2022年6月16日～18日 所 : 北海道札幌市 題 : 超音波下足関節前方引き出しテストにおける検者の経験の影響 者 : 岩田秀平、山口智志、木村青児、服部惣一、赤木龍一郎、佐粧孝久、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第33回日本整形外科超音波学会 日 : 2022年7月23日～24日 所 : 広島県広島市 題 : 超音波下足関節前方引き出しテストにおける検者の経験の影響 者 : 岩田秀平、山口智志、木村青児、服部惣一、三上行雄、佐粧孝久、大鳥精司

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第24回日本骨粗鬆症学会 日 : 2022年9月2日～4日 所 : 大阪府大阪市 題 : 骨粗鬆症性椎体骨折に対する前後合併椎体置換術のケージ沈下のリスク解析 者 : 小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、奥脇駿、岸田俊二、加藤木丈英、南昌平、稲毛一秀、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第29回日本脊椎脊髄神経手術手技学会 日 : 2022年9月2日～3日 所 : 大分県別府市 題 : 頰椎サジタルアライメントが頰椎前方除圧固定術の術後成績に与える影響 者 : 岩田秀平、池田修、北川恭太、南徳彦、森永達夫、牧聡、古矢丈雄、折田純久、稲毛一秀、志賀康浩、江口和、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第49回日本肩関節学会 日 : 2022年10月7日～8日 所 : 神奈川県横浜市 題 : 鏡視下腱板修復術におけるエピネフリンとトラネキサム酸の有効性 者 : 梶原大輔、落合信靖、橋本瑛子
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第49回日本肩関節学会 日 : 2022年10月7日～8日 所 : 神奈川県横浜市 題 : パーキンソン病患者に対する反転型人工肩関節全置換術の臨床成績 者 : 森安理紗
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第49回日本股関節学会 日 : 2022年10月27日～28日 所 : 山形県山形市 題 : 包括的治療を目的とした次世代型大腿骨近位部骨折マネージメント 者 : 岸田俊二、鈴木里奈、北田由佳、宮崎美奈、久保田朱音、高橋日奈子、小野加代子、須藤洋子、加藤和美
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第56回日本側彎症学会学術集会 日 : 2022年11月4日～5日 所 : 千葉県浦安市 題 : 検診の実態と課題、将来に向けた提言一側弯症基幹病院の視点から一 者 : 小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第56回日本側彎症学会学術集会 日 : 2022年11月4日～5日 所 : 千葉県浦安市 題 : Risk factors and incidence of rod breakage at the lumbosacral junction in adult spinal deformity surgery 者 : Tsuyoshi Sakuma, Toshiaki Kotani, Yasushi Iijima, Shun Okuwaki, Shuhei Oyama, Shuhei Iwata, Tsutomu Akazawa, Seiji Ohtori, Shohei Minami1)
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第56回日本側彎症学会学術集会 日 : 2022年11月4日～5日 所 : 千葉県浦安市 題 : 成人脊柱変形手術における同種血輸血に関するリスクファクターの検討 者 : 飯島靖、小谷俊明、佐久間毅、赤澤努、南昌平、大鳥精司

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第56回日本側彎症学会学術集会 日 : 2022年11月4日～5日 所 : 千葉県浦安市 題 : 逆三角関数 \arctan による回旋計測を用いた術後頂椎rotationの計測 者 : 奥脇駿、小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、大山秀平、岩田秀平、赤澤努、南昌平、大鳥精司、山崎正志
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第56回日本側彎症学会学術集会 日 : 2022年11月4日～5日 所 : 千葉県浦安市 題 : 思春期特発性側弯症に合併する腰椎分離症は上位腰椎レベルに多い～多施設共同研究による46例の解析～ 者 : 角南貴大、小谷俊明、谷口優樹、菅原亮、竹下克志、出村諭、山元拓哉、佐久間毅、飯島靖、赤澤努、南昌平、大鳥精司、山崎正志
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第56回日本側彎症学会学術集会 日 : 2022年11月4日～5日 所 : 千葉県浦安市 題 : 前後合併矯正固定術を施行した成人脊柱変形患者で術後に正中弓状靱帯と腹腔動脈起始部間の距離は変化するか 者 : 大山秀平、小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、奥脇駿、岩田秀平、赤澤努、南昌平、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第56回日本側彎症学会学術集会 日 : 2022年11月4日～5日 所 : 千葉県浦安市 題 : 日本側彎症学会患者向けサイト「側弯症TOWN」の閲覧者の解析 者 : 岩田秀平、小谷俊明、平野徹、佐久間毅、飯島靖、奥脇駿、小方陽介、大山秀平、赤澤努、稲毛一秀、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会 日 : 2022年11月12日～13日 所 : 北海道札幌市 題 : 腰椎分離症偽関節症例におけるsmiley face rod法の治療成績 者 : 奥脇駿、辰村正紀、蒲田久典、澤地由介、生澤俊輔、浅井玲央、照屋翔太郎、芋生祥之、塚越祐太、万本健生、平野篤、山崎正志
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第31回日本脊椎インストゥルメンテーション学会学術集会 日 : 2022年11月25日～26日 所 : 大阪府大阪市 題 : 成人脊柱変形手術における同種血輸血に関するリスクファクターの検討 者 : 飯島靖、小谷俊明、佐久間毅、赤澤努、南昌平、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第31回日本脊椎インストゥルメンテーション学会学術集会 日 : 2022年11月25日～26日 所 : 大阪府大阪市 題 : 腰椎分離症偽関節症例におけるsmiley face rod法の治療成績 -術前分離部間隙に着目した比較- 者 : 奥脇駿、辰村正紀、蒲田久典、江藤文彦、長島克弥、竹内陽介、船山徹、山崎正志

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第31回日本脊椎インストゥルメンテーション学会学術集会 日 : 2022年11月25日～26日 所 : 大阪府大阪市 題 : 全脊椎2方向レントゲン画像を用いた術後頂椎rotationの計測 -逆三角関数arctanを使った定量評価 者 : 奥脇駿、小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、大山秀平、岩田秀平、赤澤努、南昌平、大鳥精司、山崎正志
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第31回日本脊椎インストゥルメンテーション学会学術集会 日 : 2022年11月25日～26日 所 : 大阪府大阪市 題 : 前後合併矯正固定術を施行した成人脊柱変形患者における正中弓状靭帯と腹腔動脈起始部の高位解析 者 : 大山秀平、小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、奥脇駿、岩田秀平、赤澤努、南昌平、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第53回人工関節学会 日 : 2023年2月17日～18日 所 : 神奈川県横浜市 題 : 大腿骨近位部骨折人工骨頭置換術の手術待機日数 者 : 岸田俊二、上野啓介、梶原大輔
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第14回千葉県脳卒中等連携の会 日 : 2023年2月19日 所 : Web 題 : 骨粗鬆症に対する病診多職種連携～リエゾンサービスの活用 者 : 小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第10回日本脆弱性骨折ネットワーク 日 : 2023年3月3日～4日 所 : 愛知県名古屋市 題 : 包括的治療を目的とした大腿骨近位部骨折マネジメント 者 : 岸田俊二、近藤奈々、石井まゆ美、清水嶋里美、川口夏季、加藤木丈英、宮崎木の実、小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第13回日本成人脊柱変形学会 日 : 2023年3月18日 所 : 大阪府豊中市 題 : 成人脊柱変形手術前後における腹腔動脈および上腸間膜動脈狭窄の変化に関する検討 者 : 飯島靖、小谷俊明、佐久間毅、赤澤努、大山秀平、岩田秀平、南昌平、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第13回日本成人脊柱変形学会 日 : 2023年3月18日 所 : 大阪府大阪市 題 : 成人脊柱変形における側方経路椎体間固定術の体位固定角度の検討～3DCTを使った解析～ 者 : 小方陽介、小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、大山秀平、岩田秀平、赤澤努、南昌平、大鳥精司、山崎正志

学 会 名 : 第13回日本成人脊柱変形学会
 開 催 日 : 2023年3月18日
 場 所 : 大阪府大阪市
 演 題 : 成人脊柱変形患者における前後合併矯正固定術前後の正中弓状靭帯と
 腹腔動脈起始部の高位変化
 演 者 : 大山秀平、小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、奥脇駿、小方陽介、岩田秀平、
 赤澤努、南昌平、大鳥精司

学 会 名 : 第13回日本成人脊柱変形学会
 開 催 日 : 2023年3月18日
 場 所 : 大阪府大阪市
 演 題 : AIS遺残症例における椎間関節癒合のリスクファクター
 演 者 : 岩田秀平、小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、小方陽介、大山秀平、赤澤努、
 大鳥精司

『講義』

講 義 名 : 千葉大学医学部ユニット講義
 開 催 日 : 2022年12月22日
 場 所 : 千葉大学医学部
 演 題 : 側弯症について
 演 者 : 小谷俊明

『講演』

講 演 会 名 : SMAP LANDMARK SEMINAR 01
 開 催 日 : 2022年4月29日
 場 所 : Web
 講 演 名 : ストレスなくストレスをかける方法(足エコー)
 講 演 者 : 岩田秀平

講 演 会 名 : 第5回会津骨粗鬆症連携フォーラム
 開 催 日 : 2022年5月10日
 場 所 : 福島県会津若松市
 講 演 名 : 骨粗鬆症治療を通じた病診多職種連携とその反省点
 講 演 者 : 小谷俊明

講 演 会 名 : 第95回日本整形外科学会学術総会 教育研修講演
 開 催 日 : 2022年5月19日
 場 所 : 兵庫県神戸市
 講 演 名 : 骨粗鬆症性脆弱性骨折の二次骨折予防における病診連携の役割 ―急性
 期病院を中心とした骨粗鬆症における地域医療連携の現状と未来―
 講 演 者 : 小谷俊明

講 演 会 名 : 第16回佐倉神経精神セミナー
 開 催 日 : 2022年8月19日
 場 所 : 千葉県佐倉市 Web
 講 演 名 : こどもとおとなの側弯症の現状とその対策
 講 演 者 : 小谷俊明

講 演 会 名 : 南勢エリア二次骨折予防連携WEBセミナー
 開 催 日 : 2022年9月8日
 場 所 : 三重県伊勢市 Web
 講 演 名 : 骨粗鬆症に対する地域連携と院内連携～リエゾンサービスの活用法～
 講 演 者 : 小谷俊明

講演	催	名	:	令和4年度千葉県養護教諭全体研修会
開場		日	:	2022年9月9日
講演		所	:	千葉県千葉市 Web
講演	演	名	:	脊柱側弯症について
	演	者	:	小谷俊明
講演	催	名	:	第2回 Start Up Seminar
開場		日	:	2022年9月11日
講演		所	:	ユニカミノルタ東京
講演	演	名	:	足関節の超音波診療入門
	演	者	:	岩田秀平
講演	催	名	:	千葉県運動器エコーセミナー
開場		日	:	2022年9月27日
講演		所	:	Web
講演	演	名	:	安全で有効な頸椎神経根ブロック
	演	者	:	岩田秀平
講演	催	名	:	脊柱側弯症講演会
開場		日	:	2022年10月15日
講演		所	:	千葉県千葉市
講演	演	名	:	脊柱側弯症について
	演	者	:	小谷俊明
講演	催	名	:	世界骨粗鬆症day特別企画 骨粗鬆症week in CHIBA
開場		日	:	2022年10月17日
講演		所	:	Web
講演	演	名	:	骨粗鬆症とはどんな病気？～みなさんのご家族ががんばっていること～
	演	者	:	小谷俊明
講演	催	名	:	浜松FLS地域連携講演会
開場		日	:	2022年10月28日
講演		所	:	Web
講演	演	名	:	骨粗鬆症に対する病診連携と多職種連携～リエゾンサービスの活用～
	演	者	:	小谷俊明
講演	催	名	:	第56回日本側弯症学会学術集会ランチョンセミナー1
開場		日	:	2022年11月4日
講演		所	:	千葉県浦安市
講演	演	名	:	側弯症手術療法の変遷
	演	者	:	南昌平
講演	催	名	:	第56回日本側弯症学会学術集会モーニングセミナー
開場		日	:	2022年11月5日
講演		所	:	千葉県浦安市
講演	演	名	:	側弯症手術における合併症を防ぐための工夫～いつ、どのように手術すべきか？
講演	演	者	:	小谷俊明
講演	催	名	:	第17回千葉・筑波脊椎手術手技講習会
開場		日	:	2022年11月12日
講演		所	:	千葉県千葉市
講演	演	名	:	成人脊柱変形手術に対する手術戦略～内臓血行障害を起こさないために知っておきたいこと～
講演	演	者	:	小谷俊明

講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 第13回SMAP Seminar : 2022年11月20日 : Web : 13th SMAP Tweet Lecture : 岩田秀平
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 第11回関東地区小児整形外科ベーシックコース講習会 : 2022年11月26日 : Web : 外来での側弯症診療のポイント : 小谷俊明
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 第2回 Start Up Seminar : 2023年1月29日 : コニカミノルタ東京 : 足関節の超音波診療入門 : 岩田秀平
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 上田地区骨粗鬆症治療連携講演会 : 2023年2月8日 : 長野県上田市 : 骨粗鬆症に対する病診連携と多職種連携～リエゾンサービスの活用～ : 小谷俊明
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 第151回聖マリア病院地域医療支援講演会 : 2023年2月9日 : 福岡県久留米市 Web : BKPと骨粗鬆症治療から始めた地域多職種連携～リエゾンサービスチームの活用～ : 小谷俊明
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 第14回SMAP Seminar : 2023年2月19日 : Web : 腰痛診療フローチャート : 岩田秀平
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 第66回佐倉薬剤師セミナー : 2023年3月1日 : 千葉県佐倉市 Web : 骨粗鬆症に対する地域連携と多職種連携～薬剤師介入の重要性 : 小谷俊明
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 茨城県運動器エコーセミナー : 2023年3月4日 : つくば国際会議場 : 足関節捻挫エコー、エコー下頸椎神経根ブロック : 岩田秀平
講演 開場 講演	演 催 演	会 名 日 所 名 者	: 千葉県運動器エコーセミナー : 2023年3月5日 : ホテルグリーンタワー幕張 : エコーを用いた足関節捻挫診療 : 岩田秀平

『その他』

その他 : フルカラーでやさしくわかる！腰痛の理学療法
日付 : 2022年8月8日
題名 : 骨粗鬆症(椎体骨折を含む)
氏名 : 小谷俊明

【小児科】

『論文』

雑誌名 : 小児科臨床
題名 : 反復性肛門周囲膿瘍を契機に発見された慢性良性好中球減少症の臨床像
著者 : 森一越、藤巻元、吉田麻里奈、鈴木繁、川村研
巻、ページ、年度 : 75巻5号、861-865、2022

『国内学会』

学会名 : 第224回日本小児科学会千葉地方会(座長)
開催日 : 2023年2月19日
会場所 : 千葉県千葉市
講演者 : 川村研

『講演』

講演会名 : 学校検尿結果説明会
開催日 : 2022年11月17日
会場所 : 成田市役所大会議室
講演名 : こどもの検尿の見方
講演者 : 川村研

講演会名 : 防災についての講演会
開催日 : 2023年2月28日
会場所 : 聖隷佐倉市民病院
講演名 : 災害医療と防災設備 東日本大震災の教訓
講演者 : 鈴木繁

『その他』

その他 : さくら通信
日付 : 2022年7月号
題名 : 切っても切れない・・・アトピー性皮膚炎と食物アレルギーの関係
氏名 : 鈴木繁

【泌尿器科】

『学会』

- 学 会 名 : 第 2 回日本泌尿器科学会 千葉地方会 学術集会
開 催 日 : 2022 年 11 月 19 日
場 所 : 千葉県千葉市
演 題 : 尿管結石嵌頓による膿腎症・腸腰筋を介して大腿部まで及ぶ膿瘍を、
整形外科との協力により治療した一例
演 者 : 鈴木悠太、稲原昌彦、石橋見季、岸田俊二、五十嵐辰男
- 学 会 名 : 日本性感染症学会第 35 回学術大会
開 催 日 : 2022 年 12 月 3 日
場 所 : 福岡県北九州市
演 題 : 千葉県における性感染症発生の地域的特性
演 者 : 五十嵐辰男
- 学 会 名 : 日本性感染症学会第 35 回学術大会
開 催 日 : 2022 年 12 月 3 日
場 所 : 福岡県北九州市
演 題 : 千葉県における性感染症の動向 COVID-19 の流行で何が変わったか
演 者 : 飯島正太、五十嵐辰男

『講義』

- 講 義 名 : 令和 3 年度 母体保護法指定医師研修会
開 催 日 : 2022 年 2 月 27 日
場 所 : Web 配信
演 題 : 千葉県性感染症全数調査報告(2006～2020年)
演 者 : 五十嵐辰男

【耳鼻咽喉科】

『論文』

- 雑 誌 名 : 8020 (はち・まる・にい・まる)
題 名 : 経管栄養を知っていますか 十分な栄養を得られるの？
著 者 : 津田豪太
巻、ページ、年度 : 21 号 Page52-56 (2022.02)
- 雑 誌 名 : Medical Practice
題 名 : 嚥下障害に対する対応や最新の治療 嚥下機能改善手術
著 者 : 津田豪太
巻、ページ、年度 : 39 巻 7 号 Page1059-1062 (2022.07)
- 雑 誌 名 : 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報
題 名 : 嚥下障害への対応 評価と手術
著 者 : 津田豪太
巻、ページ、年度 : 125 巻 8 号 Page1309-1310 (2022.08)

雑誌名 : ENTONI
題名 : 嚥下障害をチームで診る
著者 : 津田豪太
巻、ページ、年度 : 280号 Page79-83 (2023.02)

『国内学会』

学会名 : 第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会
開催日 : 2022年5月25日～28日
会場 : 兵庫県神戸市
演題 : 嚥下臨床を耳鼻咽喉科医に広めるために
演者 : 津田豪太、高島寿美恵、仲宗根和究

学会名 : 第30回千葉NSTネットワーク
開催日 : 2022年5月28日
会場 : 千葉県千葉市
演題 : 嚥下治療・栄養療法を耳鼻咽喉科医に広めるために
演者 : 津田豪太、高島寿美恵、仲宗根和究、中村貴子、宮森陽子、清宮悠人、後藤華奈、五十嵐麻美、戸巻祥枝、大木麻理子、松田裕美、富田歩子、馬目美由紀、青木佐紀子、木下径

学会名 : 第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会
開催日 : 2022年5月31日～6月1日
会場 : 神奈川県横浜市
演題 : 経口摂取を目指したVE・VFによる嚥下機能評価の有効性
演者 : 津田豪太、宮森陽子、加藤純加、後藤華奈、五十嵐麻美、戸巻祥枝、大木麻理子、松田裕美、富田歩子、青木佐紀子、木下径

学会名 : 第33回日本嚥下障害臨床研究会
開催日 : 2022年7月2日～3日
会場 : 北海道札幌市
演題 : 嚥下機能改善手術失敗例の検討(3回目)
演者 : 津田豪太、高島寿美恵、仲宗根和究、清宮悠人、後藤華奈、オモレゲ尚子、五十嵐麻美、玉置美和子、宮森陽子、石野智子、中村貴子

学会名 : 第100回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会千葉県地方部会
開催日 : 2022年7月17日
会場 : 千葉県千葉市
演題 : 在宅での気管内吸引の現状
演者 : 津田豪太、高島寿美恵、仲宗根和究

学会名 : 第18回日本神経摂食嚥下・栄養学会学術集会東京大会
開催日 : 2022年9月3日
会場 : 東京都府中市
演題 : 誤嚥防止手術症例にみる医療連携
演者 : 津田豪太、高島寿美恵、仲宗根和究

学会名 : 第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
開催日 : 2022年9月23日～24日
会場 : 千葉県千葉市
演題 : 術前から始まる周術期アプローチ～多角的なチーム対応～
演者 : 津田豪太、高島寿美恵、仲宗根和究、清宮悠人、オモレゲ尚子、川上里奈、五十嵐麻美、玉置美和子、石野智子

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 28 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 日 : 2022 年 9 月 23 日～ 24 日 所 : 千葉県千葉市 題 : 摂食嚥下センターによる集学的対応 者 : 津田豪太、高島寿美恵、仲宗根和究、清宮悠人、オモレゲ尚子、川上里奈、五十嵐麻美、玉置美和子、石野智子
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 73 回日本気管食道科学会 日 : 2022 年 11 月 3 日～ 4 日 所 : 沖縄県宜野湾市 題 : 嚥下検査入院症例の検討 者 : 津田豪太、高島寿美恵、仲宗根和究
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 73 回日本気管食道科学会 日 : 2022 年 11 月 3 日～ 4 日 所 : 沖縄県宜野湾市 題 : 咽頭弁形成術を行った眼咽頭型筋ジストロフィーの一例 者 : 仲宗根和究、高島寿美恵、津田豪太
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 9 回日本臨床栄養代謝学会関越支部会 日 : 2022 年 12 月 18 日 所 : Web 題 : 当摂食嚥下センターの活動 者 : 津田豪太、高島寿美恵、仲宗根和究、清宮悠人、オモレゲ尚子、五十嵐麻美、玉置美和子、中村貴子、金崎葵、石野智子、宮森陽子
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 101 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会千葉県地方部会 日 : 2023 年 2 月 5 日 所 : 千葉県千葉市 題 : 嚥下チーム医療継続の難しさ ～スタッフと診療報酬と～ 者 : 津田豪太、仲宗根和究
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 33 回日本気管食道科学会認定気管食道科専門医大会 パネルディスカッション 1 高齢者の食を支える 日 : 2023 年 2 月 18 日～ 19 日 所 : 岡山県倉敷市 題 : 高齢者嚥下障害に対する手術のポイント 者 : 津田豪太、仲宗根和究、高島寿美恵
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 46 回日本嚥下医学会 日 : 2023 年 3 月 3 日～ 4 日 所 : 愛知県名古屋市 題 : 眼咽頭型筋ジストロフィーの嚥下障害に咽頭弁形成術を行った症例と咽頭弁形成術＋輪状咽頭筋切断術を行った症例の術後早期経過 者 : 仲宗根和究、高島寿美恵、津田豪太
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 35 回日本喉頭科学会総会学術講演会 日 : 2023 年 3 月 9 日～ 10 日 所 : 京都府京都市 題 : 術後一過性の嚥下障害増悪を認めた Forestier 病の一例(口頭) 者 : 仲宗根和究、高島寿美恵、津田豪太

『講義』

講 開 場 演 演	義 催	名 : 第 19 回 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会嚥下障害講習会 日 : 2022 年 4 月 10 日 所 : Web 題 : 嚥下障害に対する栄養管理と気道管理 者 : 津田豪太
講 開 場 演 演	義 催	名 : 地域連携 Web セミナー 日 : 2022 年 10 月 18 日 所 : Web 題 : 摂食嚥下センターのチーム医療 ～聖隷佐倉市民病院での取り組み～ 者 : 津田豪太、高島寿美恵、仲宗根和究、清宮悠人、オモレゲ尚子、川上里奈、五十嵐麻美、玉置美和子、石野智子
講 開 場 演 演	義 催	名 : 国際医療福祉大学 摂食嚥下障害 I 日 : 2022 年 11 月 15 日 所 : 国際医療福祉大学 題 : 嚥下障害の評価診断 者 : 津田豪太
講 開 場 演 演	義 催	名 : 国際医療福祉大学 摂食嚥下障害 II 日 : 2022 年 12 月 12 日 所 : 国際医療福祉大学 題 : 重度嚥下障害への治療 者 : 津田豪太

『講演』

講 開 場 講 講	演 催 演	名 : 八千代市医師会学術講演会 日 : 2022 年 4 月 19 日 所 : 千葉県八千代市 名 : 嚥下障害治療での経口摂取に向けた栄養治療 者 : 津田豪太
講 開 場 講	演 催 演	名 : 評価医育成のための摂食嚥下研修会 日 : 2022 年 5 月 29 日 所 : 東京都文京区 名 : 摂食嚥下障害への栄養管理について - 代替栄養法の適応と管理、気道管理の要点 - 者 : 津田豪太
講 開 場 講 講	演 催 演	名 : 兵庫県耳鼻咽喉科医会 第 229 回臨床懇話会 日 : 2022 年 10 月 16 日 所 : 兵庫県神戸市 名 : クリニックで始める嚥下障害の診断と治療 者 : 津田豪太
講 開 場 講 講	演 催 演	名 : 第 3 回くちを大きく考えるシンポジウム 日 : 2022 年 10 月 23 日 所 : 東京都江東区 名 : 摂食嚥下について 者 : 津田豪太
講 開 場 講 講	演 催 演	名 : 日本歯科医師会摂食嚥下研修会 日 : 2023 年 3 月 12 日 所 : 東京都新宿区 名 : 摂食嚥下障害への栄養管理について - 代替栄養法の適応と管理、気道管理の要点 - 者 : 津田豪太

看護部

『論文』

雑誌名 : 看護技術
題名 : 高齢腎不全患者の治療選択に寄り添う看護 : 透析から CKM まで
著者 : 内田明子
巻、ページ、年度 : VOL.68 No.11、P8-17、2022

雑誌名 : 高齢腎不全患者のための保存的腎臓療法
題名 : 第6章多職種連携によるCKM 3看護師の役割
著者 : 内田明子
巻、ページ、年度 : P201-207、2022

雑誌名 : 看護教育
題名 : 特集 人生 100 年時代を見すえた看護師の養成慢性疾患治療とともに生きる人の望む暮らしの支援
著者 : 内田明子
巻、ページ、年度 : Vol.64 No.1、2023

雑誌名 : 日本運動器看護学会誌
題名 : 病院の未来・運動器の未来
著者 : 内田明子
巻、ページ、年度 : Vol.18、2023

『国内学会』

学会名 : 第 12 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
開催日 : 2022 年 3 月 26 日～27 日
会場 : 岡山県岡山市
演題 : 包括的腎臓リハビリテーションにおける医療連携、職種連携
演者 : 内田明子

学会名 : 第 31 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
開催日 : 2022 年 5 月 20 日～21 日
会場 : Web
演題 : PCAPS を用いた褥瘡管理
演者 : 高野弘栄

学会名 : 第 22 回日本運動器看護学会学術集会
開催日 : 2022 年 6 月 12 日
会場 : Web
演題 : 病院の未来・運動器看護の未来
演者 : 内田明子

学会名 : 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会
開催日 : 2022 年 7 月 1 日～3 日
会場 : 神奈川県横浜市
演題 : 日本腎代替療法医療専門職推進協会への期待
演者 : 内田明子

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会 日 : 2022 年 7 月 1 日～ 3 日 所 : 神奈川県横浜市 題 : よくわかるシリーズ 療法選択外来の実際 者 : 内田明子
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 20 回日本高齢者腎不全研究会 日 : 2022 年 7 月 30 日～ 31 日 所 : 東京都新宿区 題 : 高齢腎不全患者の今後の診療方針 者 : 内田明子、倉賀野隆裕
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 13 回せいわい看護学会学術集会 日 : 2022 年 9 月 10 日 所 : 静岡県浜松市 題 : A 病棟における退院支援の現状 一退院支援介入事例の要因分析を通して一 者 : 小湊万以子
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 27 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 日 : 2022 年 9 月 17 日～ 18 日 所 : 大阪府大阪市 題 : 「インスリン注射を打つことは“生きている証”なんだ」 AWARD (会長賞) 者 : 高橋弥生
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 25 回日本腎不全看護学会 日 : 2022 年 10 月 15 日～ 16 日 所 : 愛知県名古屋市 題 : CKD 看護における腎臓病療養指導士の役割 ～看看連携～ 者 : 内田明子
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 58 回日本移植学会 日 : 2022 年 10 月 15 日 所 : 愛知県名古屋市 題 : 腎代替療法専門指導士への期待 ～看護の立場から～ 者 : 内田明子
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 49 回日本股関節学会学術集会 日 : 2022 年 10 月 28 日～ 29 日 所 : 山形県山形市 題 : 人工股関節置換術後の睡眠状況調査 者 : 鈴木里奈、久保田朱音、須藤洋子、小野加代子、加藤和美、岸田俊二
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 15 回日本 CKD チーム医療研究会 日 : 2022 年 10 月 29 日 所 : Web 題 : フレイル予防のためのチーム医療 者 : 内田明子、斎藤知栄
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 56 回日本側彎症学会学術集会 日 : 2022 年 11 月 4 日～ 5 日 所 : 千葉県浦安市 題 : 思春期特発性側彎症装具治療における温度ロガーを用いた装具装着時間の実態調査 者 : 木村弘美

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 49 回千葉県透析研究会 日 : 2022 年 12 月 4 日 所 : 千葉県千葉市 題 : 透析療法選択における協働意思決定の重要性と環境的变化 者 : 内田明子
-----------------------	--------	---

『講義』

講 開 場 演 演	義 催	名 : 日本看護協会 認定看護師教育課程 日 : 通年 所 : 動画 題 : 共通科目「相談」 者 : 高橋弥生
-----------------------	--------	--

講 開 場 演 演	義 催	名 : 看護管理 日 : 2022 年 4 月 12 日 所 : 東都大学 題 : 看護管理 者 : 内田明子
-----------------------	--------	---

講 開 場 演 演	義 催	名 : 日本腎不全看護学会 治療選択特別研修 日 : 2022 年 4 月 17 日 所 : Web 題 : 治療選択の意思決定支援に必要な多職協働・専門職連携 者 : 内田明子
-----------------------	--------	---

講 開 場 演 演	義 催	名 : 神奈川工科大学 チーム医療論 日 : 2022 年 7 月 所 : Web 題 : 看護師が求める臨床工学技士との関わり 者 : 内田明子
-----------------------	--------	---

講 開 場 演 演	義 催	名 : 新人看護師への先輩からの言葉 日 : 2022 年 8 月 10 日 所 : 千葉県看護協会 Web 者 : 鈴木里奈
-----------------------	--------	--

講 開 場 演 演	義 催	名 : 当院における職種介入による CKD 教育入院の実践とその効果 日 : 2022 年 11 月 3 日 所 : ホテルポートプラザちば 題 : CKD 教育入院における看護師の役割 者 : 田村愛
-----------------------	--------	---

講 開 場 演 演	義 催	名 : NST 講習 日 : 2022 年 12 月 2 日 所 : 聖隷佐倉市民病院 題 : 糖尿病患者の栄養管理について 者 : 長谷川裕美
-----------------------	--------	--

講 開 場 演 演	義 催	名 : 昭和大学 腎不全看護概論 日 : 2022 年 12 月 8 日 所 : 東京都品川区 題 : 腎不全看護における倫理、診療報酬 者 : 内田明子
-----------------------	--------	---

講義名 : 慢性期看護援助論
開催日 : 2022年12月20日
会場所 : 東京医療保健大学
演題 : 慢性期看護援助論
演者 : 高橋弥生

講義名 : 血糖コントロールに係る薬剤投与関連
開催日 : 2023年2月21日
会場所 : 日本看護協会看護研修学校
演題 : 血糖コントロールに係る薬剤投与の管理の実際と記録方法
演者 : 高橋弥生

『講演』

講演会名 : チームで診る骨粗鬆症
開催日 : 2022年5月10日
会場所 : 千葉県
講演者 : 当院の OLS 活動 : 看護師の役割
演者 : 宮崎木の実

講演会名 : 帝人ヘルスケア株式会社 職員研修会
開催日 : 2022年5月18日
会場所 : 千葉県成田市
講演者 : 糖尿病ケアの最新知見
演者 : 高橋弥生

講演会名 : 広島西部地区病病・病診連携講演会
開催日 : 2022年5月20日
会場所 : Web
講演者 : 高齢腎不全患者への療法選択支援
演者 : 内田明子

講演会名 : 印旛医療圏 DM 連携講演会
開催日 : 2022年7月13日
会場所 : 千葉県成田市
講演者 : 糖尿病看護認定看護師からみる糖尿病治療の実際と課題
演者 : 高橋弥生

講演会名 : 腎代替療法スキルアップセミナー
開催日 : 2022年8月4日
会場所 : Web
講演者 : 認知機能低下のある透析患者のケアと腎代替療法専門指導士
演者 : 内田明子

講演会名 : 千葉県腎疾患対策 Web 講演会 2022
開催日 : 2022年10月27日
会場所 : Web
講演者 : 腎臓病療養指導士による効果的な多職種連携
演者 : 内田明子

講演会名 : 広島西部地区病病・病診連携講演会
開催日 : 2023年1月13日
会場所 : Web
講演者 : 認知機能低下のある透析患者の治療とケア
演者 : 内田明子

講演	演 会	名	:	横須賀・透析 WEB ショートセミナー
開場	催	日	:	2023 年 1 月 17 日
講		所	:	Web
講	演	名	:	腎代替療法選択における医療スタッフの役割
	演	者	:	内田明子
講演	演 会	名	:	腎性貧血 web セミナー
開場	催	日	:	2023 年 3 月 9 日
講		所	:	Web
講	演	名	:	腎代替療法選択における共同意思決定支援
	演	者	:	内田明子
講演	演 会	名	:	成田 CKD セミナー
開場	催	日	:	2023 年 3 月 14 日
講		所	:	ヒルトン成田 Web
講	演	名	:	腎臓病療養指導士による効果的な多職種連携
	演	者	:	内田明子
講演	演 会	名	:	第 17 回腎と透析研究会
開場	催	日	:	2023 年 3 月 18 日
講		所	:	Web
講	演	名	:	認知症透析患者との向き合い方
	演	者	:	内田明子

『その他』

そ	の	他	:	医学書院「週刊医学界新聞」
日		付	:	2022 年 7 月 16 日
場		所	:	Web
題		名	:	慢性腎臓病看護の変遷と課題、今後の展望
氏		名	:	内田明子
そ	の	他	:	認定看護管理者教育課程サードレベル
日		付	:	2022 年 9 月 16 日
場		所	:	聖隷佐倉市民病院
題		名	:	看護管理者のシャドウイング実習受入 (中東遠総合医療センター看護師長 鈴木智子)
氏		名	:	内田明子、別宮尚美
そ	の	他	:	認定看護管理者教育課程サードレベル
日		付	:	2022 年 9 月 30 日
場		所	:	聖隷佐倉市民病院
題		名	:	統合演習Ⅲ実習受入(西典子)
氏		名	:	内田明子

『会議』

会	議	名	:	日本糖尿病教育・看護学会 評議員
開	催	日	:	年 8 回程度
場		所	:	各所
出	席	者	:	高橋弥生

会 開 場 出	議 催 席	名 : 昭和大学認定看護師研修センター 教員会 日 : 2022年5月27日、9月6日、2023年3月9日、24日 所 : 東京 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 日本腎代替療法医療専門職推進協会 理事会 日 : 2022年5月28日、12月10日、2023年3月25日 所 : 東京 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 千葉県 AGP 糖尿病療養支援 Web 座談会 日 : 2022年6月15日 所 : 千葉県 AGP 糖尿病療養支援 Web 座談会 者 : 長谷川裕美
会 開 場 出	議 催 席	名 : 日本腎臓財団 評議員 日 : 2022年6月17日、2023年2月17日 所 : Web 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 日本高齢者腎不全研究会 世話人会 日 : 2022年7月30日 所 : 東京 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : AMED CKD 多職種連携エビデンス構築班 会議 日 : 2022年8月27日 所 : Web 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 千葉県腎疾患対策講演会 世話人会 日 : 2022年10月27日 所 : 千葉 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : CKD チーム医療研究会 世話人会 日 : 2022年10月29日 所 : 東京 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 千葉県看護協会 印旛地区部会 日 : 2022年11月18日、2023年2月24日 所 : Web 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会評議員会 日 : 2023年2月24日 所 : 京王プラザホテル 者 : 高野弘栄
会 開 場 出	議 催 席	名 : 腎臓病療養指導士試験認定委員会・合同委員会 日 : 2023年2月26日 所 : Web 者 : 内田明子

会議名 : CKD 重症化予防のための診療体制構築及び多職種連携モデル事業実施
法人選定審査委員会
開催日 : 2023 年 3 月 15 日～ 27 日
場所 : Web
出席者 : 内田明子

『研修』

研修名 : 日本腎臓病協会 Diamond PJ プレスセミナー
開催日 : 2022 年 3 月 1 日
場所 : Web
講師名 : 腎臓病療養指導士の役割と実際
名 : 内田明子

研修名 : Jann 腎代替療法特別研修
開催日 : 2022 年 4 月 17 日
場所 : Web
講師名 : 治療選択に関わる多職種協働・専門職連携のあり方
名 : 内田明子

研修名 : 広島西部地区病病・病診連携講演会
開催日 : 2022 年 5 月 20 日
場所 : Web
講師名 : 高齢腎不全患者への療法選択支援
名 : 内田明子

研修名 : 腎代替療法スキルアップセミナー
開催日 : 2022 年 8 月 4 日
場所 : Web
講師名 : 認知機能低下のある透析患者のケアと腎代替療法専門指導士
名 : 内田明子

医療技術部

【検査科】

『国内学会』

学 会 名 : 第8回聖隷福祉事業団 聖隷検査部門合同学術集会
開 催 日 : 2022年10月22日
場 所 : 千葉県佐倉市(Web)
演 題 : 呼気一酸化窒素濃度検査の測定方法と有用性について
演 者 : 小出瑤美

学 会 名 : 第8回聖隷福祉事業団 聖隷検査部門合同学術集会
開 催 日 : 2022年10月22日
場 所 : 千葉県佐倉市(Web)
演 題 : 腹部超音波検査における前立腺計測方法および前立腺肥大因子の検討
演 者 : 吉野滋輝

『講義』

講 義 名 : 国際医療福祉大学 医学検査学科講義
開 催 日 : 2022年12月22日
場 所 : 国際医療福祉大学 成田キャンパス
演 題 : 臨床検査技師の仕事 ～現場目線から～
演 者 : 舎川衛

【薬剤科】

『論文』

雑 誌 名 : Evidence Update2023
題 名 : 骨粗鬆症治療薬
著 者 : 鈴木諒
巻、ページ、年度 : P101-104、2023

『国内学会』

学 会 名 : 日本病院薬剤師会 関東ブロック第52回学術大会
開 催 日 : 2022年8月20日
場 所 : 神奈川県横浜市
演 題 : トレーシングレポート導入後における現状把握と課題の検討
演 者 : 北田絢子

学 開 場 演 演	会 催	名 : 日本病院薬剤師会 関東ブロック第 52 回学術大会 日 : 2022 年 8 月 20 日 所 : 神奈川県横浜市 題 : セファレキシシンおよびアモキシシリン／クラブラン酸の採用が経口抗菌薬 の選択に与える影響 者 : 須川悠花
学 開 場 演 演	会 催	名 : 聖隷薬剤部門 学術発表会 日 : 2023 年 2 月 4 日 所 : 静岡県浜松市 題 : ポリファーマシーにおける現状調査 者 : 市村仁志
学 開 場 演 演	会 催	名 : 聖隷薬剤部門 学術発表会 日 : 2023 年 2 月 4 日 所 : 静岡県浜松市 題 : セファレキシシンおよびアモキシシリン／クラブラン酸の採用が経口抗菌薬 の選択に与える影響 者 : 須川悠花
学 開 場 演 演	会 催	名 : 聖隷薬剤部門 学術発表会 日 : 2023 年 2 月 4 日 所 : 静岡県浜松市 題 : 手術室における薬剤師業務の現状と今後の展望 者 : 土橋夏美
学 開 場 演 演	会 催	名 : 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023 日 : 2023 年 3 月 4 日～ 5 日 所 : 愛知県名古屋市 題 : 当院におけるアベマシクリブ錠の使用状況 者 : 天野正康

『講演』

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名 : 佐倉 CKD スキルアップセミナー 日 : 2022 年 4 月 13 日 所 : 千葉県佐倉市(Web) 名 : CKD における薬剤師の役割 者 : 飯塚由佳
講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名 : チームで診る骨粗鬆症治療 日 : 2022 年 5 月 10 日 所 : 千葉県君津市 名 : OLS における薬剤師の役割 者 : 鈴木諒
講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名 : 薬剤部門 専門情報交換会 日 : 2022 年 10 月 6 日 所 : 千葉県佐倉市(Web) 名 : 佐倉における OLS 者 : 鈴木諒

講演会場	名	香取郡市医師会学術講演会
開催日	日	2022年10月26日
講演場所	所	千葉県佐原市(Web)
講演者	名	CKD診療における薬剤師の役割
	者	飯塚由佳
講演会場	名	浜松 FLS 地域連携講演会
開催日	日	2022年10月28日
講演場所	所	千葉県佐倉市(Web)
講演者	名	薬剤視点から考える OLS
	者	鈴木諒
講演会場	名	令和4年度千葉県内科医会中央集会
開催日	日	2022年11月3日
講演場所	所	千葉県千葉市
講演者	名	当院における多職種介入によるCKD教育入院の実践とその効果
	者	飯塚由佳
講演会場	名	佐倉薬剤師ネットワーク研修会
開催日	日	2023年2月15日
講演場所	所	千葉県佐倉市(Web)
講演者	名	ICIの副作用マネジメントと薬薬連携の必要性について
	者	天野正康
講演会場	名	第2回せいれいレジメン茶屋(座長)
開催日	日	2023年3月8日
講演場所	所	千葉県佐倉市(Web)
講演者	名	ddAC、ddPTX
	者	富田歩子
講演会場	名	第2回せいれいレジメン茶屋
開催日	日	2023年3月8日
講演場所	所	千葉県佐倉市(Web)
講演者	名	ddAC、ddPTX
	者	桑原健太
講演会場	名	第14回印旛薬剤師フォーラム(座長)
開催日	日	2023年3月23日
講演場所	所	千葉県佐倉市
講演者	名	喘息・COPDと、その診断・治療
	者	富田歩子

『その他』

その日場題氏	の	他	日経メディカル連載コラム 抗菌薬はAST専従薬剤師にお任せを！
		付	2022年8月26日
		所	日経メディカル(Web)
		名	脊椎インプラントの術後感染症に抗菌薬をどう使う？
		名	平野公基
その日場題氏	の	他	週刊・薬事新報
		付	2022年10月13日号
		所	週刊・薬事新報(Web)
		名	出会いは宝
		名	飯塚由佳

その
日
場
題
氏

の

他 : 第 12 回 千葉県骨粗鬆症マネージャー連携協議会
 付 : 2023 年 2 月 25 日
 所 : 千葉県千葉市
 名 : パネリスト
 名 : 鈴木諒

【放射線科】

『国内学会』

学 会 名 : 第 38 回日本診療放射線技師学術大会
 開 催 日 : 2022 年 9 月 16 日～18 日
 場 所 : 兵庫県神戸市
 演 題 : 2D balanced SSFP を使用した 後区域胆管枝描出の検討
 演 者 : 片岡義貴

学 会 名 : 第 25 回聖隷放射線部門合同学術大会
 開 催 日 : 2023 年 3 月 8 日
 場 所 : 静岡県浜松市
 演 題 : PCI における専門技師の積極的な関わりについて
 - 最大皮膚線量の管理 -
 演 者 : 渡邊強

学 会 名 : 千葉県診療放射線技師会学術大会
 開 催 日 : 2023 年 3 月 26 日
 場 所 : Web
 演 題 : 当健診センターの MRCP と腹部超音波検査との比較
 演 者 : 上原陸

『講義』

講 義 名 : 2022 年度 聖隷放射線部 第 1 回初級 1 年目 Web 研修
 開 催 日 : 2022 年 4 月 23 日
 場 所 : Web
 演 題 : 聖隷放射線部門の組織について
 演 者 : 園田優

講 義 名 : リハビリテーション学科 3 年生
 開 催 日 : 2022 年 6 月 3 日
 場 所 : 植草学園大学
 演 題 : 画像診断学
 演 者 : 園田優

講 義 名 : リハビリテーション学科 3 年生
 開 催 日 : 2022 年 6 月 17 日
 場 所 : 植草学園大学
 演 題 : 画像診断学
 演 者 : 園田優

講 義 名 : 循環器チーム運営会議勉強会
開 催 日 : 2022年11月8日
場 所 : 聖隷佐倉市民病院
演 題 : CTO症例における線量管理
演 者 : 渡邊強

講 義 名 : 第4回専門性向上の為の勉強会
開 催 日 : 2022年11月19日
場 所 : Web
演 題 : 核医学の基礎
演 者 : 高石真人

『講演』

講 演 会 名 : 第14回 OMNIBUS 勉強会
開 催 日 : 2022年6月4日
場 所 : Web
講 演 名 : 身に付けよう肩関節 MRI の基礎
講 演 者 : 片岡義貴

講 演 会 名 : 千葉県放射線技師会 フレッシュヤーズセミナー
開 催 日 : 2022年6月5日
場 所 : Web
講 演 名 : 医療安全
講 演 者 : 金子貴之

講 演 会 名 : 第18回千葉県放射線技術フォーラム (CRTF)
開 催 日 : 2023年2月23日
場 所 : Web
講 演 名 : 血管撮影領域におけるAI利用について
講 演 者 : 渡邊強

『その他』

そ の 他 : 一般社団法人 千葉県放射線医師会
日 付 : 2022年11月15日
場 所 : 技師会誌 せんぼう11月号
題 名 : ワンオペ育児風景
氏 名 : 多田百未

【栄養科】

『講義』

講 義 名 : 公益社団法人 愛知県看護協会 摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程
開 催 日 : 2022年12月12日
場 所 : Web
演 題 : 嚥下調整食の知識
演 者 : 石野智子

『講演』

講演会名 : 内科医会中央集会
開催日 : 2022年11月3日
会場所 : 千葉県千葉市
講演者名 : 教育入院患者の栄養管理について～栄養科の取り組み～
講演者 : 小倉文子

講演会名 : 千葉よりよいCKD治療と連携を考える
開催日 : 2023年3月17日
会場所 : 千葉県千葉市
講演者名 : CKD患者の栄養管理と他職種連携について
講演者 : 小倉文子

【臨床工学室】

『国内学会』

学会名 : 第32回日本臨床工学会(座長)
開催日 : 2022年5月14日～15日
会場所 : 茨城県つくば市
演題 : 内視鏡分野
演者 : 中條馨代

学会名 : 第2回関東甲信越臨床工学技士会
開催日 : 2022年11月13日
会場所 : 神奈川県横浜市
演題 : HOT導入教育の実際と今後の展望
演者 : 新井茜

学会名 : 第27回千葉県臨床工学会
開催日 : 2023年3月12日
会場所 : 千葉県千葉市
演題 : 消化器軟性内視鏡細菌定期培養検査方法の検討
演者 : 新井茜

学会名 : 第27回千葉県臨床工学会
開催日 : 2023年3月12日
会場所 : 千葉県千葉市
演題 : 自作テスト性能評価
演者 : 藤田楓基

【リハビリテーション室】

『論文』

雑誌名 : Progress in Rehabilitation Medicine
題名 : Effectiveness and Safety of Rehabilitation for Pediatric Patients with Nephrotic Syndrome in the Acute Phase: A Case Study.
著者 : Tabata A, Yabe H, Mitake Y, Shirai T, Yoshida M, Kurosu R, Kawamura K.
巻、ページ、年度 : 2022 Aug 10;7:20220040.

- 雑誌名 : Renal Replacement Therapy
 題名 : Investigation of presenteeism, physical function, and exercise habits in workers with CKD: three case reports with literature review.
 著者 : Tabata A, Yabe H, Katogi T, Yamaguchi T, Mitake Y, Shirai T, Fujii T.
 巻、ページ、年度 : 2022;8(1):16.
- 雑誌名 : 日本腎臓リハビリテーション学会誌
 題名 : 高齢保存期 CKD 患者の運動習慣に関連する因子
 Young Investigator Award 奨励賞 受賞報告
 著者 : 大野隼汰
 巻、ページ、年度 : 2022;1(2):289-290
- 雑誌名 : JPTA NEWS6 月号 ケーススタディ
 題名 : 継続的な二次性骨折予防に係る評価の新設
 著者 : 加藤木丈英
 巻、ページ、年度 : 特集 令和 4 年度 診療報酬改定 9 ページ
- 雑誌名 : Journal of Spine Research 【原著】ベストペーパー
 題名 : 思春期特発性側彎症における脊椎可動性温存の重要性と健康関連 QOL
 著者 : 加藤木丈英、奥村太朗、小谷俊明、飯島 靖、佐久間毅、南昌平
 巻、ページ、年度 : 第 13 巻、11 号、pp1186-1194、2022
- 雑誌名 : 日本臨床
 題名 : 【最新の骨粗鬆症学(第 2 版)- 骨粗鬆症学の最新知見 -】
 骨粗鬆症の予防, 治療, 管理 骨粗鬆症患者の指導 運動療法
 著者 : 加藤木丈英、小谷俊明、岸田俊二、飯島靖、藤井隆之
 巻、ページ、年度 : 第 81 巻、増刊 1、最新の骨粗鬆症学、pp267-271、2023
- 雑誌名 : 日本医師会雑誌
 題名 : 【大腿骨近位部骨折患者における二次性骨折予防の実際】
 骨粗鬆症リエゾンサービスと多職種連携
 著者 : 小谷俊明、岸田俊二、加藤木丈英
 巻、ページ、年度 : 第 151 巻、11 号、pp1927-1931、2023
- 雑誌名 : 臨床整形外科
 題名 : 特集 二次骨折予防に向けた治療管理
 二次骨折予防のためのリハビリテーション・運動指導
 著者 : 加藤木丈英、岸田俊二、小谷俊明、飯島靖、藤井隆之
 巻、ページ、年度 : 第 58 巻、第 3 号、pp218-288、2023

『国内学会』

- 学会名 : 第 48 日本血液浄化技術学会学術大会・総会
 開催日 : 2022 年 4 月 24 日
 会場所 : 北海道札幌市 (Web)
 演題 : Differences in circulatory responses and changes in skeletal muscle blood flow during aerobic exercise at different times of the day in hemodialysis patients: comparison between non-dialysis days and post-dialysis days
 演者 : 三嶽侑哉、矢部広樹、田畑吾樹、白井智裕、藤井隆之
- 学会名 : 第 48 日本血液浄化技術学会学術大会・総会
 開催日 : 2022 年 4 月 24 日
 会場所 : 北海道札幌市 (Web)
 演題 : Factors affecting health-related quality of life in older patients with chronic kidney disease: a single-center cross-sectional study
 演者 : 田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、山口智也、三嶽侑哉、藤井隆之

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 64 回日本老年医学会学術集会 シンポジウム 日 : 2022 年 6 月 2 日～ 4 日 所 : 大阪府大阪市 題 : 骨粗鬆症リエゾンサービスで骨折転倒を予防する！ 者 : 加藤木丈英、岸田俊二、宮崎木の実、木村弘美、東牧子、小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 23 回日本語聴覚学会 日 : 2022 年 6 月 24 日～ 25 日 所 : 新潟県新潟市 題 : 輪状咽頭筋切断術・甲状軟骨舌骨固定術術後への Tongue-Strengthening Exercise は最大舌圧とオトガイ舌骨筋量を変化させる 者 : 清宮悠人、後藤華奈、宮森陽子、高島寿美恵、津田豪太
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 24 回日本骨粗鬆症学会 シンポジウム 12 日 : 2022 年 9 月 2 日～ 4 日 所 : Web 題 : 理学療法士という立場から考えるチームビルディング 者 : 加藤木丈英、岸田俊二、小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 28 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 日 : 2022 年 9 月 23 日～ 24 日 所 : 千葉県千葉市 題 : 嚥下機能改善手術後における摂食嚥下リハビリテーションの実際 者 : 清宮悠人、高島寿美恵、仲宗根和究、石野智子、オモレゲ尚子、川上里奈、玉置美和子、津田豪太
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 28 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 日 : 2022 年 9 月 23 日～ 24 日 所 : 千葉県千葉市 題 : 耳鼻咽喉科医とのチームで目指す”再び食べたい”を支える取り組み 者 : 清宮悠人、高島寿美恵、仲宗根和究、石野智子、オモレゲ尚子、川上里奈、玉置美和子、津田豪太
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 28 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 日 : 2022 年 9 月 23 日～ 24 日 所 : 千葉県千葉市 題 : Effects of the suprahyoid muscle strength training in post-extubation dysphagia with COVID-19 者 : Yuto kiyomiya, Masako Fujii- Kurachi, Gota Tsuda
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 49 回日本肩関節学会、第 19 回日本肩の運動機能研究会 日 : 2022 年 10 月 7 日～ 8 日 所 : 神奈川県横浜市 題 : 鏡視下腱板修復術の術後成績 —術前肩関節拘縮の影響について— 者 : 小川侑男、梶原大輔、奥村太朗、廣田知佐恵、桑原康太
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 49 回日本肩関節学会、第 19 回日本肩の運動機能研究会 日 : 2022 年 10 月 7 日～ 8 日 所 : 神奈川県横浜市 題 : ARCR 後の肩の活動レベルに影響を与える関連因子の検討 者 : 奥村太朗、梶原大輔、小川侑男、廣田知佐恵、桑原康太
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 49 回日本肩関節学会、第 19 回日本肩の運動機能研究会 日 : 2022 年 10 月 7 日～ 8 日 所 : 神奈川県横浜市 題 : 鏡視下腱板修復術後 5 週の他動可動域が治療成績に与える影響 者 : 桑原康太、梶原大輔、奥村太朗、小川侑男、廣田知佐恵

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 56 回日本側彎症学会学術集会 日 : 2022 年 11 月 4 日～ 5 日 所 : 千葉県浦安市 題 : lumbar stiffness disability index を用いた術後 AIS 患者の 日常生活動作の経時的変化 者 : 奥村太朗、加藤木丈英、飯島靖、佐久間毅、小谷俊明、南昌平
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 56 回日本側彎症学会学術集会 ショートシンポジウム 日 : 2022 年 11 月 4 日～ 5 日 所 : 千葉県浦安市 題 : 思春期特発性側弯症患者における脊椎可動性温存の重要性と健康関連 QOL 者 : 加藤木丈英、小谷俊明、奥村太朗、飯島靖、佐久間毅、南昌平
学 開 場 演 演	会 催	名 : 印旛ブロック主催 症例検討会Ⅷ 日 : 2022 年 11 月 24 日 所 : Web 題 : 高齢保存期 CKD 患者の透析導入期における運動療法効果について 者 : 大野隼汰、三嶽侑哉、田畑吾樹、加藤木丈英、白井智裕
学 開 場 演 演	会 催	名 : 印旛ブロック主催 症例検討会Ⅷ 日 : 2022 年 11 月 24 日 所 : Web 題 : 初発の小児ネフローゼ症候群患者における運動療法の効果と 安全性の検討 者 : 田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、山口智也、三嶽侑哉
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 4 回聖隷リハビリテーション学会 日 : 2022 年 11 月 27 日 所 : Web 題 : 保存期 CKD 患者におけるプレフレイルの関連要因の検討 - 就労の有無に着目した横断的研究 - 者 : 田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、三嶽侑哉、大野隼汰、白井智裕、 藤井隆之
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 4 回聖隷リハビリテーション学会 日 : 2022 年 11 月 27 日 所 : Web 題 : 高齢保存期 CKD 患者の透析導入期における運動療法効果について 者 : 大野隼汰、三嶽侑哉、田畑吾樹、加藤木丈英、白井智裕
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 28 回千葉県理学療法士学会 日 : 2023 年 3 月 5 日 所 : 千葉県東金市 題 : 「印旛ブランド」構築の歩み 者 : 加藤木丈英、豊岡毅
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 28 回千葉県理学療法学会 日 : 2023 年 3 月 5 日 所 : 千葉県東金市 題 : 就労中の保存期慢性腎臓病患者における運動習慣に関する調査 者 : 田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、三嶽侑哉、大野隼汰、山口智也、 藤井隆之

学開場演 会催 名 : 第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
 日 : 2023年3月18日
 所 : 埼玉県さいたま市
 題 : 保存期慢性腎臓病患者の骨密度に影響を与える因子は何か？
 者 : 加藤木丈英、藤井隆之、三嶽侑哉、田畑吾樹、大野隼汰、鈴木理志

学開場演 会催 名 : 第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
 日 : 2023年3月18日
 所 : 埼玉県さいたま市
 題 : 保存期慢性腎臓病(CKD)患者のQOLに影響を与える因子の検討
 者 : 島袋匠、加藤木丈英、田畑吾樹、白井智裕、藤井隆之

学開場演 会催 名 : 第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
 日 : 2023年3月19日
 所 : 埼玉県さいたま市
 題 : 外来維持透析患者におけるShort physical performance batteryと予後の関連
 者 : 三嶽侑哉、矢部広樹、山口智也、田畑吾樹、島袋匠、加藤木丈英、大野隼汰、白井智裕、藤井隆之

学開場演 会催 名 : 第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
 日 : 2023年3月19日
 所 : 埼玉県さいたま市
 題 : 就労中のCKD患者における労働機能障害の実態と関連要因の検討
 者 : 田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、三嶽侑哉、大野隼汰、山口智也、藤井隆之

学開場演 会催 名 : 第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
 日 : 2023年3月19日
 所 : 埼玉県さいたま市
 題 : 高齢保存期CKD患者の透析導入期における運動療法効果について：1症例での検討
 者 : 大野隼汰、三嶽侑哉、田畑吾樹、加藤木丈英、白井智裕

『講義』

講開場演 義催 名 : リハビリテーションチーム論
 日 : 2022年7月18日
 所 : 日本保健医療大学
 題 : リハビリテーションチーム論
 者 : 加藤木丈英

講開場演 義催 名 : 印旛ブロック主催運動器研修会
 日 : 2022年8月25日
 所 : Web
 題 : 腱板断裂術後理学療法について
 者 : 奥村太朗

講開場演 義催 名 : 第19回日本側彎症学会研修セミナーベーシックコース
 日 : 2022年12月17日
 所 : Web
 題 : 術前後の評価 リハのポイント(special session 9-リハビリテーション)
 者 : 加藤木丈英

『講演』

講演会	名	: OLS Start-up Seminar <骨粗鬆症リエゾンサービスの始め方>
開催	日	: 2022年4月21日
会場	所	: 千葉県佐倉市(Web)
講演	名	: 骨粗鬆症リエゾンサービスをはじめて得したこと・良かったこと・少しだけ大変だったこと!
講演	者	: 加藤木丈英
講演会	名	: 第5回会津骨粗鬆症連携フォーラム
開催	日	: 2022年6月10日
会場	所	: 福島県会津市
講演	名	: 聖隷佐倉市民病院のFLS/OLSにおけるマネージャーの役割と実際
講演	者	: 加藤木丈英、小谷俊明
講演会	名	: 骨粗鬆症地域連携セミナー
開催	日	: 2022年6月17日
会場	所	: 千葉県佐倉市(Web)
講演	名	: 骨粗鬆症治療における地域連携について(座長)
講演	者	: 加藤木丈英
講演会	名	: 第11回千葉県骨粗鬆症マネージャー連携協議会
開催	日	: 2022年6月18日
会場	所	: 千葉県千葉市
講演	名	: 1年目から上手いく! FLS診療報酬入門(パネルディスカッション座長)
講演	者	: 加藤木丈英、石川哲大
講演会	名	: 秋田骨粗鬆症連携セミナー
開催	日	: 2022年8月10日
会場	所	: Web
講演	名	: 聖隷佐倉市民病院における二次骨折予防と多職種連携の実際
講演	者	: 加藤木丈英
講演会	名	: 日本理学療法士協会 診療報酬改定を踏まえた動画コンテンツ
開催	日	: 2022年9月21日
会場	所	: Web
講演	名	: 二次性骨折予防における理学療法士の役割と理学療法士に期待すること
講演	者	: 加藤木丈英
講演会	名	: 浜松 FLS 地域連携講演会
開催	日	: 2022年10月28日
会場	所	: Web
講演	名	: 聖隷佐倉市民病院での職域を脱した独自の OLS システム構築 - 理学療法士として、チームリーダーとして -
講演	者	: 加藤木丈英
講演会	名	: 島根県骨粗鬆症サポーター研修会
開催	日	: 2022年11月26日
会場	所	: 島根県出雲市
講演	名	: 二次性骨折の next stage とは? - 更なるイノベーションを求めて -
講演	者	: 加藤木丈英
講演会	名	: 帝人ヘルスケア株式会社勉強会
開催	日	: 2023年2月27日
会場	所	: 千葉県佐倉市(Web)
講演	名	: 当院の骨粗鬆症リエゾンサービスのこれまでとこれから
講演	者	: 加藤木丈英

講演会名 : 第2回横浜北部・川崎北部骨粗鬆症治療地域連携フォーラム
開催日 : 2023年3月14日
場所 : 神奈川県横浜市
講演名 : 聖隷佐倉市民病院のOLS/FLS Ver.1.0から2.0へのシフトチェンジ
- 更なるイノベーションを目指して -
講演者 : 加藤木丈英

院内研修

2022年度実績

病院の理念を基盤に、よりよい医療を実践するための人づくりを目的として、以下の研修を実施した。

新入職員導入研修

ね ら い : 聖隷佐倉市民病院職員としての自覚を持つ
日 時 : 2022年4月1日(金)
対 象 : 新卒及び新卒と同等と職場長がみなす職員
参 加 者 : 30名

新人研修

ね ら い : 就職してから今日までを振り返り、明日からの力とする
日 時 : 2022年5月26日(木)～27日(金) 2日間
対 象 : 新卒及び新卒と同等と職場長がみなす職員
参 加 者 : 17名

2年目研修

ね ら い : 効果的なコミュニケーションのあり方を身に付けるきっかけとする
日 時 : 2022年6月24日(金)
対 象 : 卒後2年目就職者または同等と職場長がみなす職員
参 加 者 : 23名

ステップアップ研修

ね ら い : コーチングのスキルを身につけるとともに、効果的なOJTについて学ぶ
日 時 : 2022年9月8日(木)～9日(金) 2日間
延期により2023年度6月に開催予定
対 象 : 卒後4年目以上または同等と職場長がみなす職員
参 加 者 : 31名(予定)

中堅研修

ね ら い : 効果的なリーダーシップを身につけるきっかけとする
業務における問題点を明確にするとともに、解決法を学び対策を見出す
問題解決に向け実行する力を身につける
日 時 : 2022年11月1日(火)～2日(水) 2日間
対 象 : 概ね5年以上の経験を持ち、次期役職候補と期待される職員
参 加 者 : 12名

中堅フォローアップ研修

ね ら い : 中堅研修の振り返りと問題解決課題の成果を確認し解決法を確実に自分のものとする
日 時 : 2023年2月24日(金)
対 象 : 中堅研修参加者
参 加 者 : 12名

聖隷佐倉市民病院 第17回院内学会 プログラム

テーマ：地域に信頼され、選ばれる病院を目指して～ひとり残らずファンにするっ！～

開催日：2023年2月18日（土）

開催場所：聖隷佐倉市民病院 6階ホール

第1群 座長 岡野 房枝

1	外来マンモグラフィ検査における待ち時間短縮への取り組み	放射線科	佐藤 美帆
2	鏡視下腱板修復術後5週の他動可動域が術後成績に与える影響	リハビリテーション室	桑原 康太
3	患者の意見を反映した病院食改善の取り組み	栄養科	岸本 顕子
4	CKD看護外来の現状と今後の課題 腎代替療法選択の意思決定支援の実際	外来	山本 真紀

第2群 座長 浦辺 憲一

5	焦点深度拡張型眼内レンズ挿入眼での中間視力の評価・検討	眼科検査室	齋藤 史行
6	腹部超音波検査における体位変換による膵臓描出能の検討	検査科	穂元 幸紀
7	人工股関節置換術後の睡眠状況調査	B3病棟	鈴木 里奈
8	外来血液透析患者の透析後疲労感に関連する因子の検討	透析センター	井上 利紗

第3群 座長 金崎 葵

9	外来医事課の業務連携強化について	外来医事課	清水嶋 里美
10	ASOに対してレオカーナを施行した症例	臨床工学室	川上 未有
11	ポリファーマシーにおける現状調査	薬剤科	市村 仁志
12	一定の退院調整をするために	A5病棟	田生 友美

【特別講演】眼科と古い

眼科部長

坂本 理之

聖隷佐倉市民病院 キャンサーボード

2022 年度実績

● 第1回 キャンサーボード

開催日：2022年5月26日 17:30～ 医局会議室

〈症例検討〉 乳腺外科 木谷 哲 医師
「大腿骨転移に対する整形外科的手術の適応について」

● 第2回 キャンサーボード

開催日：2022年6月23日 17:30～ 医局会議室

〈症例検討〉 整形外科 中島 貴子 医師
「原発不明がん多発骨肺転移 右上腕骨骨折の症例」

● 第3回 キャンサーボード

開催日：2022年11月24日 17:30～ 医局会議室

〈症例提示〉 乳腺外科 木谷 哲 医師
「がんゲノムパネル検査を用いて、適切な治療選択が行われた一例」

● 第4回 キャンサーボード

開催日：2023年3月23日 17:30～ 医局会議室

〈ディスカッション〉 乳腺外科 木谷 哲 医師
「当院の IrAE の現状と対策について」

2022 年度 病院年報

- 発行日 ● 2023年7月
編集 ● 総合企画室
発行 ● 社会福祉法人 聖隷福祉事業団

聖隷佐倉市民病院

〒285-8765

佐倉市江原台2丁目36番2

TEL 043-486-1151

FAX 043-486-8696

ホームページ <http://www.seirei.or.jp/sakura/>
